超能力開発特集

UFO contactee

GAP-JAPAN NEWSLETTER

UFO/超能力/宇宙哲学

コンタクティー

テレパシー開発法とUFOの実態

マチュピチュとナスカの謎

私はペルーでUFOを見た

アダムスキーに会った唯一の日本人(完)

超能力開発の基礎レッスン

宇宙哲学を生かした超能力開発法

WINTER
1989

107

UFO contactee No. 107

CONTENTS <Dedicated to Space Brothers and Cosmic Consciousness.>

〈巻頭言〉UFOと地球世界 1

テレパシー開発法とUFOの実態 G.アダムスキー 2

マチュピチュとナスカの謎 久保田八郎 8
私はペルーでUFOを見た 富岡設子 18
アダムスキーに会った唯一の日本人(完) 向井 裕 20
科学-Science 24
GAP短信 26
分子生物学が示唆するアダムスキーの体験の絶対的真実性 原 永庫 28

総会講演集
①超能力開発の基礎レッスン 斉藤庄一 30
②宇宙哲学を生かした超能力開発法 遠藤昭則 34

今年度日本GAP総会、開幕 40
宇宙哲学的療法を応用 塩谷信男 42
青空に「GAP」の文字が! 大山昭子 43
〈写真〉天童市に出現したUFO 44
〈写真〉富士山から撮ったUFO 45
本誌バックナンバー掲載記事目録 46
〈投稿欄〉ユーコン広場 47
〈予告〉長野支部大会 49
〈広告〉アダムスキー全集／英文版ユーコンNo.5／編集後記 50
日本GAP全国月例研究会案内 51

◀金星人からジョージ・アダムスキーに伝えられた金星のシンボルマーク。2個の図形の内、左側は宇宙の父性原理(陽)、右側は母性原理(陰)を意味する。円は宇宙をあらわしている。

GAPについて

GAPは「知らせる運動」という意味の世界的なグループ活動で、世界中の人々がUFOの真相について“知る”機会を与えられるべきであるという見地に基づいて1959年にジョージ・アダムスキーによって創始されました。彼の願いは「最大多数の人が現代の真実を発見して、来たるべき時代に眼を転じること、人間はすべて“コズミック・パワー”の子であり、そのパワーの諸法則が宇宙に遍満している事実を確信をもって知ること」にありました。この諸法則は他の世界（惑星）から来る友好的な訪問者からもたらされた“生命の科学”の研究と理解を通じて体得できます。

日本GAPの目的はUFOとスペース・ブラザーズ問題を関心ある人々に伝えることにあり、奉仕活動を通じて真実の解明と宇宙の法則の実践を呼びかけることにあります。その中心思想は次のとおりです。

1. この太陽系の他の惑星群には偉大な発達をとげた人類が居住しているが、米ソ等の大国政府はこの真相を隠している。
2. 他の世界から来る人々はこの世界の政治家や科学者とひそかにコンタクト（接触）しており、危機にひんした地球に対して救援の手をさしのべている。官民を問わずスペース・ブラザーズとコンタクトしている人々が少数存在すると思われるが、通常その真相は洩らされていない。
3. ジョージ・アダムスキーがもたらした哲学は、人類の精神の向上と地球の輝かしい未来を築くために不可欠のものである。

本誌は他の団体・個人と対立するものではなく、政治・宗教と関係のない非営利刊行物です。本誌が読者に対して多少とも役立てば幸いです。

表紙写真
トゥルサのUFO
1965年8月のある夜、米オクラホマ州のトゥルサ市上空に出現したUFOを新聞少年アラン・スミスが撮影したもの。円盤が斜めに逆さになっているらしい。他にも数名の人が同時目撃している。

〈巻頭言〉

UFOと地球世界

UFO問題に関してはいまだに曖昧模糊とした論説が流れており、群盲象を評す体の意見が聞かれる。この理由は惑星探査機の調査によって我々の太陽系の惑星群は地球を除いて生命の存在しない死の天体であることが〝分かった〟という〝科学的〟な根拠が一般化したことにあると思われる。だからUFOは別な太陽系の惑星から来る物体だとか四次元世界の霊的な物で、地球の大気圏内に入ってから物質化するだの諸説紛々たる有様だ。

しかしアダムスキーによれば我々の太陽系には全部で一二個の惑星があり、しかも地球を含む全惑星群に人類が存在し、高度な文明を築いており、しかもUFOなるものは太陽系内の地球以外の惑星群から来る超高度に発達した金属の宇宙船であって、彼らは地球の救援目的で来るのであるという。

こうなると惑星探査機による〝科学的〟調査結果と真っ向から矛盾することになり、科学を絶対視したがる学者や大衆に反アダムスキー思想を植えつける結果となった。狂人、ペテン師等の汚名はいまだに消えていない。

ホワイトハウスへ無条件で出入り出来る許可証を与えられて、故ケネディー大統領とひそかに親交を保ち、宇宙問題で進言し、後のアポロ計画や惑星探査機打ち上げ計画まで知っていたアダムスキーが、全くの事実無根な話をでっちあげて、〝世紀のペテン師〟のごとき汚名を残すとは、彼の高度な知性、交友関係、深遠な哲学、学識教養等からみて考えられないことである。彼が正規の学校教育を受けていないというので無学者呼ばわりした人が少なからずいたけれども、これまで無数の人に接した編者の知る限り、高度な教育を受けた人で、宇宙や世界の裏面、生命の神秘等について何も知らず考えようともしない人が多かったと言えなくもない。大学までの教育制度では既成事実として万人に確認されるようになった事柄しか教えないので、その知識を基準にして考えるならば、未知の分野の探究や発見が奇異に映るのもやむを得ないだろう。悪魔病源説を信じていた人たちが、細菌説を打ち出したパストゥールを非難したのも、悪魔説を学校や修道院で教えていたからだ。

科学は重要である。科学の発達で地球人は図り知れぬ恩恵を蒙り、難病患者が救われる時代となった。むかしは死病と恐れられて人が患者のそばへ寄りつかなかった肺結核も、今はINHその他の抗結核薬で簡単に治る。

そしてNASA（米航空宇宙局）の高度な科学による宇宙開発も驚異的な事実を次々と発見した。地球以外の惑星、特に金星に人間が居住し、大文明を有している事実を知ったのだ。

だがこれは極秘にされてしまった。探査機が送信する画像のうち、文明の存在を示す形跡はディレイド・システムという特殊な装置により秘密裡にカットされて、あたりさわりのない部分だけをつないだまま一般に流される。これはアポロ計画で月面の状況を伝えたときの常套手段だったが、ソ連のベネラ同様、アメリカのマリナー計画でも応用されていたという。

米ソともなぜ隠蔽工作を行なうのか、隠さずに発表すればよいではないか、という声も無理からぬことだが、別な惑星群に人間が居住して偉大な文明が栄えているなどと政府が公表しようものなら価値観の大転換が起こり、教育体系の混乱、経済の大変動等の併発で収拾のつかない状態となり、大戦争の誘発にもつながるだろう。これを考えれば、米ソともしばらく大気圏外の真相を伏せておくほうがよいとも思われる。現段階の地球人の心は恐怖が主体をなしているため、別な惑星の真相などを受け入れる余裕はないからだ。むしろ地球人の自覚によってまず住家（地球）の浄化と向上を図るべきだろう。

それには我々個人が未来に対して良きビジョンやイメージを持ち、それを隣人や次代に伝えて少しでも輪を広げることが基本的に重要であると思われる。自分一人の力ではどうにもならないというマイナスの想念は禁物だろう。一人が明るい光を投げかければそれは必ず周囲を照らす。照らされた人は光の重要さと有難味を知り、さらに自分で光をかかげる。こうして光の輪が広がって巨大な光の海となる。

光とは何か。懐中電灯ではない。輝くばかりの微笑を浮かべて他人に無条件の親切さを示し、冷えきった人の心を暖める高貴な精神を意味する。万物と万人に対して常に明るいプラスのイメージを持ち、暗黒の世界に光をともす人がふえるほど、この世界は住みやすくなるだろう。そのためには心を内部の絶対的なもの——宇宙の意識に回帰させる必要がある。

このように言うと、GAPは宗教的だと評する向きもあろうが、宗教とは一切無関係だ。形而上的な問題を扱えば宗教視する人が多いけれども、アダムスキー哲学は想念波による良き因果関係の確立、テレパシックな感覚の増大、自律訓練による自己改良等を目指す精神の科学である。しかも自分さえ良くなればよいという利己的改善ではなく、他人に光を投げかける愛他的行為と、視野を宇宙に広げて大宇宙との一体感を高めることを実践する哲学である。理論に終始して他と争う段階のものではない。

（久）

Mental Telepathy and the Truth about UFOs
by George Adamski / Translated by Hachiro Kubota

UFOの真相・連載第2回

テレパシー開発法とUFOの実態

●ジョージ・アダムスキー／久保田八郎訳

テレパシー開発の練習法とUFOなるものの実態や太陽系内の各惑星に偉大な文明が存在することを説明した稀有の対談

現象の奥にひそむ〝因〟を認識

――金星には宗教があるのか。

「われわれが知っているような宗教はない。そこの住民は教会へ行ったり宗教について語ったりするかわりに、それ（宇宙の法則）を実生活で生かしているのだ。

こんなふうに説明してみよう。われわれが人間または樹木を見るとき、それは結果の世界を見ることになるのだと私は最初に話した。だが一体何が人間を動かしているのか、何が樹木を生長させているのかと、その理由を見つけようとしてわれわれは疑問を起こすことがあるだろうか？　起こしはしない。これが地球人と金星人の相違なのだ。

彼ら金星人は結果（現象）の世界を見るけれども、それは彼らが崇拝するものではない。彼らは目に見えないもの、つまり結果の世界（現象界）を作り出している原因（因の世界）を崇拝するのだ。

彼らは毎日、生活のあらゆる瞬間に創造主を崇拝している。だれもがそうしているのだ。彼らはあらゆる被創造物を尊敬する。

たとえばアメリカの科学者の一人、ルーサー・バーバンクは偉人だった。カリフォルニア州の品種改良植物園で働いていた。あるときある人が彼に尋ねた。

「あなたは神を信じますか」と。

彼は言った。

「私は毎日神とともに働いています。毎日神と直面しているのです」

みんなはバーバンクを無神論者と呼んだ。なぜなら一般人はこんなふうにしか物事を見ないからだ。彼が失意のうちに死んだとき、人々は彼が言った言葉の意味を認めなかった。一般人は大自然界の植物、動物、その他の生物、人間などを扱うとき、自分が何をやっているかを知らないからだ。その場合、人間は実際には被創造物の中に存在する創造主自身の〝現れ〟を扱っていることになるのだ。

人間には被創造物を研究するよりも、どうすればもっとうまく自分の創造主を理解できるようになるかという問題がある。これこそ人間が大自然界を扱うときに自分がやっている事なのだ」

異星人はすべて平等

――その惑星には住民を代表するグループがあるのか。

「たしかにある。これは必ずなければならないものだ。しかしそのグループは一般住民と変わらない。彼らは地球のわれわれのように階級制を持たないのだ。かりに誰かがその惑星の政府のリーダーになったとしよう。本人は配下に多くの労働者を持つかもしれない。だが本人は他の人々の上に立つ者ではない。同じレベルにあるのだ。他の一般人以上に多くの資産、多くの信用を得ることはない。たとえば他の住民は代表者がはく靴を作る地位にあったりする。代表者は座っていて、物事が間違いなくゆくように見ているが、その世界に関する限り代表者は全く他人の上に立つことはないのだ」

――政党はあるのか。

「ない。政党というものがあれば必ず分裂が生じる。そして互いに争ったりする。統一された社会には政党は存在しないし、いかなる種類の派閥もないのだ。あなたは自分の家庭で両親、兄弟姉妹のあいだに派閥を作っているか」

――ええ、作っているとも。

「派閥を作っている？　からかってはいけない。これはひどく真面目な話なのだ」

――それでは次にご説明願いたいが、金星の人々はすべて同じような考え方をするのか。

「彼らは全く同じ考え方をするわけではない。互いに意見を混ぜたりする。

完全な社会を作るにはあらゆる部分が必要であるからだ。だから考え方の相違はあるのだが、自分の派は他人の派とは違うというので自分がのけ者にされるような派閥はない」

――人間は一つの工場を経営することができるし、またそのように考えるからこそ、その地位が与えられるのだが、これについては？

「そのとおりだ。だから彼らもみな考え方が違うのだ。私としては万人が同じ事だけを考えるような世界に住みたくはない。それは退屈な世界だろう。あなたは人とは違う考え方をしないのか。このカップを作った人は、あなたとは違う考え方をしていた。この別な物を作った人はカップを作った人とは違う考え方をしていた。だが、こうした異なる考え方のすべてはみな必要なのだ」

――人々が違う考え方をし始めると、必ず闘争が起こるのではないか。

「ちがう。人々が考えることを禁じられるときにこそ闘争が起こるのだ。その場合彼らは迷うからだ。あなたの言う事は間違っている。ソ連政府が若い人たちを教育すればするほど、共産主義者が世界を征服するようなチャンスは減少するのだ」

――そのとおりだ。

「おお、それじゃあなたは矛盾することになるのだがね」

――金星の人々はたしかに高度な生活レベルにあるのか。彼らはうんと知的なのか。

「そうだ。そこに重要点がある。今私がそう言うのは、そのように言うことが必要だからだ。というのはあらゆる人は何らかの方法で宗教的な分野においてある種の信仰を持っているからだ。

私は過去の偉大な救世主たちをウソつきだと呼びたくはない。ウソつきだと呼べば私は全く不正な事をすることになる。なぜなら、あの大昔に救世主たちが予言した多くの物事は実現してきたからだ。

私はイエスをもウソつきだと呼びたくはない。彼は言った。『父の家には多くの館（やかた）がある」と。彼はこの世界で生まれた肉体を別な世界に持って行った。彼だけではない。歴史によると別な惑星へ肉体のままでつれて行かれた人は他にもいる。

以上の事柄は、われわれが今住んでいる世界と同じほどに容易に住める惑星（複数）があることを証明している。

別な惑星へつれて行かれたパイロットたち

これ以外にも、UFOが地球へ来るようになって以来、約二〇〇名のパイロットが行方不明になっている。あるパイロットは地球へ帰還してから、行方不明になっていたあいだに何をしていたかを語った。言いかえれば、一〇分間の燃料しかないはずの航空機が六ないし一〇時間も飛んで帰ってきたのだ。一〇分間の燃料が尽きた後、ずっとどこにいたのか？　こんな実例はいろいろあるのだが、アメリカ政府はこんなのを好まない。関係者やパイロットたちは疑われてきた。彼らは真実を語っているのだが、愚かな人々はそれを信じないのだ」

――その事件は公表されたのか。

「そうだ。多くの機会に公表されてきた。人々がこの惑星から別な惑星につれて行かれて、また地球へつれ戻された。そして彼らはたまたま軍事基地の中にいた、という事件もある。軍が彼らに『どこへ行っていたのか』と尋問したが、軍は彼らの言うことを信じようとしなかった。その事件は私が住んでいる所からそう遠くない大きな軍事基地で発生したのだ。

軍は一人の男を同じ理由で監禁した。彼は今も気違いにされている。だが彼は真実を語った。しかしだれも信じない。そこで軍は彼を気違いだと断定して強制的に閉じ込めてしまった。

人々は真実を受け入れようとはしない。あなたが何かの真実を語ったとすれば、いかに長く耐えねばならぬかがわかるだろう。あなた方が明日この真実の話を友人、先生、家族などに話すとすれば、断言するが、二日間であなた方は人間が変わるだろう。あなた方は言うだろう。『もうUFO問題は、やりたくないよ』と。二日間でこの知識を失うだろう。友人たちやあらゆる人があなた方を気違いだと思うからだ。

人々は真実を認めたがらない。彼ら

◀写真は一九八七年五月三〇日深夜、北部ドイツ、キールの住人ギュンター・カーク氏が撮影したUFO。上から同一物体の航跡を示す連続写真。下の写真でUFOの上昇を示している（西独M・ブッシュマン提供）。

はどのような真実から信じ始めればよいか、それさえわからないのだ。

過去の偉大な科学者もバカにされた

私はアメリカで科学者のグループに講演を行なったことがある。するとその内の一人が言った『おい、黙れ。おまえはただの変人だ』

私は言った。『その名誉に感謝したい』と。

『感謝とはどういう意味だ?』と相手が言ったので私は答えた。

『ガリレオや現代のマルコーニ、キューリー夫人、アインシュタイン、エディソン、ベルなどはみな変人と呼ばれたからだ。彼らは今日の社会が用いている文明の利益をもたらした。私はそんな物をもたらしたわけではないので、その名誉を受ける資格はない。私は彼らのような発明家ではないんだ。だから私は名誉を受ける資格はない。その名誉は、歴史で不滅となっており、今から一万年後になってもあなた方のような若い人たちが学校で教わるようなあの偉大な人々のものだ』

今日科学者といわれる人たちのあいだには、科学の研究法で誤りがある。今日われわれが知っている科学者というのは、科学の〝結果〟を研究しているにすぎない。言いかえれば、彼らは一つの結果から別な結果を研究しているのだ。だから彼らの発見事を具体化させるには莫大な金がかかるのだ。

ところがマルコーニやその他の科学者は抽象的な科学者で、彼らは原因から結果を導き出している。だから彼らは社会の役に立つ物を発見するのだ。それで彼らは歴史に残るのだ。そして、名前は不滅になっている。

一般の科学者はすべてただ生きているだけで、それだけのことだ。だから私は講演で科学者団に言ってやった。『私はその名誉を受ける資格はない』とね。とにかく発言した科学者はそのとき初めて目が覚めて、本人が崇拝してやまない第一級の偉人が昔は変人だと呼ばれたことに気付いたのだ」

テレパシーとは何か

――テレパシーについてもっと話して頂けないか。

「テレパシーというのは科学的な目的のために用いられてきた名称だ。科学はそれを用いているし、米政府もテレパシーという名称を使っている。デューク大学のような多くの学校もその名称を用いているけれども、それを第六感と呼んで、多年それを実験してきた。だから新しい事柄ではない。

だが人間は生まれつきテレパシーの能力を持っている。あらゆる動物、あらゆる植物もテレパシー能力を持っている。それは生き物自体の生命なのだ。しかも生命は全く感覚器官に頼っていない。

人間が或る感じ(フィーリング)を起こすと、それはいろいろな人が〝予感〟〝遠隔透視〟その他の名称で呼ぶ。だが分析してみると、それは実際には一つの感じ(フィーリング)なのだ。言いかえれば、人間が或る感じ(フィーリング)を起こすとき、それは警戒の状態なのであって、この状態は自覚される意識なのだ。本人は自分の周囲の物事について意識的になるのだ。

人間はテレパシーで意志伝達を行なうことができる。動物も植物もあらゆるものがそれをやっている。それは異なる生命体に共通する生命なのだ。

たとえば、あなたは他の誰よりも立派な心を持っているかもしれない。だが、あなたが意識を失えば、あなたの心はもはや立派ではない。それは死んでいる。しかしあなたが心を失いながらしかも意識があるならば、確実に生きているし、肉体を保持していることになる。あなたがそれをやれる限り確実に、意識的な感じ(フィーリング)の状態は心に移行する。意識は心とは別個に働くし、心とは別個に生きている。しかし心は意識から離れて生きることはできない。ここにテレパシー現象が実際に存在する理由があるのだ。

人間はこれまでにテレパシーを発達させる状態にはなかった。人間は常に音響に頼っている。あなたが私に質問する場合でも、想念がまず無言であなたの内部でわき起こり、続いてあなたはその想念を言葉に変えて口から出すので、私はあなたが考えていることや印象などを理解する。したがってあなたは想念に音声を与え、私は音声で答える。

しかしそれでもあなたはときとしてわき起こる印象をそのまま完全に音声で表現できないことがある。これはあなたが印象を受けたとおりに明確にそれを表現する言葉が見つからないからだ。人間はバイオリンで演奏することはできるし、美しいメロディーを奏でることもできる。もし人間が同じメロディーを表現しようとして言葉で説明しようとしても、それは全く不可能だろう。印象というものは生命における最も精妙なものなのだ。

あなたはネズミについて聞いたことがあるだろう。船が沈む運命にあるとき、ネズミたちはまっ先に逃げ出す。彼らは『船が沈もうとしているから逃げ出せ』という感じ(フィーリング)、衝動、印象といったものを起こすのだ。

ところが人間は慌(あわ)てふためいて自分を失い、どうしようもない状態になる。これはネズミと同じ感じ(フィーリング)に従わないからだ。

またこういうことも分かるだろう。あなたが今まで見たこともない犬の方へ歩み寄って行くとする。犬もあなたを初めて見るとする。だがその動物はあなたがその犬を傷つけようとしているか、それとも喜ばせようとしている

かをすでに知っているのだ。あなたが相手を傷つけようとするのなら、相手も身構える。逆に相手を喜ばせようとするのなら、相手は尻尾を振り始めてあなたの方へやって来る。これは音声を伴わない全くのテレパシーによる印象なのだ。

テレパシー開発練習法

こうした現象のすべては印象によるのだ。この印象を感受する力を強める練習法としては、たとえば写真の印画紙を一枚用意して、それを両手の掌ではさむ。そして心の中に何かの鮮明なイメージを描いて、それが印画紙に焼きつけられるように念じると、あとで印画紙に画像が出てくる。この場合は額から両手までの距離はせいぜい三〇センチぐらいだが、あなたはその画像想念波動を地球全体に、または宇宙全体に送信することができる。

重要な事は、自分を信ずること、自分の内部に『必ずやれる!』という自信を持つことだ。これを練習して自信をつける必要がある。というのは、あなたはときどき何かを感受しているのだが、必ずしもそれを感知するわけではない。これはあなたがその印象は自分の空想から来るのか、それとも他の何かだろうかと訝るからだ。

あなたはときとしてその印象に気づくけれども、それは自分の空想だと思う。そして自分の空想が混乱していたことが分かる。一匹のハエと仲良しになってたわむれている一頭の象をあなたが想像すると、それは空想だ。こんなことは自然界では全くあり得ない。

あなたがそんなふうにテレパシーを練習し続けるならば、ときとしてあなたはあちこちで間違えるかもしれない。それはどうみても正確な印象からはずれているのだ。

だが練習は必要だ。先程話した写真の印画紙の一枚を準備して、両手でそれをはさみ、心中のイメージをそれに送信する。五回から一〇回やっても何も写らないかもしれない。

すると突然何かの画像が出てくる。通常、こうした場合に出てくる最初の画像は光（複数）で満ちている。本人の心の動きをあらわしているのだ。安定していないからだ。ジャングルの中で一本の樹木から別の樹木へ走り回っているハイエナのように心が乱れているのだ。

だが後になると一定の直線や一定の像が出始める。椅子のイメージを描くことを試みるとよい。そしていかにうまくやれるかを見るようにするのだ。今は科学的にいろいろな大学でこの方法によって研究が続けられている。政府もやっている。

この練習はひじょうに価値がある。自分がうまく行なっていることを立証するからだ。重要なのは、すべての感じにある。あなたが感じを起こすと、それは警戒の状態になる。そういうことなのだ。この状態は自覚される意識を意味する。本人は以前に意識しなかった物事について意識的になるのだ。

これはちょうどあなたが道路を歩いているのと同じだ。歩道には誰もいない。突然、あなたは誰かが自分を見つめているぞという感じを起こす。そして本当に誰かが見つめていたことに気付く。これはすべてテレパシーだ。（訳注＝練習に使用する印画紙は自分ですぐ現像できるインスタントカメラ用の剝離式フィルムが便利）

――われわれはこの能力をなぜ失ったのか。

「人間は全く音響に頼ってきたからだ。もしあなたがこの場合に神という言葉を用いようとすれば、それはわれわれを含む万物の創造主が被創造物と意志伝達するのと同じやり方になる。その波動は個人の内奥にあるのだ。

単細胞が成長して母親の体内で赤ん坊になってゆく理由や状況を確実に語ることのできる人間はこの世界に存在しないし、今後もいないだろう。母親も知らない。

しかし母親は感じによって自分が母親になろうとしていることを誰しも認めるにちがいない。胎児の成長は母親の体内で完全に行なわれている。人間として知られる人体を創造する英知は、母親の心とは別個に母親の内部にすでに存在しているのだ。

さて心に関する話になったが、あなたの心そのものは価値はない。あなたの心は疑問を起こし続けている。それは『なにをなすべきか』を知っている〝何か〟が存在していることをあなたが知っているからだ。

次に、あなたは赤ん坊が生まれることを知っている。そこで創造的英知――それを神と呼んでも差し支えないが――はすでに母親の内部に存在していることを認めるにちがいない。その英知がなかったら赤ん坊の成長はあり得ないだろう。

もしあなたが、人間がどのようにして成長するかを知っているとすれば、他のあらゆる生物が生長する方法もわかるはずだ。聖書には次のように言っている。『人間は自分自身を知れ。そうすればすべての事が分かるだろう』と。これは他のあらゆる生物も同じ具合に生長しているからだ。違うのは目的だけだ。

したがってわれわれ人間は働いたりメシを食ったり戦争で互いに殺しあったりするためにこの世界で生きているのではない。創造主が人間の内部に植えつけた諸法則を知るために生きているのだ。それはわれわれの遺伝の一部だ。それは人間が学びとることになっている部分であって、それを学びとるならば人間は悲しみや苦しみからのが

れるだろう。悲しみや苦しみは人間が『どのようにしてよいか分からない』ためにもたらされるのだ。

異星人がはるかに進歩している理由

――なぜスペースピープル（別な惑星の人々）は、われわれ地球人よりもはるかに進歩しているのか。

「この質問はニューヨークとロサンゼルスで各一名の枢機卿に、そしてこの前亡くなった法王にも出された。そして三人共次のように答えた。『われわれ地球人がスペースピープルのようにならないのは、人間が罪をおかしたからだ』

これはうまい説明だ。そうすると彼らスペースピープルはどのようにして正しい道にそって出発し、進歩していったのだろうか。

これは学校で正しく学び始めて他の子供たちを抜いた子供と異なるものではない。一方、同時に学び始めた他の子供たちは後退する。そうだ、われわれ地球人はどこかでつまずいているらしい。一方、スペースピープルは前進しているのだ。

UFOの驚くべきスピード

――あなたの宇宙旅行だが、あの遠距離で長い時間を要したのか。また別な惑星にどれぐらいの時間、滞在したのか。

「距離については多くの人が混乱している。われわれには正確な距離は分からない。惑星間の距離はすべて憶測であった。まだ測定用の物差しはない。

アメリカのある会社が一九六五年に完成予定の宇宙船を建造中だ。これは時速一六万キロで飛行することになっている。しかも人間が乗れるのだ。この宇宙船は手始めに地球と月の間を飛行することになっている。別な惑星の宇宙船は時速一六〇万キロと全く同じほど容易に時速一六〇〇万キロ、またはその二倍、三倍の速度で飛行することができる。われわれは一つの重要な事を見のがしているのだ。

潜水艦というものは、どんなに深く潜ろうが水面より出ようが、乗っている乗員がみな快適にすごせるように造られている。言いかえれば、水面に出れば通常の圧力がかかるけれども、深く沈むにつれて圧力も増してくる。だがそういうことはすべて考慮して造ってある。だから乗員はその相違を知らない。乗員は今ここにいるわれわれと全く同じほどに快適なのだ。

別な惑星から来る宇宙船（ふつうUFOといわれるもの）もこれと同じ原理に従っている。地球表面は海底と同じような状態であるからだ。地表の部分が大気圧の最大になる所で、空中へ上昇するにつれて大気圧は減少する。われわれが宇宙船を建造するときも、結局はこの原理にもとづいて造られるだろう。言いかえれば、船体は周囲の圧力に対処できるようになるだろう。

だが、われわれが学ばねばならぬのは、極を逆転させることなのだ。もし別な惑星の宇宙船が地球の方へ全力でやってきて、そのままならば地球の引力に引かれて衝突するだろう。初期の頃はそういうことがあったのだ。

しかし船体の極を逆転させるならば、それはブレーキの役目をする。私はその原理を示す装置を家に持っている。それは大変簡単な方法で、船体の磁極が逆転する状況などがよく分かる。こんなふうにして宇宙船が地球へやって来るのだ。彼らの宇宙船のスピードは地球から金星まで通常九時間ないし一二時間だ」

――あなたが金星へ行くのに要した時間はどれぐらいか。

「地球の時間で一二時間だった」

――金星には長く滞在したのか。

「五時間滞在した」（訳注＝この件についてはアダムスキー全集第三巻『UFOとアダムスキー』に『金星旅行記』と題して詳細な体験記が出ている）

――彼らの宇宙船（UFO）は非常な鋭角で飛行できると聞いているが、これについては？

「そんなことはしない。それは全くのウソだ。大衆が報告する事はスペースピープルでもやれないのだ。彼らは時速二九〇〇〇キロまで加速するといわれているが、それでもUFOは地球の大気圏のレーダーでとらえられている。そして突然、その姿勢を逆にするように見える。別な方向へ急速に飛ぶのだ。UFOがやっている事はUターンをやっていることなのだ。それらが停止して方向を逆転するように見えるけれども、実際はそうしたのではない。実際はUターンをやったのだ。

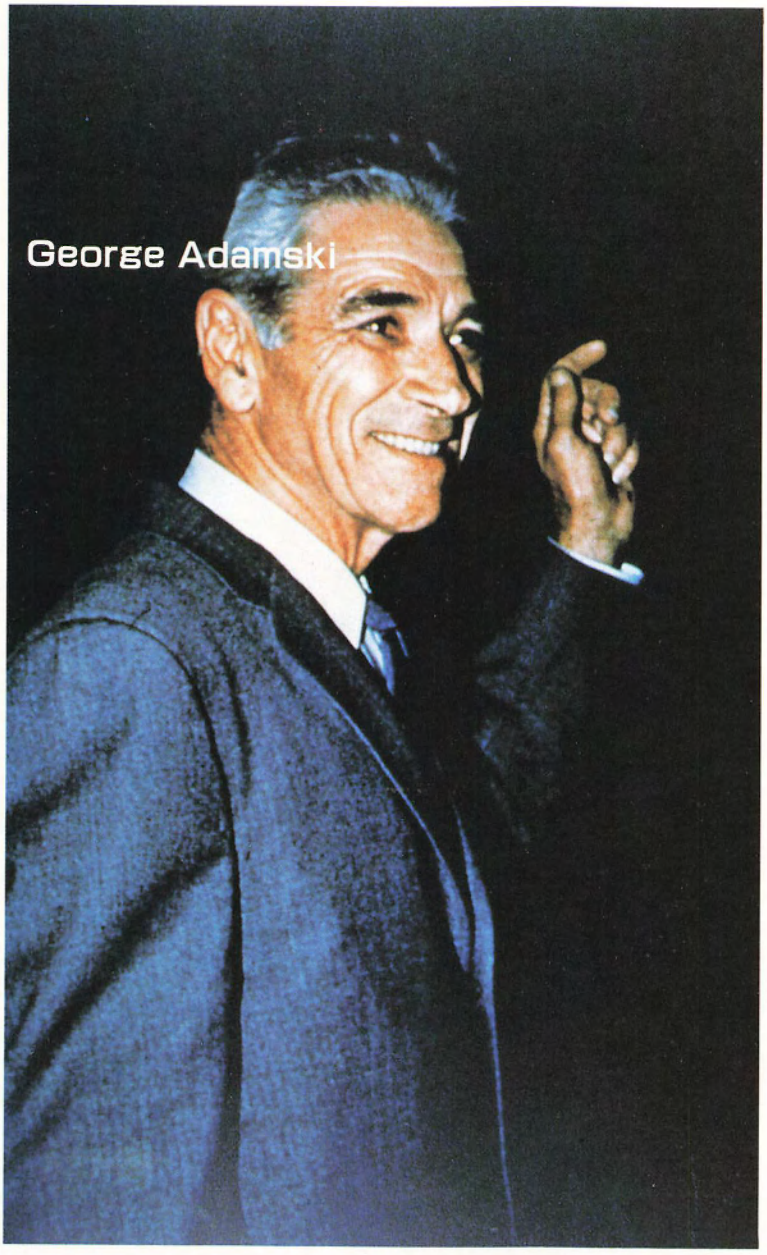
そうだ。UFOは時速二九〇〇〇キロで飛ぶが、突然、それは同じスピードで別な方角へターンする。全く減速をしない。それを見るとき、人間の目にはUFOが停止して逆戻りするように見えるのだ」

戦争経済から宇宙経済へ

――地球人に対するスペースピープルの意見はどんなものか。

「彼らはわれわれの難問題を知っている。それでわれわれに対して、核爆弾で人間を粉々にしないようにと警告している。地球には戦争をする必要があった。今も同じことだ。これは地球の経済システムのためだ。スペースピープルもそのことを知っている。もしわれわれが今戦争をやれば、おしまいだろう。

だからわれわれには一つの選択しかないのだ。地球の経済を宇宙の方へ向けることだ。われわれは自分たちの宇宙船を造る必要がある。宇宙には限界



◀ジョージ・アダムスキー

がないから人間は仕事を永久に失うことはない。まず人間を宇宙空間に進出させるのだ。それでわれわれはすぐれた宇宙船やすぐれた装置を作る必要がある。

続いて戦争経済を宇宙経済に変えるのだ。同時に人間を殺すかわりに学ぶのだ。

そうすれば現在のように変動する経済でなしにもっとすぐれた経済システムを持つようになるだろう。だからスペースピープルは地球人が宇宙へ進出するのを望んでいるのだ。そうなれば地球の文明は助かるだろう。

われわれは、誰かがカッとなって間違ったボタンを押す前に、宇宙へ進出しなければならない。ひとたび宇宙へ出れば、経済その他のすべてがかつてないほどに改善されるし、しかもそれには終わりがない。戦争はなくなり、人間は生長し、しかも姉妹惑星群と事業を確立できるかもしれない。これはすべて未来に関することだ。だから未来はきわめて美しいのだ」

――スペースピープルはわれわれを必要としないのだろう。

「彼らはわれわれを必要とするし、われわれも彼らを必要とする。彼らは地球人と戦うために来るのではなく、われわれを援助するため、宇宙へ進出させて、核戦争で文明が破壊するのを防ぐために来るのだ」

――われわれが地球を爆破しないようにすることが彼らに必要なのか。

「地球の爆破までは起こらないだろうと思う。もし地球人が二四時間戦争でアメリカが一〇〇〇個の核爆弾を二四時間以内に落とすとし、ソ連も一〇〇〇個を落とすとすれば、地球には人間がいなくなるだろうが、地球そのものは残るだろう。

ところがその核爆弾を一個所に集中して落とせば、地球はまっぷたつに割れるだろう。もちろんこんなことは許されないから、そのときは異星人が干渉するだろう。というわけは、ひとたび地球が消滅してしまえば、太陽系全体がバランスを失って、他の惑星群までが粉々になるからだ」

――地球人がそんなことをしないように、異星人はどんな処置をとるか。

「彼らは今まで何度もやってきたように核戦争の発生を防止するだろう。これまでの例としては朝鮮戦争、ベトナム戦争などがある。異星人はこうした戦争が大核戦争にならぬようにひそかに防いでくれたのだ」（以下次号）

Mysteries of the Past in Machupichu and Nasca
by Hachiro Kubota

マチュピチュとナスカの謎

●久保田八郎〈日本GAP会長〉

日本GAPは企画第11回「アメリカ・南米宇宙ロードの旅」で米カリフォルニア州のアダムスキーの大地と南米ペルーの謎の遺跡を視察する大旅行を敢行。全員成功裡に帰国した。以下は旅行団長（会長）による報告とめずらしい写真の数々である。

今年度の海外研修旅行は総勢二八名、この内ちょうど半数の一四名が女性で、しかも美人ぞろいときているため、気をよくして出かけた。私個人としてはこれでアメリカへ一〇回目の旅となり、南米ペルーへは一九八〇年夏にGAPの団体で行っているから九年ぶりだ。

外国歩きには多少とも慣れているようなものの、団体責任者の一人となればやはり緊張する。それで事前の二回に渡る説明会では多くの資料を渡して徹底的に指導を行なった。これは毎度のことながら他の旅行団に見られぬ特長である。

八月九日、成田空港に集合した一同は結団式挙行後、勇躍七時一〇分に全日空機で出発。GAP会員、元井武士・鮎子夫妻は先発してハワイで二人だけの結婚式を挙行、ロサンゼルスで合流する予定で、大阪から来た首藤秀利君と友人の宮川公之介氏はロサンゼルス到着後、二人だけでメキシコへ行き、アメリカからの帰途、再度合流することになっている。

長い一〇時間の飛行後、同じ九日の正午すぎにロス空港へ着いた。バスで市内を観光する。見慣れている町だけれども、来るたびに何かの新しい発見をする。どだいアメリカは日本とはケタ違いの大国。もとは白人が建設した国家だから東洋とは根本的に異質の社会だ。民家の造りを見ただけでも決定的な相違がある。日本人はどんなに金を持っても凌駕（りょうが）できない居住環境造りに対する物の考え方（メンタリティー）の差があるのだ。この隔絶感は西ドイツへ行くと頂点に達する。日本はもはや欧米社会から学ぶものはないという一部日本人の言説は、たぶん冗談なのだろう。夕刻ウィルシャー・ロイヤル・ホテルへ入る。

夜は七時からホテル内のホールで元井夫妻の結婚を祝うパーティーを開く。この日は昨秋東京の日本GAP総会で講演したアリス・ポマロイ女史がマサチューセッツ州ノースボロの自宅からかけつけて私たちと合流した。再会を喜びあいながらホールへ案内する。

元井夫妻はGAP会員同士だから、本来ならば東京でGAP本部主催でもって盛大なパーティーを開催するべきところ、都合により旅行団だけでお祝いをしたのだが、ポ女史が一席祝辞を述べたので最高に光栄だと夫妻は喜んでいた。

終了後、日本人町リトゥル・トーキョーの日本料理店へ二次会に行く。

熱風のコンタクト地点

翌一〇日は曇天下をバスで九時すぎに出発。ポ女史は私のそばに座って堰（せき）を切ったように喋（しゃべ）りだした。自分の話を聞いてくれる者は、おまえしかいないのだ、と言わぬばかりに延々と話し続ける。家族のことやアダムスキーのこと、その他話題は実に豊富。ずいぶん珍しい話も出たが、片道四時間の長舌を全部記憶するほど私の頭は良くも若くもない。テープレコーダーを携行

▶ロサンゼルスにて。
前列左より伊東芳和（東京）、田中正（千葉県）、久保田八郎（東京）、元井武士・鮎子（横浜）、アリス・ポマロイ（アメリカ）、篠崎綾子（東京）。
中列左より平野久美子（栃木県）、渡辺佳子（栃木県）、田中孝雄（横浜）、杉沢研二（神奈川県）、長沢正子（神戸）、中山真由美（大阪）、石原美佳（北海道）、篠崎典子（東京）、高野昌子（山形県）、氏家明美（北海道）、石原千容子（千葉県）。
後列左より池田正徳（神奈川県）、首藤秀利（大阪）、宮川公之介（大阪）、長濱富春（神戸）、藤村雅夫（東京）、田中淳（埼玉県）、富岡設子（神奈川県）、阿部祥子（秋田）、中根豊（三重県）。

しなかったことが悔やまれた。

一一時三〇分頃、左上空にピンク、緑、その他の色のついた奇妙な雲が出現したのを数名が目撃、緊張感が高まってくる。一時前にデザートセンターのガソリンスタンド前で休憩したとき、青空に直線状の虹が出た。母船の祝福のサインなのか——。

今年一月に探索したときの見慣れた山々のスカイラインが見えてきた。バスを停めて一同で現地へ歩いて行く。一昨年夏に来たときよりは風が吹いて涼しい感じがするけれども、温度計で計ってみると摂氏四四度もある。これからみると一昨年摂氏五〇度あったというのは本当だったのだろう。

◀デザートセンター、コンタクト地点。

▲デザートセンターの直線状の虹。　撮影／池田正徳

コンタクト地点でまず全員に説明をし、記念撮影のあと、各自自由行動。今回の旅行団はきわめておとなしいので、感動しているのかどうか、よくわからぬが、あとで聞くと涙を流している女性もいたという。これなら案内した甲斐があるというものだ。

一九五二年一一月二〇日、アダムスキーはここで金星のスカウトシップから降り立った異星人と劇的な会見をした(詳細はアダムスキー全集第一巻『宇宙船の内部』に出ている)。そのときの六人の目撃者の一人、ジョージ・ハント・ウィリアムソンは金星人の足跡を石膏にとった。その写真は彼の著書『宇宙語—宇宙人』に出ている。そしてその写真を手がかりに今年一月、私と少数の探索隊がこの真実のコンタクト地点を突きとめたことは本誌105号に詳述した。

コンタクト以来三七年、アダムスキー問題は風化したかに見えるが、どっこいそうではない。驚異的事実が世界の裏面で進行しているのだが、大衆は全く気付かない。

熱砂の大地に別れを告げてロサンゼルスへ帰ったのは夕刻七時。八時からは全員で付近のナイトクラブ『ラ・フォンダ』でメキシコ料理と素晴らしいメキシコ民族音楽や舞踊を満喫。

一〇数名のマリアッチが名高い曲を存分に聴かせてくれる。メキシコ特有の陽気さと異国情緒が渦巻いてユカタン半島にいるような錯覚をおこす。二名いるトランペッターのうち一人が名手で、これが主役らしい。

高貴な波動のパロマーガーデンズ

一一日は九時すぎにバスで出発。今日はパロマー山へ行く日だ。ロスは曇天なるも、南下するにしたがって晴れてくる。またもポ女史が話し続ける。非常に興味深い話題が出た。アダムスキーの『生命の科学』の中に、人間が自己の内部の宇宙の意識と、花を生かしている宇宙の意識との一体感を起こしながら花に向かって挨拶をすれば、花も人間に対して挨拶をし返すとある。

ポ女史によると、アダムスキーが実際に花にむかって挨拶をすると、花がいっせいにアダムスキーの方へなびく光景を女史は目撃したことがあるという。神人合一の境地とはこれだろう。

一時半にパロマーガーデンズに到着。私としては一〇回目の訪問だが、いつ来ても清澄な空気と小鳥のさえずりに心身が洗われるような清浄感を覚える。山頂に近いこの台地は五〇年代にかけてアダムスキーが一族とともに暮らした場所で、彼の重要なUFO撮影やコンタクトの体験はここに住んでいた頃に発生したのである。

彼をこよなく尊敬したインディアンの婦人が、ア氏の困窮を救うためにこの土地を買い取り、弟子のアリス・ウェルズ女史が経営していたレストランの跡にコンクリートを敷いて永久に残すことにした。

◀パロマーガーデンズ。

このインディアンの婦人というのはもとある種族の王女であり、超能力者であって、ア氏存命の頃に遠隔透視に用いる大きな水晶玉をア氏へ贈った。一九七五年秋、私が最初に加州ビスタのアダムスキーの家を訪れたとき、当時健在だったアリス・ウェルズ女史（アリス・ポマロイ女史とは別人）が、ア氏の他の遺品類とともにその水晶玉を見せてくれたことがある。直径一〇センチ近くの大きな玉で、手に取るとずしりと重い感触があった。

パロマーガーデンズとはアダムスキーが命名した広い台地で、むかしは家がほとんどない草原だったが、現在はキャンプ地になって多くの建物があり、水泳用プールまで設備してある。

往時レストランが存在した敷地のそばの樫の大木群は昔のままで、ア氏がこよなく愛したというこれらの樹木は鬱蒼と茂り、亡き主人の帰宅を待っているかのようだ。

アダムスキーがみずから建てた物置小屋もまだ残っているが、石積みの土台から上の木造部分は改造してある。ア氏がこの小屋を建てるときに金星人オーソンが変装してやって来て、小屋にパイプを取り付ける仕事を手伝ったけれども、他の人たちはオーソンだということに気付かなかったという。

前日に情報が入って、最近パロマー山で火事があり、天文台までは行けないだろうということだったが、一応ガーデンズをあとにして登ったところ、やはり道路は閉鎖されていた。やむを得ず引き返して、夕刻六時半にロスのホテルへ帰り、着替え後、バスで出発。空港に向かう。

真夏のロサンゼルス空港は日本人旅行者で大混雑。空港内の食堂には寿司やうどんなどもある。日本人が集中豪雨のようにやってくる証拠だ。

ここで夕食後、ポマロイ女史と再会を約しながら別れて、深夜一二時半、アルゼンチン航空のジャンボ機でペルーのリマへ向けて出発。ロサンゼルス在住のGAP会員・芦田殉子さんが同行する。夜食が二度出たがほとんど残す。ロサンゼルスから六七〇〇キロを約八時間で飛ぶのだから、太平洋を越えて日本に近づくほどの距離だ。南米行きが大旅行であることを実感する。

ペルーは二度目なので初回ほどの好奇心は起こらず、むしろ覚めた目で客観的に見ることができた。一二時すぎにバスでリマのホルヘ・チャベス空港を出発。市内見学に移る。八月のリマは前回同様曇天の憂鬱な雰囲気に満ちている。気温は摂氏一七度。寒くはないが真夏のカリフォルニアとは大差があるので、用意した冬用の衣類に着替える。サンマルティン広場のボリバールホテルに入った後、バスで観光。

のがれられぬカルマの法則

▶リマの大統領政庁前にて。

一五三二年一月、スペイン人部隊の隊長フランシスコ・ピサロがインカ帝国の内紛に乗じ、奸計をもって皇帝アタワルパを捕らえ、処刑してインカ帝国を征服した後、三三年に首都クスコを占領。配下のスペイン軍とともに黄金に満ちた桃源境で略奪と暴虐の限りをつくし、三五年に植民地の首都をリマに移す。スペイン総督としての彼はアルマス広場の正面に石造の総督官邸を建てた。これが現在大統領政庁として残っている。

その後、労苦を共にした盟友アルマグロがインカから暴奪した黄金の分配をめぐって反逆したため、ピサロは彼を捕らえてクスコで処刑する。だがピサロもリマでアルマグロ派のために暗殺された。こうして黄金の山を手にしながら山師の征服者達は残忍な復しゅうと虐殺の繰り返しにより異郷の露と消えてゆく。まさにカルマの法則を地でゆく格好だ。

インカ帝国壊滅の謎

インカ王朝は一三世紀頃より勃興した。前インカ最後の強国チムー帝国を倒したあと、一五世紀なかばに突如大拡張を始めて、最盛期の一〇〇年間はアンデスに沿った南北四〇〇〇キロ、面積一二〇万平方キロに及ぶ大帝国となった。社会制度が発達し、驚異的な石造建築技術を有して見事な神殿や城塞を築き、太陽神を崇拝する絶対君主の皇帝のもとに勇猛な大軍団を擁した黄金郷の帝国が、侵入したわずか一八〇名のスペイン兵に征服された理由は謎である。

これについてはスペイン人が武器としたわずか二〇挺の鉄砲（当時のインカ人は雷と呼んだ）と、お化けのように見えた動物の馬に驚愕し恐怖したからだという説もあるが、現地在住の日本人ガイド氏はバカげたことだと否定した。実際はもっと複雑な事情があるということらしい。

だが文化人類学者でラテンアメリカ史の第一人者、増田義郎東大教授（現

名誉教授）の『インカ帝国探検記』（中央公論社・中央文庫）には、カハマルカの町でピサロ軍とインカ皇帝の大軍が対峙したときの息づまるような光景が、目撃者フランシス・ヘレスの記録を引用して次のように活写してある。

「この間、ひとりのインディオ兵士も、スペイン兵に対してむかってこなかった。総督（ピサロ）が彼らをかきわけて近づいてきた勇気や、大砲の音や、それまで見たこともない騎兵の突撃などに呑まれてしまい、命からがら逃げだすのがやっとで、とても戦う気などおこらなかったのだろう」（同書一二四頁）

これでみると、やはり武器の相違が雌雄を決したと言えるのかもしれない。

皇帝アタワルパが捕囚の身になって太陽の帝国インカは実質的に崩壊した。

ちなみにスペイン人のインカ征服関係史書として、右の書ほどに圧倒的な迫力をもつものはない。インカ文明に関心のある人の必読の本といえよう。

以来ペルーはスペインの植民地と化して圧政に苦しんだが、一八二一年、アルゼンチンの英雄サン・マルティン将軍指揮下の独立軍の勇戦により、スペイン王党軍を撃破して共和国となった。しかし現在もペルーにはスペイン統治時代の大寺院や壮大な石造建築が残っている。これらが土着のインディオの風俗と混交して独特のエキゾティシズムをかもしていることは他の中南米諸国と同様だ。

だが私たちは地理歴史や政治経済を専門とする調査団ではなく、UFOと宇宙哲学を研究する集団であるから、関心の対象は古代の謎の遺跡、特にマチュピチュとナスカの地上絵にある。したがって歴史や文化の詳細は省略しよう。

黄金の持ち過ぎがわるかった

リマ市内で気づいたのは九年前と違って、インディオの婦人特有の民族衣装が姿を消していることだ。幅の広いカラフルなスカートをはき（寒冷な地方では四〜五枚重ねてはいているという）、セーターを着て大きな肩掛けを羽織り、頭に山高帽をかぶって背中に大きな風呂敷包みを背負った独特のスタイルはもう市内では見られない。ガイドさんによると服装が近代化したからだという。

だが、地方のクスコ、フリアカ、プノあたりはまだ民族衣装が残っているという。

三時すぎに黄金博物館へ入る。前インカのチムー文化の銀製品、チャンカイ文化の黄金製品、最古のチャビン文化の土器その他が充満して壮観だ。この黄金がスペイン人の好餌となったのだから貴金属の豊かさが国を滅亡させたといえよう。そういえば白人見学者は黄金博物館の首飾りのコーナーへ目の色を変えて殺到するけれども、日本人は見向きもしないとガイドさんは説明する。

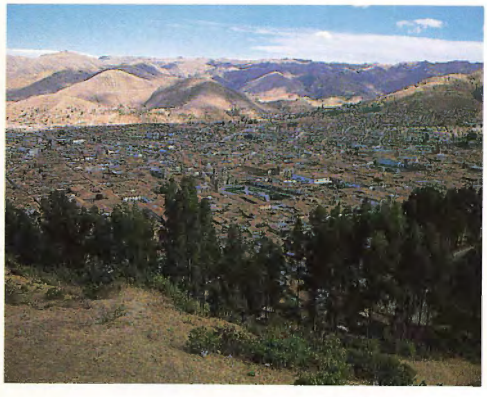
翌一三日は七時すぎにフォーセット機でクスコへ飛ぶ。眼下には例によって樹木のない茶褐色の大アンデス山脈が展開する。月世界を思わせる秘境に住居らしい集落とジグザグの道も見える。人間の強靭な生活力に驚嘆のほかはない。

約五〇分後にクスコ着。空港には九年前にお世話になったペルーきっての名ガイドと謳われる篠田氏が出迎えに来ておられ、旧交をあたためた。「高山病などは笑いが最大の特効薬だ」という氏は実に愉快な性格の人だ。

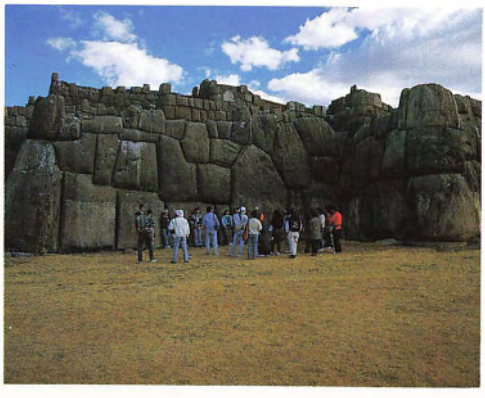
歴史の停止した国？

サボイホテルへ向かうバスから眺めるクスコの町は、アドベという茶色の日干しレンガで建てた家が並び、町全体が茶一色。これも九年前と変わらない。街路へ出ると山高帽に民族衣装をつけて背中に大きな風呂敷包みを背負った婦人が往来する。このエキゾティックな光景も以前と同じ。

午後二時からバスで観光に出る。サント・ドミンゴ教会、イエス像のある高台、郊外のサクサワマン遺跡をまわる。ここはインカ時代の首都防衛拠点として築かれた三段から成る巨石城塞。毎日三万人を使って八〇年を要したという。標高三四〇〇メートル。かなり寒いが雪はない。巨石運搬の方法は謎。クスコもサクサワマンも四五〇数年の昔、スペイン軍とインカ軍が大激戦を



◀クスコの町。



◀サクサワマンの大城塞。

やった所だが、今はその痕跡はない。カミソリの刃一枚入らぬといわれるインカ時代の見事な石壁があちこちに残るだけだ。

次に付近のタンボマチャイ遺跡へ行く。ここはインカ時代の聖なる水浴場で、今も石積みの上方から水が流れ落ちている。篠田氏によると、全裸で水を浴びた日本人のゴーケツがいたという。汚い姿のインディオの女やボロを身にまとった幼女たちがここにたむろして金をせびる光景も九年前と同じ。こうした正視できないような状況にあちこちで接すると、この国の歴史は停止しているのではないかという印象を受ける。

夜は以前に来たことのあるエル・トゥルコというナイトクラブでペルーの民族音楽を聞きながら食事。演奏技量は良いが編曲に一考を要すると感じた。ケーナ奏者が優秀。ケーナとは原始的な葦笛で、日本の明笛を縦にしたような楽器。名手になるとフルートに匹敵するほどの音域と音色を出す。明笛の比ではない。他にマンドリンに似たチャランゴ、パンフルートに似たサンポーニャという楽器もある。メロディーは一体にマイナーの曲が多く、哀愁を帯びている。メキシコの陽気な民族音楽とは対照的だ。

一四日も早朝五時すぎに起床。毎朝早いが、これは海外旅行の常。室内の温度は一五度なるも、湿度二五パーセントという驚くべき低さ。朝、洗濯物を室内に吊り下げておくと夕方までには完全に乾いている。いまクスコは乾期なのだ。

驚異のマチュピチュは異星人の基地？

クスコ駅から七時に列車で出発。今日はマチュピチュへ行くのだ。おそろしく古びた列車で、暖房はない。車内温度は一〇度。

七時半頃、白銀のベロニカ山が見えてきた。標高五八〇〇メートルの名峰が碧空に浮かぶ。ゴルゴタの刑場に引かれるイエスの顔の汗をふいてやった優しいベロニカの白いスカーフを思わせる美しい山系に胸が熱くなる。

車窓から見る風景はきわめて原始的牧歌的で、土民のアドベの家が平野に点在。列車はアマゾンの源流の一つであるウルバンバ川沿いに走る。

一〇時四五分にマチュピチュ駅着。ただちに小型バスで山頂へ向かう。

山頂のホテルの食堂で昼食後、一二時半より遺跡見学に出発した。クスコから一一二キロの地点にあるこの世界に名高い遺跡は、海抜二四六〇メートルの断崖絶壁上に建設された石造都市で、いつ、だれが、何の目的で、ここに築いたのか全く不明であり、謎の都市または幻の空中都市と呼ばれている。大岩壁上の狭い台地に太陽の神殿、王女の宮殿、住居群、一〇〇〇余の石段が残る光景は白昼夢そのものだ。

しかし先年筆者が入手した国外の文献によると、大昔ここは異星人の宇宙船が着陸する基地になっていたという。だがこの種の話には食傷気味なので等閑に付しておいた。

帰国後、この遺跡を撮った写真を春川正一氏（『異星訪問奇談』の主人公で希代の超能力者）に見せたところ、氏は写真の上に右手をかざしながら言った。

「この遺跡からは非常に強い宇宙的な波動を感じます。大体、こんなに尖った形の大岸壁は上空に波動を放射しやすく、それが宇宙船にとって標識の役目をします。ここに住んだ人たちは何かの秘密を持っていたようで、多くの人に自分たちを見られることや、情報が外部に洩れることを恐れてこんな人跡未踏の地に都市を建設し、その中の何人かの人がＵＦＯと交信しながら記録や文化を残したのでしょう。ＵＦＯ側からもたらされた記録を持っていたのではないかと思いますね。そして異星人もここに住んだのでしょう。宇宙人と地球人による合同の文化施設だった可能性もあります。そして何者かの弾圧によって滅ぼされた可能性もあるでしょう。しかしここが宇宙人側にとって非常に重要な基点であったことは間違いありません。

この写真を見ると、左上方のあたりから強いエネルギーが流れてくるのがわかります。そこが円盤の着陸地点で、狭い台地があるはずです」

確かにそのとおりだ。左上方にはインティ・ワタナ丘と呼ばれるマチュピチュ市内の最高所があり、この台地の中央には高さ一・三メートルの巨岩上に三六センチの角柱が立っている。角柱の対角線上を冬至の日に太陽が通過するので日時計といわれているが、普通には太陽神の礼拝石と考えられている。

だが春川氏はこの場所こそＵＦＯの着陸基点となった所で、右下方の広場は祭祀センターだったと言う。

一体にペルーは非常に宇宙的波動を感じさせる国で、ＵＦＯの出現や着陸の多い土地のようだと、氏はかねてから語っていた。そういえばナスカの地上絵にしても天空と関連のありそうな謎を秘めている。

これは太陽を礼拝し、万物の創造主を信じていたインカ人の宇宙的な感覚の波動が残留しているからだろうか。

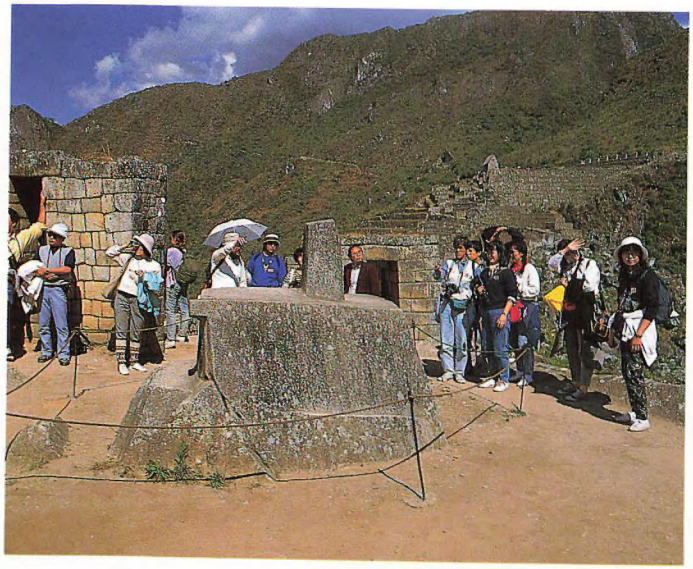
マチュピチュの遺跡についてここで詳細を述べる余裕はない。別な機会にゆずろう。

三時前から小型バスで山を降りて列車で帰るも、途中で機関車が故障を起こし、再三長時間停車、車内はまっ暗闇。ついにイスクチャカという町からバスに乗りかえて夜一一時半にホテルへ着いた。中南米旅行ではこのような事を日常茶飯と心得ておく必要がある。

謎の空中都市ーマチュピチュの大遺跡

1911年アメリカ人のハイラム・ビンガムが偶然に発見したマチュピチュの大遺跡。標高2460mの断崖絶壁上に、この世のものとは思えぬ大都市の跡が眠っていた。ここにはプレ・インカ的な要素はない。クスコのインカの石造建築技術が用いられている。したがって、インカ人が居住したと思われるが、すべては謎。上の写真の左方最上部の高所に人々の集まりが見えるが、ここが日時計と言われる奇妙な石碑のある場所で、右の写真がそれ。春川氏によれば、ここが円盤の着陸基点であったという。

撮影／久保田八郎
ブロニカGS-1．ゼンザノン65mm・フジクローム100



アンデス高原列車の旅

翌日はまたも五時起床。八時発の列車で出発。アンデスの標高三五〇〇メートルから四〇〇〇メートルあたりの高原を走る。クスコからガイドさんは三友さんという若い男性と交替。北海道酪農大学出身で登山が専門という。当初ガイドを断ったが、日本からUFOの団体が来ると聞いて引き受けたという。UFOには興味があるらしい。

列車はマチュピチュ行きのものより少し上等で、私たちの一等車には向かい合わせの座席間にテーブルがしつらえてある。これも九年前と同じだ。車内で二人の若い日本人女性と知り合いになる。埼玉県の坂井幸子さんとその友人の平野さんで、二人だけで南米へ来たという。この頃は一人か二人で海外へ出かける娘さんが多いようだ。

◀インディオの女性たち。

大山脈をバックに雄大な平野が展開。アドベの民家が点在し、家畜を追うインディオの婦人がシルエットで浮かび上がる。途中で数度長時間停車するので、そのたびに外へ出て撮影をする。汚い服装の貧しい女子供が物乞いに来るので金を渡すと無言のまま受け取る。これが人間かと思うほど悲惨な姿のインディオに出くわすけれども、当方の感傷とは裏腹に彼らは案外逞しく生きているのかもしれない。

三八歳のガルシア・ペルー大統領は若さと男前で婦人票をさらい、最高の地位についたが、社会主義政策で大失敗をやり、インフレがひどく、物価はこの一年で五〇倍、国中の経済は混乱し、立て直しのメドが立たず、そのため失脚を予想し、外国からの援助資金をふところに溜め込んでスペイン領の島へ逃亡計画を立てているという噂が流れているという。これからみれば日本のリクルート事件などは甘ったるいものだとガイドさんは笑っていた。

想念の力を応用

七時三〇分に列車はフリアカへ着いた。車中で少々寒気を感じて気分が悪くなったが、夜熟睡して翌日は気分爽快。室温は摂氏一〇度。湿度四〇パーセント。寒気が強いので完全な冬装備で出る。

今回は高山病になる人はいない。大体、海抜四〇〇〇メートル前後で高山病になることはなく、これは神経症的なもので、高山病になるぞ、なるぞと恐怖心を起こせば本当にそうなるし、何でもありゃしないと平然としておれば何も起こらない。こうした想念が肉体に及ぼす影響を旅行前にうんと説明しておいたから、皆さんはそれを応用したのだろう。旅行中、六五歳の私が最も元気だったといって驚いている人が多かったが、これも想念の力の応用なのだ。根本的には宇宙哲学の実践が重要である。

災いを転じて福となす

フリアカでちょっとした事故が起きた。クスコから積み込んだ全員のスーツケースのうち、元井鮎子さんのが紛失したと田中氏が報告する。翌日警察へ届けたけれど埒があかない。盗まれたらしい。盗難の多い国だというので厳重に警戒していたのだが、プロの手にかかると始末におえぬようだ。

私は鮎子さんに言った。

「決して怒りや恨みの感情を起こさないで、むしろ貧しいペルー人を助けてあげたと思って、これで相手の生活がよくなるようにと祝福しなさい。そうすれば災いが転じてあなたのカルマもよくなるだろう」

「そう思うようにします」と彼女も明るく微笑してうなずいた。後日田中氏にこの話をしたら氏は大いに感動し、

「こんな美談は聞いたことがない。こうした場合には必ず被害者が添乗員に食ってかかって責任を追求するのに、さすがはGAPだ」と感嘆していた。

事実、その後旅行保険で約七〇万円のお金が出ることになり、むしろ新しい衣類が沢山買えるといって彼女は喜んでいた。

快晴下、バスは大草原の通路を疾走する。一一時二〇分よりティティカカ湖へ小型遊覧船で出る。海抜三八〇〇メートル、定期船が出る湖としては世界最高所にあるこの大湖は半分がボリビア領。

一二時に浮き島のトラニパタ島へ上陸。葦で作った原始的な家はまさに弥生時代そのもの。民族衣装の婦人たちが座り込んで織物を売るが安くはない。

次に別な浮き島のバルセラ島へ行く。ここでは小学校の子供たちが歓迎の歌をうたってくれる。日本の童謡もまがりなりにうたう。校舎も小屋がけの粗末なもので、机と黒板以外、設備らしいものはない。これを予想して日本を出る前に大量のボールペン、エンピツ、ノートブック等を携行し、こちらの貧しい子供たちに分け与えようと計画していたのに、超多忙のため準備しそこ

ねてしまった。

三時頃、湖畔の町プノに上陸。昼食に出た湖でとれるペヘーレイという白身の魚が美味。食事後は自由行動なので市場（メルカード）へ一人で出かける。非常に土俗的で異国情緒たっぷり。インディオの婦人たちにカメラを向けると一様に顔を伏せる。写真に写ると魂を抜かれると信じているのだ。ホテルで夕食後、城地君の部屋に約二〇名が集まって、田中淳君持参のウィスキー湯割りを飲みながら一二時まで歓談。

一七日はフリアカ空港からアレキパ空港経由でリマへ帰る。さすがに暖かい。今度は五つ星のクリヨンホテルなので豪華版。

壮観なナスカの地上絵

翌一八日は最後のハイライト、ナスカの地上絵の見学だ。リマ空港より小型双発プロペラ機を三台チャーターし、一機に八人乗り込んで七時三五分に離陸。私は副操縦席に座る。時速二八七キロ、途中から三一五キロに加速。高度三九〇〇メートル。右手に僚機が見える。帰途には同乗していた富岡設子さんがUFOらしい物を見たという。

一時間後の八時三八分にナスカ空港着。空港といってもビルはなく、ただの滑走路だけだ。

九時に一番機としてセスナ機に筆者と田中淳、藤村雅夫の両君の三名が乗り込む。緊張しながら6×7カメラと35ミリカメラの二台で撮り続ける。九年前にここを飛んだときは日中であったため、太陽の陰が線画につかないので絵の輪郭がはっきりしなかったが、今度は朝なのでまだ太陽が傾いているから線画がシャープに浮き上がる。

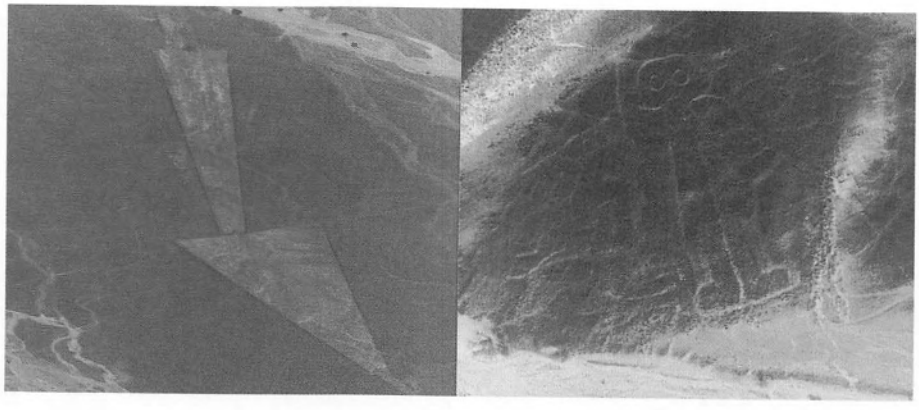
上空から見ると、どの絵も自動車の車輪の跡でかなり荒らされていることがわかる。ナスカの地上絵も長くはないなと思い、ついには左右の手でカメラを一台ずつ保持して焦（あせ）りながら撮りまくる。

周知のようにこの地上絵も世界最大の謎の一つとして名高い。数一〇キロにわたる広大な平地や丘に二〇〇種類をこえる巨大な動物の一筆描き、渦巻、滑走路に似た三角形の台状図形、線型模様等が展開して壮観だ。いつ頃、誰の手で、何のために描かれたのかは皆目不明。ここに住みついて多年研究したドイツ人のマリア・ライヘ女史は、天文学や暦に関連して描かれたという説を立てているが、そうではないという反論もあって諸説紛々。

一つ確かなことは、地上絵のどれも地上からは絶対に見えないということだ。すると天空の方向に見せようという意図があったことは間違いない。飛行機のなかった大昔、天空の誰に見せようとしたのか。異星からくる宇宙船に対する標識ではなかったのか。しかも上空のUFOからビームを放射して地上の人々に描かせたのではないか。そうでもしなければあれほど均整のとれた巨大な一筆描きの線画が古代人に描けるはずはないのだが――。

ここで『異星訪問奇談』の主人公・春川正一氏の意見を引用しよう。

「あれも宇宙人の影響があります。あれはヒエロニムス・パターンという技術です。一定の図形を二次元平面に描くことによって、そこの波動を調整するわけです。サルの尻尾がなぜあんなにグルグル渦を巻いているのか、なぜ鳥があんなに不格好なデザインになっているのかといいますと、あれは方位的なものと二次元表面に描かれ図形がかもし出すエネルギー、すなわち波動がうまく調和して、いろんな反応を起こすんです。たとえば上空からUFOがやってきて、UFOの波動に触れますと、図形の縁（ふち）が全部光りだすような鉱石がはめ込まれているんです。だから昔は管制塔的な役割を果たしたのでしょう。図形が描かれた時代は考古学で言われている年代よりは古いですね。アトランティスが存在していた頃からではないでしょうか」（同書一四一頁）



▶ナスカの地上絵。右は丘の斜面の「宇宙人」といわれる図。左は滑走路に似た三角形の台地。いずれも巨大なもの。

ナスカから再度リマへ帰り、リマから米ロサンゼルスへ引き返し、一泊後、二〇日夕刻全員無事に成田へ帰着して大旅行は終了した。ハードなスケジュールにもかかわらず皆さんが全く不平を言わず整然と行動されたことは賞賛

●ティティカカ湖上空のUFO

8月16日、日本GAP旅行団がペルー南端のティティカカ湖へ遊覧船で出たとき、上空に奇妙な物体が出現したのを2度目撃した石原千容子さん（千葉県）が、その都度撮影したもの。上の写真は中央上方に黒い物体を、下の写真は中央に白い物体をとらえている。

にあたいする。あらためてお礼の言葉を申し述べたい。

海外へ出るたびに痛感することが二つある。一つは如何なる国の如何なる人種を見ても人間はみな同じだということ。だから万物は一体だ。次に外国語。英語を母国語のように身につける必要を今更のように感じるのである。超多忙なのと暗記力の衰えた年齢では学習も不如意だがなんとか頑張りたい。

なおこの旅行に関しては出発前に春川氏が未来予知により「(1)全員が確実に安全に帰国できる。(2)旅行の後半のペルーでUFOがしばしば目撃されるが、これはGAP旅行団に対する祝福のシルシである」と予言していた。そしてそのとおりになった。

◀ティティカカ湖の浮き島にて。

（掲載写真の内、撮影者名のないものは筆者撮影。全員記念写真はセルフタイマー使用）

参考にした文献

『インカ帝国探検記』増田義郎著、中央文庫、中央公論社

『大航海時代』増田義郎著、講談社版「世界の歴史」第13巻

『図説インカ帝国』フランクリン・ピース、増田義郎共著、小学館

『アンデス文明』ルイス・G・ルンブレラス著、増田義郎訳、岩波書店

『インカ帝国』泉靖一著、岩波書店

『大帝国インカ』ミロスラフ・スティングル著、坂本明美訳、佑学社

『失われた大陸』E・B・アンドレーエヴァ著、清水邦生訳、岩波新書

『ナスカの地上絵』シモーヌ・ヴェズバール著、植田覚監訳、大陸書房

『ナスカの巨大な地上絵』ウィリアム・H・イズベル原著、高山信雄原訳、日経サイエンス社

『Prehistory of the Americas』by Stuart J. Fiedel, Cambridge University Press

日本GAP企画第12回海外研修旅行

ローマ・エルサレム・イスタンブール聖域の旅

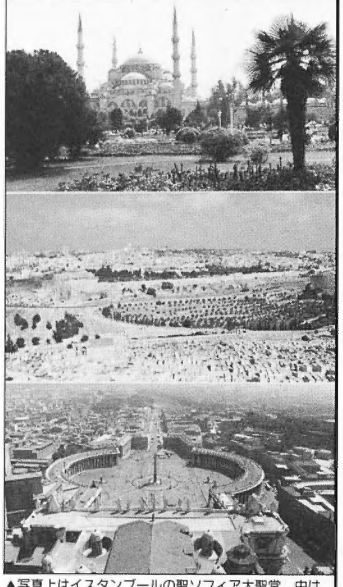
★期間＝1990年8月8日より19日まで12日間／費用＝概算65万円(多少の変動あり)

日本GAPは毎年海外研修旅行を実施して多大の成果をあげていますが、1990年夏には3カ国の聖域や遺跡視察の旅を行ないます。何度行っても感動を新たにするエルサレムのイエス関係の遺跡、特にゴルゴタの丘の十字架跡に建てられた聖墳墓教会、イエスが逮捕される前夜に歩いた石段、ゲッセマネの庭園、ベツレヘムの生誕地、美しいガリラヤ湖、その他至宝の遺跡を巡り、イスタンブールではビザンティン帝国時代の世界最古の聖ソフィア大聖堂、オスマントルコ帝国の遺物と宝物を展示したトプカプ宮殿その他を見学、ローマでは大ローマ帝国時代の名高い遺跡と世界最大のサンピエトロ大寺院を視察します。日本GAPは宗教とは無関係ですが、会員ならば一度は訪れたい必見の場所を選びました。ベテランの田中正と久保田八郎が秘策を練った手作りの最高に楽しい海外研修旅行に多数ご参加の上、生涯忘れられない素晴らしい日々をおすごし下さい。

日程

8月8日成田発、モスクワ経由ローマへ。1泊後9日にトルコのイスタンブール着。午後は自由行動。10日同市内の大聖堂その他を見学。夜は有名な劇場キャラバン・サライで民族音楽と舞踊を鑑賞。11日は終日自由行動、グランドバザールでショッピング等。イスタンブールで3泊後、12日にイスラエルの首都エルサレムへ行き、13日と14日は同市内の遺跡をたっぷりと見学、エルサレムに3泊後、15日は死海沿岸のマサダの遺跡へ登り、死海で海水浴。クムラン洞穴、世界最古の都市遺跡エリコを訪ね、ティベリア泊。16日ガリラヤ湖を船で周遊、山上の垂訓教会、ナザレ等を見学後ローマへ帰り、同夜ローマ泊。17日サンピエトロ大寺院、コロセウム、フォロロマーノ、トレビの泉、その他を視察、ローマ2泊後、18日ローマ発、19日成田着。(以上大要のみ)

※8月は年間で航空運賃が最も高騰する月ですが、他に実施時期がありませんのでご了承下さい。旅行の詳細については案内書を下記へハガキでお申込み下さい。



▲写真上はイスタンブールの聖ソフィア大聖堂。中はオリーブ山から見たエルサレム市街。下はローマ・バチカンのサンピエトロ大寺院の頂上展望台から見おろしたローマ市内。(撮影／久保田八郎)

ワールドセブントラベル株式会社 〒150 東京都渋谷区東3-24-9 サンイーストビル2F ☎03-499-2461 担当＝田中 正

※夜間は田中自宅の☎0474-77-4728へ22:00以後にお問い合わせ下さい。

I Saw UFOs in Peru
by Setsuko Tomioka

私はペルーでUFOを見た

かねてから特異な体験をもつ筆者の海外UFO目撃記

富岡設子

一九八九年八月九日、長いあいだ憧れていたペルーへようやく旅立つことができた。おまけにアメリカのアダムスキーゆかりの地へゆけるとは夢のようであった。

日本GAPの海外研修旅行に参加したのは今回で二度目になるが、やはりハードな旅だった。しかし健康を保ちながら始終楽しく過ごせた理由の一つとして、絶えず感じていた不思議な波動が私に作用していたからではないかと思っている。

不思議な虹

実際、円盤らしき光体の目撃は、かなり多かった。最初に不思議な波動を感じとったのは八月一〇日、デザートセンターへ向かうバスの中でのことだった。

一一時にモハービ砂漠へ入った頃からソワソワして落ち着かない気分になる。それから何となく視線は空の方へ移ってゆく。しばらくして色のついた雲が浮かんでいるのに気づいた。タテ型の細長い棒状のものが二本。長さは見かけ上、手を伸ばしたときの人差し指ほどである。

両方とも上半分がブルー、下半分がピンク色をしていた。最初は小型機の空中ショーなどで見る色つきの飛行機雲かと思ったが、いつまでも消えないので様子を見ていた。

バスはようやくデザートセンターへ入る。一二時半、車内でランチをとる。ボリュームのあるサンドウィッチとビッグサイズの缶コーラと格闘している内、全身が何とも言えない高揚感に満たされてゆく。注意深く外を見ていると、今度はごくありふれた不定形の雲に色がついているのが見える。淡いパステル調の三〜四色がかすかに感じられる。

それからその雲は徐々に変化してゆき、長さは短いが、水平で幅広く、淡いトーンの美しい虹に姿を変えた。あわてて近くの人に知らせる。

一時に休憩のためにガソリンスタンドでバスが停まり、みんなで降りて虹を確認し合った。「私達は祝福されている」そんな気持が心に広がった。たぶんみんなも同じ気持をもっていたに違いない。素晴らしい出来事だった。

一時半、現地到着。不思議な虹の出現も手伝って、この大地に足をおろした瞬間、胸が一杯になってしまった。アダムスキーが歴史的な体験をもったこの地へ来たことが、私にとってこれからの行動の出発点になるだろうという予感が頭をよぎっていった。

夜空の光体

八月一四日、ペルーに入って三日目。マチュピチュの謎の空中都市を見学して、列車でクスコへ戻る途中、突然、思いがけないハプニングが起こった。なんと列車が故障で停まってしまったのである。車内は停電してまっ暗になった。一瞬呆然となるが、なぜか恐怖心は起こらない。

時刻は夜の八時。予定ではもうホテルへ着いている頃だ。長時間停車している車内にいてさすがに退屈し始めたので、気分を変えようとして外へ出た。いきなり「あれは金星です」というガイドさんの声がする。見ると澄んだ美しい夜空に燦然と輝く星があった。

しかし感嘆する間もなく、おかしな事が起こった。その金星の下の方の角度にして約四五度のあたりに、小さな星が二つタテに並んでいたのだが、突然、下の星が雲もないのにパッと消えたのである。目の錯覚かと思っているうちに、その星は上方へ移動した。まわりにいたGAPの女性群にすぐ知らせる。

すると奇妙なことに星だと思っていた光体は輝きを増しながらスピードをあげて移動し始めた。約二秒間隔で姿を消してはまた明るく輝くという調子で移動を続けて、結局、光体は視界に入る夜空を四分の一周ほどして完全に消えた。

皆さんが大騒ぎしたので、ガイドさんは「あれは円盤ではありません。飛行機です」と大声で断言した。断言に弱い私達はがっかりして、すごすごとまっ暗な車内へ戻った。

私は自分の座席に着いてから、今見た物をゆっくりと回想した。「飛行機のような点滅の仕方ではなかった」とまず思った。

次に、飛行機だとすれば、あれだけの距離をあれだけのスピードで移動するには、少なくとも形が確認できるぐらい低空飛行をしていなければならない。もちろん音を伴って——。だがあの物体は全く無音だった。やはりUFOなのではないかと推測する。

この後しばらくして列車は動き出し、夜中の一一時四〇分、全員無事にホテルへ到着した。

奇妙な夢が実現

八月一五日、フリアカという物騒な町のホテルに宿泊。それにもかかわらずまたあの何とも言えない高揚感に包まれて、右足の筋肉がピクピクと動き続ける。

その夜、不思議な夢を見た。

なだらかな山々の上空にアーチ型の雲が現れる。次に美しい竜の形をしたまっ白な雲が出現し、少し丸味を帯びた長方形の半透明に美しく光る物体がそのあいまを縫って乱舞するのである。夜中の二時に目が覚めたときも心臓はドキドキしていた。

翌一六日は朝から胸がときめいて落ち着かない気分だ。一〇時半、バスでティティカカ湖へ向かう途中、空にアーチ型の雲が出ているではないか。状況は昨夜見た夢と酷似している！

注意深く観察していると、上空約六〇度の雲の中から白い物体が水平に飛び出て、カーブを描いて、雲のない青空の中に消えた。見かけ上の大きさは腕を伸ばしたときの小指の頭の三分の一ぐらいだった。動いた距離は人差し指ぐらい。

ティティカカ湖上の浮き島トラニパタ島など葦で出来た島を見学して帰る途中のバスの中から、数回続けて光体を目撃する。皆疲れてぐっすり眠っていた。例の高揚感が私を眠らせない。

六時一五分、行きのバスの中から目撃したのと全く同じ場所に全く同じ出現の仕方をした光体を見る。続いて六時三〇分前後にたて続けに光体を目撃する。その内二回ほどは前席の渡辺さんと一緒に確認し合った。

この時も二つ並んだ星の内、一つが急に動き出すというケースである。微妙に動くのではない。はっきりと移動するのである。一分間近く動き続けて消えたのもあった。

◀右から筆者(富岡設子)、久保田八郎、阿部祥子。ナスカにて。

ナスカからの帰途、UFOが出現

八月一七日朝八時頃、この旅のメインの一つでもあるナスカへ到着する。空気がすがすがしい。

一〇時、四人乗りのセスナ機で上空から地上絵を見学する。所要時間約四〇分。この間セスナ機の中で徐々に気持が変化してゆくのがわかる。私の中で全く思いがけないことが起ころうとしていた。

なんだかとても奇妙な感覚に襲われたのである。懐かしい感じ——確かにそうだ。しかしそれだけではない。これまでにも懐かしいと感じる場所には何度か遭遇したことはある。

そのうちに涙が溢れてきた。この現象をどのように解釈してよいか戸惑っていた。だがその妙な感情がある所まで登りつめると、意識の奥から何か語りかけてくるような感じがあるのだ。そして不思議とそれを理解できるのである。フツフツと印象は湧き起こり、意識の底で語るサイレントな声が言う。「昔、私はここに居た。ここで地球の未来のビジョンを精一杯描いた」と。

全く主観的なレベルでしか解釈できないし説明することができないのだが、私はここで立てた〝志〟を思い出すために、ここへ引き寄せられたのではないかと憶測する。そう思うと感謝の念が自然に溢れ、再び胸が一杯になる。

ナスカを離れるのは少々辛かった。もう少し長くいればもっと鮮明に記憶がよみがえったかもしれないという思いと、やっと帰ってきた故郷をあとにするような惜しさが入り混じって、帰りのリマ行きの軽飛行機の中では疲れているにもかかわらず眠れなかった。しかしセンチメンタルは性に合わないので、割り切って気分を切り替えた。

他の人達は首をうなだれて、ぐっすり眠っている。私は無理やり体をよじって、ま後ろにある窓から外を眺めていた。やはり、どうも何かを感じるのである。だが何も現れない。あきらめて前を向く。

その時、斜め前方の窓がチラッと気になった。印象に従って狭い機内で精一杯体を乗り出して空を見た。

すると奇妙な物が視界に飛び込んで来た。あたり一面まっ白な雲だというのに、翼の下のむこうに黒いカマボコ型の物体が三つ、横に等間隔に並んでピッタリついて来る。見かけ上は親指の頭ぐらい。飛行機ではないようだ。黒い雲なのかとも思ったが、形は全然崩れない。一二時四五分から五〇分の間、約一〇分間現れていた。私達の乗った飛行機が下降し始めると、いつのまにか視界から消えた。すぐ近くにいた田中さんに知らせたが、その時はすでに見えなかった。みんなで一緒に確かめることができなくて残念だった。

今回の旅は思えば故郷への回帰だった。遠くへ来たという感じがほとんどしない。実に有意義な時間を過ごすことができた。私の思考や生き方に対する示唆を与えられたことが、この旅で得た最大の収穫であった。機会があればまたペルーを訪れたい。久保田先生、田中さん、同行の皆さんに心から感謝します。

(筆者は神奈川県在住。雑誌編集デザイナー)

The Only Japanese Man Who Met Adamski
by Yutaka Mukai

アダムスキーに会った唯一の日本人(完)

向井 裕（ポール大観）

ついに実現したアダムスキーとの対談に筆者は夢心地

アダムスキーからの招待状

向井教授殿

一九六四年六月一四日

ジョージ・アダムスキー

あなたから一九六四年六月四日付けの長い興味深い、生物学的、求道的なお手紙と万国共通返信用切手券を受けとりました。ありがとう。

あなたがビスタへ夏休みに来られるとのこと、心からお待ちいたしております。

ロサンゼルスにお着きになったら、もう一度ご連絡ください。留守に来られて、会えなかったら大変ですから。

第二回目のアダムスキーへの手紙

一九六四年七月二〇日

向井 裕より

偉大なるジョージ・アダムスキー様へ

あなたの一九六四年六月一四日付けのご返書に接し、感激にうちふるえています。ありがとうございます。夜もコーフンして眠れませんが、すこぶる私は元気です。この手紙は前回の補正のためで、夜眠れないままに書きつづけます。この手紙があなたの手許につくころ、私は日本を出発して、あなたの国へ向かっていることでしょう。

〈人の誕生日及び誕生日から二カ月間の生物学的意味〉

この太陽系や島宇宙そして銀河系の大宇宙に対して、われわれ人間は小宇宙といわれます。大宇宙がたえず星々を産み、成長させ、崩壊させ、また産むのと同じように、小宇宙である人間も、受胎、胎生、分娩、誕生、成育そして死、これらを繰り返します。

この小宇宙たる人間も大宇宙の秩序そのものに従いますし、逆に小宇宙の研究はまた大宇宙の研究に通ずるものがあると私は思います。

あなたの誕生日は一八九一年四月一七日ですね（筆者注＝『宇宙からの訪問者』久保田八郎訳、文久書林、二八八頁）。私は一九二五年一〇月二日生まれですから、誕生月はあなたが春で私が秋の対象月です。陰陽の言葉を使いますと、あなたは陽性の生まれで、私は陰性の生まれです。

いま私は、人の誕生日及び誕生日から二カ月間の生物学的意味を考えています。人の受胎期間は一〇カ月です。これは一年の一二カ月より二カ月少ないのです。胎児は受胎期間中一年のすべては経験しません。生まれた日、オギャーといって肺呼吸をはじめます。はじめて空気を吸うのです。このこと自体、大へんな変革です。生まれた日から二カ月間、すなわち受胎日までの空白期間、その間は、第一回目の未経験の激変期を過ごすことになります。なぜなら受胎もしていなかった空白期間中ですから。生まれて三カ月目からは、受胎中と生後合わせて、地球上での第二回目の経験に入ります。そしてから満一歳の誕生日が来ます。それからの二カ月間は右の激変期の第二回目の経験をします。この激変期は毎年、潜在的な激変期として繰り返されるでしょう。昔から厄年ということが言われますが、私は毎年くり返される厄月というものがあるのではないかと考えています。

あなたは一八九〇年六月に受胎され、一〇カ月後の一八九一年四月一七日に生まれました。四月一七日から二カ月間は胎児期間中に経験をしなかった空白期間です。この潜在的激変期を厄月と私は称していますが、このことは別に気にすることはありませんし、自然に経験によって慎重な行動を人はとることが出来ると思います。（筆者注＝ずい分後になって『アダムスキー論説集』久保田八郎訳、文久書林二二八頁）で、アダムスキーの病没が一九五五年四月二三日と知りました。アダムスキーの誕生日、四月一七日から二カ月間の潜在的激変期、すなわち厄月の間に偶然相当しているところから、私は生物学的意味について考え込んでしまいました）

名前を必要としない先進惑星人

あなたは、宇宙人には地球人のような個有の名前はないと言われます。「ここで読者に断わっておくのがよかろうと思うが、私の会った宇宙人たちで、地球人のような名前を告げてくれた人は一人もいないのである。その理由は彼らが説明したけれども、ここでは十分に述べられない。これには別に神秘的なものがあるわけではなく、我々が用いているような人の名の概念が完全に違うのだとだけ言えばよいだろう」（『宇宙からの訪問者』一一九頁）

とありますね。私は考えます。宇宙人は地球人のように個性化、個別化を必要としない時代を迎えているのだろうと。逆に地球人は呼び名によって、どんなに個性化、区別化がなされているかを実は、いま私は研究しているところなのです。

◀昭和五二年、西日本放送テレビの「音波占い」に出演した筆者（右端後ろ姿の人物）。ブラウン管で音の波形を見せながら一卵性双生児、ミエちゃんとエミちゃんがミは基本母音ー音、エはE音に決定的に影響され、まるで別な性格になっていることを説明中。

易学研究を始める

敗戦後の焼け野が原の高松にもヤミ市がありました。街頭易者が口上よろしく人を集めていました。ものめずらしさから私も立ちどまって聞き入ります。面白くなって毎日見に行きます。はじめから終わりまで聞いていると、途中で大先生と弟子が交替します。次の立会いも聞いていますと、弟子と称する人が大先生になって現れます。毎日毎日聞いていると口上も覚えてしまい、人集めの商売上手なテクニックもわかってきます。

私は大学へ行くため京都に移りました。京都という古い町には易者がいっぱい居ました。学生たちの中にはバイトで易者をしている人もいました。易者先生ともお友達になりました。その易者先生は、名前の画数を数える、いわゆる画数姓名判断をしている人でした。いきなり私の名前の画数は最悪といわれ、私はショックを受けます。

人は弱いものです。気にしなくてもいいようなものの、それでも最悪といわれたら、やはり気になります。易の本を集めて私は研究をはじめます。そして一〇年も経ったある日、その易者先生に会って、おそるおそる私はいいました。「先生、私の名前の画数は、こう数えると最高にいい画数になりますが、どうでしょうか」と。すると易者先生「ああ、そう」と一言だけいうのでした。

私は一〇年もかかって、やっと画数姓名判断を卒業することができたのでした。そして、いつの間にか易学の一派をつくり上げていました。

音波姓名学

それは宇宙人には必要でないところの、地球人の呼び名、名前の音のひびきによる姓名判断でした。

あなたも『宇宙からの訪問者』一四五頁にこう言われています。「大昔、地球に住んでいた人々は音響と振動に関する宇宙的な法則を完全に理解して応用していたと申し上げれば、びっくりなさるかしら?」「あらゆる旋律は一定の音譜で組み立てられるが、それと同様にあらゆる言葉は音楽の音階に似ている」と。

音はブラウン管で波形として眼で見られます。人の呼び名の頭字の持つ子音と母音もブラウン管で見えるし、振動数を数えることも出来ます。ブラウン管に接写カメラで、この波形の写真撮影に私は成功しました。左の表は手書きのものです。基本母音アイウエオの波形はイウ音とアエオ音の二つに大別できます。そして次表のように、頭字の子音と母音が面白い決定的影響を人の性格に与えます。

振動数の数の多い音、すなわち強い音として、順番をつけると、基本母音については、一番強いI音、次に強いのはA音、そしてU音、E音、O音となります。ここまでは物理学です。次に心理学上では、パブロフの条件反射です。生まれてから一四日以内につけられる名前、氏名のうちでは氏ではなくて、家庭では下の名の方だけが呼ばれます。赤ちゃんに付けた地球人の名前は可愛いくて、一日に何一〇回も繰り返されて呼ばれます。第一日目に、すでに条件反射に必要な一〇回以上の繰り返しがなされます。毎日毎日、呼び名は繰り返されて呼ばれます。三カ月も経てば、この呼び名で赤ん坊は完全に反応します。自分の名前を知るのです。赤ちゃんの名前の振動は赤ちゃんの全細胞を振動させます。音叉の共鳴共振と条件反射が心理的に作用するのです。

かくして、人は三歳までにすべてを学び終わるといわれ、三つ児の魂百までといわれる、その三歳までに、完全な条件反射が完成し、その子の名前の強弱による性格づけ、音波の強弱による絶対的影響がもたらされます。そして成人してからも、この影響は長く尾をひきずっていきます。

アダムスキーとの質疑応答

一九六四年八月一八日
米カリフォルニア州ビスタにて

問1（向井）手紙に書きましたように、

私は地球上から病気と病院をなくすことを考えてきました。病気の原因が体内のよどみにあり、ウイルスはお友達とする私の意見について、あなたの御批判をいただきたい。

答（アダムスキー）その通りだと思います。大変興味深い生物学的お話をありがとう。ただし、玄米などにこだわると、そのこだわりは、またハートによどみをつくる因になるでしょう。

問2 厄月の考え方はどうですか。

答 何ともいえませんが、誕生日は人が地球上で、はじめて空気を吸いはじめる激変期といわれる点は、その通りだと思います。

問3 音波姓名学について、またスペースピープルに地球人的名前のないわけについて。

答 音波姓名学は大変興味深いものです。あなたの言われる通り、余興として、お遊びとしてなら大いに結構ですね。私を占ってくれてありがとう。スペースピープルに地球的名前のない理由は、名前の概念が違うということだけ申し上げておきましょう。

問4 私は父の影響からスポーツ嫌いになっています。スポーツは戦争文化の遺産だと思いますが、どうですか。

答 あなたのお父様は大へん偉い方です（筆者注＝自分の父親のことをほめられて、顔が赤らむ思いで、ものすごくアダムスキーに親近感を覚えました。もしかして、前世、私の父とアダムスキーは深いかかわりがあったのではと、一瞬考えさせられました。また、私自身、生まれてはじめて見るロサンゼルスやビスタの街が、いま住んでいる日本の高松市の街と何ら違和感がないので、私の近い前世で、この街に住んでいたかのような錯覚さえ覚えました）。

問5 金星から宇宙旅行用には植物の乾燥根が運ばれるという、その植物の根を主食としている点、また豊富な果物を食べる食習慣から考えてみて、金星の自然は地球より高温多湿ではないかと考えますが、どうですか。

答 その考えは一部当たっています。しかし、金星も地球と同じように寒暖の地域差があります。

問6 地球が流刑の星だったという話は、私たちの祖先がそうだったと考えてショックを受ける人が多いと思いますが、私は逆に新しい星・地球を開拓した祖先は勇者でありパイオニアであったと思いたいのですが。

答 生まれ変わりの原理が理解できれば、自ら氷解できることです。あなたの祖先がパイオニアであったと考えるあなたは、あなたご自身がそうなるべきでしょう（筆者注＝アダムスキー全集第8巻『質疑応答集』久保田八郎訳、一四〇頁参照のこと）。

問7 あなたはメキシコへよく旅行に出かけられると聞いています。あなたに反対する人たちは、スペースピープルとのコンタクトマンがメキシコにいて、あなたは単にその受けうりをしているに過ぎないという人もありますが？

答 地球上には、いつでも何でも疑い、反対する人がいます。別に気にしていません（筆者注＝このときアダムスキーは、きれいな眼で、にっこりほほえみ返したので、私は安心しました）。

問8 宇宙人の中にサタンはいますか。

答 いません。あなたのウイルスの話（筆者注＝本誌前号に掲載）にある通り、ウイルスがサタンでないように、サタンはいません。地球人が自分自身の中にサタンを見るのです。

問9 あなたの書物の中には、陰と陽という言葉が出てきますし、大へん東洋的なお考えを持っていらっしゃるのですね。

答 私自身の前世は中国人であったことがあります。だから東洋的なものの考え方は好きです。東洋的とか西洋的とかいうのではなく、地球は一つですし、宇宙的な考え方を中心にすれば、西洋的すぎる現在、むしろ東洋的に片よることもいいことです。あなたもそうですね。

問10 黒褐色の眼、黒髪にウェーブがつけて、刈ってある土星人（『宇宙からの訪問者』一一五頁）、地球上の白人と変わらない火星人（同書一一四頁）などとあるように、われわれが地球上で考えている人種問題を、宇宙的尺度で、すでに解決している太陽系先進惑星文明の偉大さにうたれています。ありがとうございます。

答 大へんよく理解してくれて、ありがとう。

問11 月や惑星についてお話しください。

答 月には空気はもちろん、海もジャングルもあります。人間が二万人住んでいます。太陽系の総人口は一四四〇億人です。（筆者注＝この答に私はとてもショッキングに思いました。湖といわずに海といい、単なる植物地帯といわずにジャングルといい切ったところにびっくりしました。そして明確な数字に眼をみはりました。よほどの確信を持っているのだなあ、と感心しました。私自身、いままでこの数字を発表しませんでした。私もちょっぴり心配でしたから。しかし今となっては私も確信が持てるようになっています）

問12 最後になりましたが、この私は一体これから何をしたらいいのでしょうか。

答 それはやがて、あなたご自身が答えを出されることでしょう。はるばる日本からご苦労さまでした。サンキュ。（筆者注＝この第12問の答をいままで考えつづけてきました。そしていま安らかな気持でいます。あわてず、さわがず、久保田八郎会長先生に甘えたい気持でいます。これからも宜しく御指導くださいますよう皆様にお願い致しまして、このシリーズを完結させてい

ただきます。長い間ありがとうございました）

付録1

平成元年八月二九日　向井裕

高松UFO会館を創って九年が経ちました。うちの事務局長は日下昭氏です。彼は古い日本GAP会員でした。また日下昭氏は、自民党香川県連青年部組織副委員長を前からつづけています。ですから、自民党青年部の指導に当たっていた海部俊樹代議士とは仲よしです。昭和五八年はじめ、自民党の自由新報でUFO特集をやろうという話が出て、海部代議士にUFOコメントを求めたところ、心よく引き受けられ、日下昭氏のところへ原稿が送られて来ました。その海部俊樹さんが総理大臣になったというので、彼も私もよろこびました。お祝いの手紙も送りました。短命内閣のそしりもある海部内閣に私たちは声援を送るものです。そして、彼のUFOコメントを原文のまま、私たちの責任において、自由新報より一足先に発表させていただきます。

UFOコメント

東京都千代田区永田町

衆議院第一議員会館

海部俊樹

夢を信じたい

「UFOの存在を信じるか」と問われると、「見たことは無いが信じたい、信じた方が夢があっていい」と僕は思っている。僕が労働政務次官でILO会議に参加しての帰り路だから、確か昭和四十二年の秋と思う。モスクワに立ち寄り、新関駐ソ大使公邸で、黄田多喜夫さんという外務省の大物（筆者注＝後の外務事務次官。昭和三一年四月一日、駐英公使だった黄田氏は、「イギリスの学者の間ではUFOが真面目にとりあげられている」との手紙を日本の自衛隊の上村幕僚長に送ったニュースが読売新聞に載せられた。日下昭氏は黄田さんからも手紙をもらっている）と御一緒した時、UFOに関する種々な御話を興味深く承ったのが、昨日の事の様に鮮やかです。四次元の世界の理論が大切で、四次元に達している動物の中では蜂が存在し、ピラミッドの構築は重力を一時断つ能力を持った四次元の生物の助力なしには考えられない……など話が進み、四次元の世界の象徴的物体がUFOだ、という夢多き話で、モスクワの一夜を大いに楽しませて頂いたものでした。以来、「UFOを見たい」その一念で注意していますが、まだ駄目です。

一昨年一二月、中村弘海代議士、村山雅美南極越冬隊長と共に、僕は招かれて南極点のアムンゼン・スコット基地で暮らしました。極磁点の神秘な空を見て、UFOを探しました。また、ガダルカナル島エスペラン岬から海へ入り、サボ島に向けて泳ぎながら、南太平洋の夕空にUFOを探しましたが駄目でした。

スイスのツェルマットでも、オーストラリヤのエアーズロックの上からでも、いつも空を仰ぐ癖がつきました。旅の想い出の中に、そして今度こそ見られるぞ、と期待するひとときが楽しみになりました。僕はこれからも、いつかUFOに出会える瞬間の興奮を期待して、人生の旅を続けます。

遅くなりましたが、御依頼のUFOコメント送ります。綾田君がUFO特集を求めたとは、彼も夢多き男であったと改めて見直しました（筆者注＝綾田氏は当時、自由新報編集委員。現在香川県議）。

昭和五十八年三月十七日

海部俊樹

自民党香川県連青年部組織副委員長

日下　昭様

付録2

アダムスキーとの会談後、私のやるべきことは何かと考えつづけていましたが、「アダムスキーに会った唯一の日本人」の原稿依頼が久保田八郎会長先生からあったとき、とりあえず、月面のアダムスキー理論の証明をしようと決心しました。それで、京都大学理学部天文台の助教授先生方とディスカッションをはじめ、また同先生方の協力を得てNASAと交流、ぼちぼち資料が送られて来ています。やがて発表できるときがくると思いますが、その前に一つ、びっくりしたことがあります。そこで、いますぐ皆さんに「人類が月を歩いた――アポロ11号の全交信記録」（毎日新聞出版社刊、三〇〇円）をお読みいただくことをおすすめします。右書は今は絶版ですので入手困難かと思いますが、私は県立図書館経由で国立国会図書館から貸出しを容易に受けることが出来ました。

私は日本語のその小冊子を息をのむ思いで読み、そして写しました（図書館のコピー料は高いので筆記しました）。ついでに、アポロ11号のアームストロング船長のオリジナル・サインの入った右原書も国立国会図書館から借りることも出来ました。

海部総理大臣▼（ロイター・サン）

〈国内有力紙に掲載された科学記事を抜粋紹介。各記事末尾のカッコ内数字は掲載月日を示す〉

ボイジャー2号、海王星を撮影開始

米航空宇宙局（NASA）は六月八日、太陽系の最も外側にある海王星に向けて飛行を続けている惑星探査機ボイジャー2号による海王星の撮影を一三日から開始すると発表した。ボイジャー2号は一九七七年に打ち上げられ、木星、土星、天王星の順に観測してきた。その後、海王星に向きを変え、時速約六〇〇㌔で飛行、最接近するのは米太平洋夏時間八月二四日深夜になる見通し。ボイジャー2号と地球は現在四〇億㌔離れているため、探査機から同研究所に信号が届くのに四時間六分もかかる（6・10読）。

スイ臓ガン新手術法、京大が開発

消化器ガンの中で最も治りにくいスイ臓ガンに対し、スイ臓を広範囲に切り取り、後ろ側の血管や神経なども取り除く新手術法を京都大医学部第一外科の真辺忠夫講師（㊽）らが開発、患者の五年生存率はこれまでの手術に比べ約三倍も高まった。一五日から米オハイオ州トレドで開かれる「スイ臓ガンシンポジウム」で発表、足踏み状態のこのガンの治療は大きく前進しそうだ。食生活の欧米化でスイ臓ガンは年々増え、現在、毎年一万人以上が死亡している（6・13読）。

ゴキブリ退治、米で新薬を開発

ゴキブリに強敵が現れた。米国で森林害虫の駆除用に新開発されたヒドラメチルノンで、致死効率はほぼ一〇〇%。ゴキブリの繁殖に悩んでいた米議会内でも大戦果を上げた。わが国では大正製薬から「コンバット」の商品名で発売された。これ一個で四五〇〇匹のチャバネゴキブリを駆除できる（6・14読）。

海王星に大黒斑、直径一万キロ

海王星に直径約一万㌔に及ぶ巨大なスポットのあることが、米国の惑星探査機「ボイジャー2号」により発見された。米航空宇宙局（NASA）のボイジャー計画に携わってきた物理学者のエドワード・ストーン氏は「木星の大赤斑に似ており、大きなハリケーン様の嵐が作っていると考えてもおかしくない」と語っている（6・20読）。

乳ガン抑えるタンパク質

米ミシガン大学の研究者グループが、試験管内で乳ガン細胞の成長を抑えるタンパク質の抽出に成功した。米国では一〇人に一人の女性が乳ガンにかかるといわれ、毎年四万人近くの女性が乳ガンで死亡しており、この新タンパク質が乳ガン治療への道を開くと期待されている。成功したのは同大ガン・センターのマックス・ウィチャ博士その他（6・30読）。

海王星南極部に黒い2本の帯

米航空宇宙局（NASA）は五日、惑星探査機ボイジャー2号が撮影した写真から、海王星の南極部に大気の流れである黒い二つの帯を発見したと発表した。カリフォルニア工科大学の天文学者、アンドリュー・インガソル氏は「地球のジェット気流に似ているようでもあるが、木星、土星、天王星などの帯とより似ている」と述べている。この帯は二本合わせて四三四五㌔の幅があり、南緯五〇度から七〇度にかけてかかっており、黒っぽい色の単色（7・6読夕）。

凍結受精卵で妊娠、日本で初めて成功

東京歯科大市川病院が、慶応大産婦人科グループとの共同で、凍結受精卵を移植する不妊治療でわが国初の妊娠に成功していたことが一二日明らかになった。患者は現在妊娠四カ月の後半で、超音波検査により胎児は双子であることが確認されている。精子と卵子を取り出して試験管内で受精させ、凍結しておいた受精卵を子宮に移植する不妊治療はオーストラリアや欧米などですでに広く行なわれ、三〇〇人を超す赤ちゃんが生まれている。わが国ではこれが最初（7・13読）。

体外受精、三人に一人は確実に妊娠

「プセレリン」という人工の下垂体刺激ホルモンを活用することによって、体外受精の成功率は三〇―四〇%にまで向上すると、群馬大、兵庫医科大など複数の産婦人科チームが七月一五日午前、福井市で始まった第七回日本受精着床学会で発表した。体外受精による妊娠成功率は国内ではこれまで一〇―二〇%というのが普通だったが、それを大幅に上回る成果。五十嵐正雄・群馬大教授は「体外受精はこの治療法により、一回の治療で三人に一人は確実に妊娠する時代になってきた」とみている（7・16読）。

二一世紀に人類は火星へ―米大統領

ブッシュ米大統領は七月二〇日、人類が月に初の一歩をしるしてから二〇周年を記念する式典で演説し、米国の次の宇宙計画として火星の有人探査実施の方針を明らかにした。大統領は次の宇宙計画について①九〇年代に地球をまわる有人宇宙基地「フリーダム」を完成し②月に再び戻り、人間が居住できる月面基地を建設する③二一世紀に火星に人類の第一歩をしるすと、新たな挑戦の内容を明らかにした（7・21毎）

中性粒子ビーム発射に成功

米国防総省は一七日、将来の戦略防衛構想（SDI）の一角を担うとされる中性子ビームの宇宙空間での発射実験に初めて成功したと発表した。同省によると実験は七月一三日にニューメキシコ州ホワイトサンズのミサイル試験場で行なわれた。ミニットマン2型ミサイルの二段目に積まれた重さ一・七五㌧の加速器が最高高度二〇〇㌔、九分間の弾道飛行をする間に水素原子をビーム状にして放射した（7・18読夕）。

パルプ廃液でエイズ治療、鳥取大発見

鳥取大医学部の栗村敬教授らと山陽国策パルプの共同研究グループは、パルプの廃液から抽出したリグニンスルホン酸（LS）という物質がエイズウイルスの増殖防止に強い効果を持つことを突き止めた。現在エイズ治療薬で副作用がネックとなっているAZT（アジドチミジン）に匹敵する効果がある上、副作用も少ないとみられ、発症防止薬として期待されている（7・18読夕）。

エイズ治療に画期的な新薬を開発。

現在唯一のエイズ治療薬であるAZT（アジドチミジン）を開発した米国立ガン研究所の満屋裕明研究員（㊽）とサミュエル・ブローダー同研究所長（㊾）らのグループが、AZT以上の効果があり、しかも副作用がAZTよりはるかに少ない新薬、ジデオキシイノシン（DDI）の開発に成功、臨床実験で目ざましい効果が出ていることを確認、七月二八日発行の米科学雑誌「サイエンス」で発表した。重度の貧血というAZTの副作用に悩まされていたエイズ患者にとっても朗報となり、大きな反響を呼びそうだ（7・28読夕）。

海王星には六つの月

米航空宇宙局（NASA）のジェット推進研究所は八月三日、海王星への最接近を目指して飛行中の惑星探査機「ボイジャー2号」が海王星の新しい月（衛星）を三つ発見したと発表。先月七日にも三つ目の月を四〇年ぶりに発見したばかりで、これで六つの月が海王星を周回していることがわかった（8・4読夕）。

海王星のリング発見

ボイジャー2号が海王星の赤道付近にある二つの孤形の部分リング（環）を発見した。長さは一つが約四八〇〇〇㌔、もう一つが約九六〇〇㌔で、土星や天王星のリングのように惑星を取り巻く完全なリングではなく、大きい方でも赤道の八分の一程度の範囲に広がっているだけの巨大な孤として存在しているのが特徴。リングの正体は不明（8・12毎夕）。

海王星に磁場を発見

米航空宇宙局（NASA）のジェット推進研究所は八月一八日、ボイジャー2号が海王星を取り囲んでいる磁場を発見したと発表した。これは海王星がその周囲を回る放射線帯を持ち、地球と同じようにオーロラ現象が存在することを示唆しているという。海王星の磁場の存在は海王星の付近から強いパルス状の電波が放出されていることから一八日に確かめられた（8・19毎夕）。

海王星に完全な環を発見

海王星に近づきつつあるボイジャー2号が、今月初めに見つけた二本の孤状リングのうち、一本が実際に海王星の周囲を取り巻く完全な環であることがわかった。二二日午前に送られてきた画像を解析した結果、明らかになったもので、この環は非常にぼやけており、組成物質や環の幅などは不明。二本のリングのうちの内側のもの（8・23読夕）。

ボイジャー海王星に最接近

ボイジャー2号は米太平洋夏時間二四日午後八時五五分、海王星に最接近。丸一二年間、約七二億㌔の大航海はクライマックスを迎えた。最接近時は海王星の北極上空四八五〇㌔まで肉薄する。これまで最もそばを通過した土星（四一〇〇〇㌔）に比べ、はるかに近い。海王星の重力に助けられて方向を大きく変え、二五日午前二時一〇分、今度は衛星トリトンに三九〇〇〇㌔まで近づく（8・24 25毎）。

海王星の衛星新たに二個、計八個発見

米ジェット推進研究所は二四日、海王星最接近を目前にしたボイジャー2号が新たに衛星を二個発見したと発表した。これで海王星の衛星は全部で八個となった（8・25読夕）。

トリトンには〝黒いあばた〟

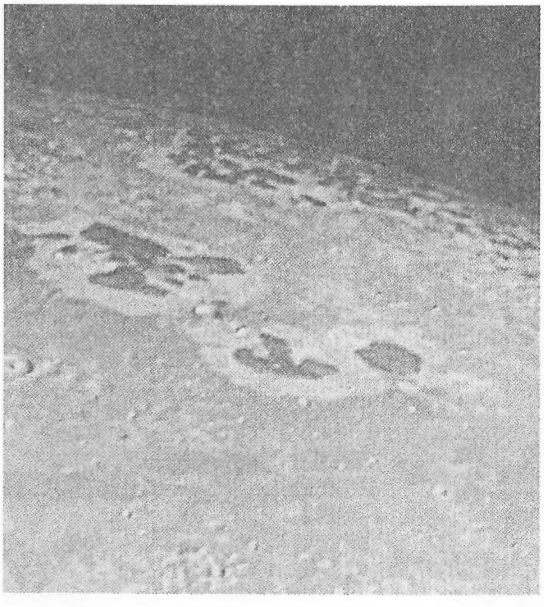
米無人惑星探査機ボイジャー2号は二四日海王星の最大衛星トリトンへ約三八〇〇〇㌔まで最接近した後、太陽系外へ旅立ったが、米ジェット推進研究所は二五日、ボイジャー2号が最接近時に撮影したトリトン表面の鮮明なクローズアップ写真を公表した（8・28読）。

宇宙のヒモを発見か

宇宙が誕生したビッグバンの直後に作られた〝宇宙のヒモ〟らしい存在を見つけたとオーストラリア国立大のドン・マシューソン教授が九月一日公表した。それによると約一億五千万光年彼方の大重力源の構造中のヒモは一㌢当たり千兆㌧の質量を持つという（9・2毎）。

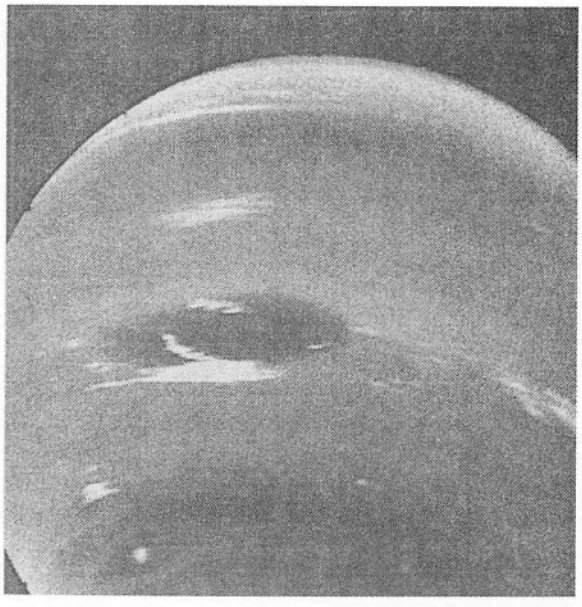
●不思議なトリトンの"黒いあばた"

▼ボイジャー2号が海王星の最大衛星トリトンへ約38000 kmまで最接近した8月24日、撮影したトリトン地表に白く輝くカサ状の物質に囲まれた暗黒状の不思議な地形が3カ所写っていた。



●海王星の謎の大黒斑

▼650万 kmの距離から撮影した海王星大気中の雲の中央の白い雲を伴った暗い部分が謎の大黒斑。左下に白い中心核を持つ第2の黒斑が見える。この黒斑は大黒斑を5日ごとに追い越すことがわかった。



GAP短信 GAP News

★栃木支部第二回UFO写真展、また大盛況裡に終了

去る七月二一日から四日間、栃木県鹿沼市の福田屋百貨店で開催された写真展は、過去最高の二四九四人の入場者があり、五月についで再び大成功を収めた。会場には約八〇点のUFO写真、テレパシー練習、ビデオ、スライド、カセット、書籍の各コーナーを設けて多角的な企画により若年層にアピールしたのがうけた。

★新潟支部第四回UFO写真展も成功

八月一二日より一五日まで新潟市大和デパート七階催事場で開催したが入場者は計二八〇〇名に達して大盛況を呈した。これは宣伝用広告の配布、テレビのローカルニュースで放映した効果によると思われる。写真展示にスライドとビデオを上映、会場で「UFO写真展」と題する二〇頁の小冊子を配布して雰囲気を盛り上げた。月刊タウン誌「にいがた」8月号で二個所にわたって紹介記事が掲載された。

★東京本部主催UFO写真展も大成功

八月一八日より二一日まで都内武蔵野市吉祥寺駅前パルコデパート八階ギャラリーで開催。四日間で計二七九二名の入場者があり、大成功だった。今回はパルコ側で立派な宣伝用チラシを作製配布し、同店情報誌にも掲載したのが効を奏した。また会場では連日本部役員の篠芳史、遠藤昭則、斉藤庄一の三名が初日から三日間交替でUFOに関する講演を行ない、久保田会長秘蔵のアダムスキー遺品二点を展示するとともにロドファー円盤のビデオ上映等により大盛況を呈した。入場者は質的にレベルが高く、興味本位や揶揄的な態度は全くみられなかった。

▶栃木支部展

★今年度日本GAP総会、大盛況

今年度総会は予定どおり九月二三日午後一時より都内中央区銀座七丁目の銀座ガスホールで開催。三〇〇名に達する入場者で熱気溢れる中を講師の斉藤庄一、遠藤昭則、秋山眞人の三超能力者が人間の無限の能力開発について熱弁をふるい、出席者に多大の感銘を与えた。夕方は七時より晴海のホテル浦島で華麗な大夕食会を開催して和気あいあいたる雰囲気の中に幕をとじた。講演内容については本号30頁より掲載。

▶新潟支部展。上は星支部代表の講演。

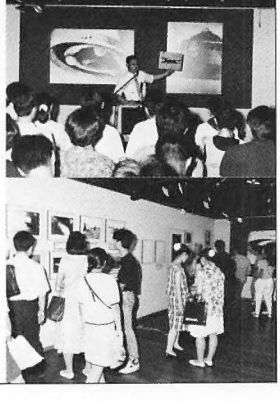
★今年度日本GAP海外研修旅行

八月九日より二〇日まで実施された「アメリカ南米宇宙ロード」の旅は予定どおりに日程を消化し、大旅行を終えて全員無事に帰国した。米ロサンゼルスではアリス・ポマロイ女史も合流、デザートセンター、パロマー山行まで三日間を楽しくすごした。詳細は本号記事「マチュピチュとナスカの謎」で。

★来年度海外研修旅行は「ローマ・エルサレム・イスタンブール聖域の旅」と銘打って九〇年八月八日より一九日まで実施される。詳細は本号17頁の広告を参照されたい。

★長野支部大会を一一月開催予定

来たる一一月五日（日）午後一時より長野支部主催で長野県諏訪市湖岸通り二―八―九のホテル「諏訪湖インあるが」大広間にて支部大会を開催する。雄大な諏訪湖を一望する湖畔の集会に多数の参加者が期待される。詳細は本号49頁に掲載。



▶東京本部展。上は篠講師の講演。

★東京月例会の日時・会場臨時変更

⊙今年一一月のみは日時と会場を左記へ変更するのでお間違いなきように。

日時＝**一一月四日**（第一土曜日）午後一時半より六時まで。

会場＝東京都千代田区北の丸公園内「科学技術館」六階第一会議室

TEL　〇三―二一二―八四七一（玄関右横のエレベータで昇って降りた所が会場）

※東京駅丸の内側へ出て皇居のお濠端を右へ沿って行き竹橋を渡る。徒歩約二五分。地下鉄東西線で「竹橋駅」下車、徒歩五分。東京駅丸の内側よりタクシーで五分、六〇〇円台。

⊙今年一二月のみは第三土曜日の一六日に変更。

なお東京月例会の使用テキストは九月より「生命の科学」のみとし「アダムスキー論説集」は除外した。

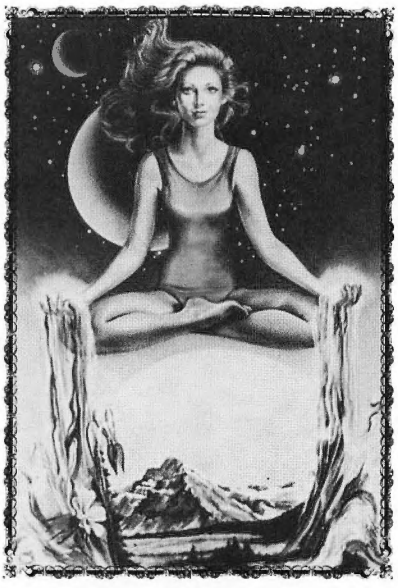
潜在脳力を開発し、願望実現を早める奇跡の音楽

アメリカで
話題騒然のスピリ
チュアル音楽ライブラリー
ついに日本でも独占販売開始

この音楽を聴きだしてから願望が次々と実現し始めた

アメリカで各界から熱狂的注目を欲びる常識を超えた奇跡の音楽

「スピリチュアル・ミュージック」、「ニューエイジ・ミュージック」と呼ばれる不思議な音楽が遂に日本へも上陸しました。このスピリチュアル音楽に関しては、日本でもニューサイエンス関係の書籍や一般の雑誌・新聞でしばしば紹介されているので既にご存知の方も多いことでしょう。今から十数年前にウエストコースト(米国西海岸)で湧き起こった、意識と物質を同一の次元でとらえようとするニューサイエンス運動、エコロジー思想等のニューエイジ革命の嵐の中から生まれ出たスピリチュアル音楽——。



この音楽の特徴をまとめると、

●作曲家・演奏者達が皆、30代前半から半ばと若く、瞑想愛好家の上、幽体離脱や超常現象を日常的に経験するなど、きわめて霊的意識が高い。

●今までの音楽のように単に曲を聴いて楽しめるという点だけではなく(もちろん音楽的に非常に魅力に富んだ曲が多く充分に楽しめるが)意識を高め、潜在意識を刺激するという、「意識・無意識への作用」という事に重点をおいて曲がつくられている。

●記憶力・集中力・創造力などの潜在能力が曲を聴くことにより自然に開発される。

●一～二年の長期にわたって、これらの曲を愛好していると、超能力者・ヒーラー(心霊治療家)の典型的脳波であるアルファー波とシーター波の同時高レベル波形とよく似た脳波があらわれるようになり、その結果、鋭い直観力——これがさらに高まると未知予知や読心力などの超能力——の持主になる。

●夜、寝る前に聴くと熟睡でき、疲れが翌日にあまり残らず、朝の目ざめがとてもさわやかになる。又、小さな事にクヨクヨしなくなる、包容力がつく、他人に寛容になり対人関係がスムーズにゆくようになる等々の人格向上効果が見られる。

●潜在意識が活性化されることにより、円滑現象(願望がスムーズに実現される、自分の思い通りの方向へ物事が進んでゆく等の現象)が起きるようになる。

これだけでは、まだとても説明しきれないくらいの驚くべき効能を持ったスピリチュアル音楽は、その多様な効能が、早くからアメリカの教育界・医学界・宗教界・実業界など各界から熱い注目を浴び、数々の実験、科学的基礎研究が今日まで行なわれています。

アメリカでは脳力開発に、願望実現にと幅広く活用されている。

アメリカでは、これらのスピリチュアル音楽の科学的研究、神秘主義的側面からの経験データに基づいて、応用面での研究・実験もさかんに行なわれています。現在のところ最も利用が進んでいるのは教育の分野で、サジェストペディア(超高速学習法)のバックミュージックとしてさかんにこのスピリチュアル音楽が利用されています。又、能力開発、霊性開発を目的とした瞑想教室では、スピリチュアル音楽はもう空気同然の必需品で、大脳の潜在脳力をめざめさせるのに著しい効果のあることが何千人の生徒達を使った実験でも実証されています。

又、成功を夢みるビジネス界のエリートの間でもスピリチュアル音楽はたいへんな人気で、脳力開発に、ストレスコントロールに、又、願望の早期実現のためにと、いろいろな使い方をされています。

◇「スピリチュアル・ヒットUSA」ライブラリーの中の1曲ご紹介◇
曲　　名：TEMPLE IN THE FOREST
作曲演奏：DAVID NAEGELE
曲の内容：アコースティックピアノ、シンセサイザー、エレクトリックピアノ、自然音で潜在意識の波動をあらわす森のリズムが形づくられる中を、"オーム"の神聖なマントラのバイブレーションが限りなく広がってゆく様をみごとに表現している。
瞑想用に、又直観力・創造力開発に最適の曲の1つ。

米国のスピリチュアル音楽ベストヒット48曲・24巻を一堂に集大成

アメリカンライブラリー社では今アメリカで最も人気の高いスピリチュアル音楽のヒット曲、48曲(テープ24巻)の独占販売権を獲得し、「スピリチュアル・ヒットUSA」として日本の皆様に頒布会方式で通信販売いたしております。

「スピリチュアル・ヒットUSA」の頒布システムを説明しますと、初回から12ヶ月にわたって、毎月カセットテープ2巻が届けられ、支払いは毎回五、六〇〇円の送料三〇〇円。初回、二回目以降を問わず、商品到着後5日間の無料試聴期間がありますから、万一、曲が気に入らなければ自由に返品できます。(二巻のうち一巻のみの購入の場合は代金は半額の二、八〇〇円プラス送料)又、途中で購入をストップしたい場合は、所定のハガキ又は電話で通知すれば、その時点で購入を止められます。

商品は、2週間前後で到着します。瞑想ガイダンス、願望実現マニュアル、脳力開発マニュアルがついていますので、それぞれの目的に応じてこれらのマニュアルをご利用下さい。第一回目の試聴のお申込みは、

〒107 東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社 UF⑩係
電話 東京03(479)5864

までハガキか電話で、住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「スピリチュアル・ヒットUSA」試聴希望とお申込み下さい。

★想像以上の効果にびっくり!!★

はじめのころは「何かおもしろい音楽だナ」っていう感じで、でも聞いていると心が落ちついてくるし、まあ車の中で聞くとしちゃあ静かでいい曲——くらいの印象しかなかったのですが、しばらくして色んな異常に気づきはじめました。低血圧で朝はニガ手だったのが、すごく寝ざめがよくなって午前中の仕事のノリがよくなったとか、仕事上の判断が正確になり前みたくドジをやらなくなったとか。それにいちばんの異常は、女の子(特に美人)と話をするとどうも変なところで緊張してしまって話が上すべりしたりして、どうも恋下手だったんですが、それが最近じゃ前みたく変な気負いがなくなり、ほんとに気楽にストレートに話ができるようになったことです。おかげで、会社の女の子がみんなボクの恋人に見えちゃうほど。何か会社へ行くのが楽しくなりました。ほんと。もちろん例の音楽は毎日かかさず聞いてます。次のテープが楽しみです。埼玉県　山口浩和

最近、人とのつきあいが信じられないくらいうまくゆきます。

広島県　船越照政

こうなったらいいなあと思っていたことがもう立続けに三度も現実のものになってしまいました。

東京都　高見隆春

Molecular Biology Proves Adamski's 'Science of Life' is true by Nagakura Hara M.D.

分子生物学が示唆するアダムスキーの体験の絶対的真実性

原　永庫

人体には六〇兆個の細胞があり、その内部には染色体を持つ核が存在する。ヒトの染色体は四六本（二二組の常染色体とXX＝♀、またはXY＝♂の二本の染色体）あり、おのおのの染色体はDNA（後述）とタンパク質が複合体となってヌクレオソーム構造をとり、それがソレノイド構造を形成し、さらにチューブ構造からコイル状になったものである。

ちなみに一本の常染色体中のDNAを引き伸ばすと約八cmになり、一個の細胞中の全DNAの長さは約二mとなる。したがって全身には約一二〇〇億Kmの長さのDNAが存在することになり、これは地球から太陽までの距離の八〇〇倍となる。

核酸といわれる物質にはDNA（デオキシリボ核酸）とRNA（リボ核酸）がある。DNAは全生物において遺伝情報を子孫に伝える基本物質である。核酸は五炭糖、リン酸そして塩基から成るヌクレオチドを基本単位として、それが五炭糖の3⁻、5⁻位炭素間のリン酸ジエステル結合で重合した長い鎖状のポリヌクレオチドである。

ヌクレオチドの五炭糖がリボースならリボヌクレオチド、デオキシリボースならデオキシリボヌクレオチドと呼ばれる。塩基はプリン塩基とピリミジン塩基に分類され、前者にはアデニン（A）とグアニン（G）が、後者にはシトシン（C）、チミン（T）、ウラシル（U）がある。

DNAは二本のポリデオキシリボヌクレオチドが互いに逆方向性をもって（3⁻末端→5⁻末端／5⁻末端→3⁻末端）その共通の中心軸に対して右巻に巻きついた形をしており、双方の鎖からはデオキシリボースの1⁻位置に、グリコシド結合した塩基が中心軸方向に突き出ていて、らせんの長軸に直角な平面上で他方の鎖からの塩基と向かいあい、プリン塩基とピリミジン塩基がA－TまたはG－Cという相補的な塩基対を水素結合によってつくり、全体として安定した構造をとっている。（したがって塩基はらせんの内側に、リン酸とデオキシリボースは外側に位置してバックボーンを形成している）

DNAのこの二重らせん構造は通常B形構造といわれる三次元立体構造で、直径は二nm（一〇億分の二m）、塩基対間の距離は〇・三四nmあり、一〇塩基で一回りして一ピッチ＝三・四nmになっている。塩基の配列順序に規則性はなく自由であり、その配列が遺伝情報を担っている。

遺伝形質の発現に関係するDNA中のすべての情報を遺伝情報といい、それを担うDNAの構造単位を遺伝子という。DNAの遺伝子としての性質はその複製機構によって説明できる。すなわち二本のらせん鎖が酵素の働きによって巻き戻され、おのおのの鎖を鋳型としてそれに相補的な鎖が合成されると、親と同一の二本の二重鎖が複製されることになる。これが半保存的複製と呼ばれるDNAの複製機構である。（この機構の詳細は省略）

一個の遺伝子は一個のポリペプチド（アミノ酸が一〇～五〇個結合したもの）の合成にかかわり、複数のポリペプチド鎖が一つの酵素（生命維持に不可欠な生化学反応を制御する触媒機能を持つタンパク質）や構造タンパク質等を形成する。遺伝情報はDNAに塩基配列として存在しており、その配列がメッセンジャーRNA（mRNA。RNAは一本鎖ポリリボヌクレオチド）の塩基配列に読み取られ（転写）、その直後リボソーム（リボソームRNAとリボソームタンパク質よりなるリボ核タンパク質粒子）と結合する。

mRNAの三個の塩基配列（コドン）が一個のアミノ酸を指定しており、このコドンを構成する三塩基連鎖が、そのアミノ酸に対応する遺伝暗号である。mRNAには四種類の塩基（U、C、A、G）があるので、暗号は四×四×四＝六四種類あることになり、そのうちの六一種類が二〇個のアミノ酸に対応し、残りの三種類はタンパク質合成の停止信号として機能する。そしてAUGはメチオニン（アミノ酸の一つ）に対応するが、翻訳開始暗号としても働く。

一本のmRNA上でタンパク質合成開始点に順次リボソームが結合し、ポリリボソームというタンパク質合成単位を形成する。そこでアミノ酸を運んできた転位RNA（tRNA）がmRNAの遺伝暗号を解読して（翻訳）、アミノ酸が順次結合され、ポリペプチドが合成される。

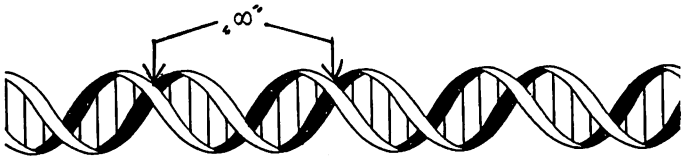
以上の知識を基礎にしてアダムスキーの『生命の科学』第四課の一部分を現在の分子生物学の範囲内で解説してみたい。

真核生物（核膜によって仕切られた核構造を細胞内に持つ生物群の総称。ヒトも含む）の転写のプロセスにおいて、DNAの二重鎖のうち一方の鎖が鋳型となって、RNAポリメラーゼIIという転写酵素によってmRNAが5⁻→3⁻）の方向に合成される。センス鎖（3⁻→5⁻）と転写されない他方の鎖、すなわちアンチセンス鎖（5⁻→3⁻）とに

はmRNA合成のために酵素が最初に結合するためのプロモーター領域と呼ばれる部位が、センス鎖上の転写開始部位（＋1）の上流（すなわちセンス鎖の3′側、アンチセンス鎖の5′側）に存在している。

ヒトα－グロビン遺伝子とβ－グロビン遺伝子（グロビンは赤血球のヘモグロビンのタンパク質部分）を例にとると、二本のDNA鎖のうち鋳型となるセンス鎖は3′→5′方向（上流から下流へ）に見たとき、次の領域が順番に

DNAのらせん形複合体（矢印の範囲が8の字形）



存在していなければならない。すなわちプロモーター領域／翻訳開始信号TAC（＝mRNAの翻訳開始暗号AUG）に相補的なセンス鎖上の塩基配列）／構造遺伝子／停止信号ATT、ATC、またはACT（＝mRNAのUAA、UAG、UGAにおのおの対応）／TTATTT……GT…GACという塩基配列が存在する。そして上記の順でmRNA（5′→3′）に転写される。

さてアダムスキーによれば、他の惑星の高度に進化した文明における生命の研究において、DNAの半分は女性部分で他の半分が男性部分であると考えられており、それが遺伝情報のメッセンジャーとしてのRNAを生み出すと説明している。これはつまり上述した特長のあるRNAの一方の鎖（センス鎖）が女性部分であり、常にmRNAの鋳型となるが、他方（5′→3′）のアンチセンス鎖は男性部分であるという解釈が可能であるので、アダムスキーの説明が実証されることになる。合成されたmRNAはこの男性部分と全く同じ塩基配列になっている。分子生物学の教科書にはこのような〝男性〟〝女性〟という概念は見当たらない。

次に『生命の科学』で「一個体中の陽子群は使者（メッセンジャー）を作り出すのにきわめて重要です」とあるが、陽子とはプロトンすなわち正電荷を持った水素イオンであり、これはmRNA（使者）の基質となるヌクレオチド三リン酸（塩基にリボースと三個のリン酸が結合した分子）の塩基がDNAセンス鎖の対応する塩基と対を作るための水素結合にプロトンが絶対不可欠であるということと符号する。

さらにプロトン転移による塩基の異性体変異の可能性まで含めて、アダムスキーが陽子について言及したと解釈するのは考えすぎだろうか。『生命の科学』は一九六四年に書かれたということを想起して頂きたい。アダムスキーはその当時の分子生物学の最先端の知識を持っていたと判断して間違いないだろう。

最後に推測をまじえて興味ある解説を試みたい。『生命の科学』に次の個所がある。

「この問題に関して進化した友星人が用いている装置類や図表などによって私が目撃した事柄を述べてみましょう。彼らの用いている方法は、地球の科学者が発見事を示す方法よりも簡単で、理解しやすくできています。

説明として二本の平行線を用いましょう。一本は白で他は黒です。白い方は男性をあらわし黒い方は女性をあらわします。そして一定の時間的間隔をおいて二本の線は数字の8という字の形で互いに交叉します。そして二本は絶えず能動的です。8という字形のなかに両者は目的に応じて七種類から九種類の異なる結合状態を生じます。こうした九つの輪を作った後、特殊なメッセージを帯びた使者が生まれます。この使者は次の段階がどのようになるかの設計図を持っていますが、自身を過去から切り離すことはしません」

これはアダムスキーが人体の細胞内でダイナミックに活動しているDNAからmRNAができるメカニズムを目撃したことを述べていると解釈できる。〝二本の平行線〟とはDNAの二本鎖のことであり、すでに述べたようにこのおのおのの鎖は男性部分と女性部分に識別することが可能である。二重らせんDNAは三次元立体構造をとっているので、それを二次元の平面図上に投射すれば、確かに「8」という形で交叉して見える。

この〝8の字ループ〟が九個形成されてからmRNAが合成されると言っていると解釈すれば、8の字形の一つが一ピッチ＝一〇の塩基対に相当するので、九個の〝8の字形〟には九〇の塩基対が含まれることになり、この部分がmRNA合成に重要な役割を果たすという意味に解釈できる。アダムスキーが一九六四年に示した一つのプロトタイプが部分的にしても分子生物学的に説明可能になったということは（筆者の解釈に誤りがなければ）氏の宇宙的体験が真実であったという証明の一つとなり、あらためて驚嘆した次第である。（筆者は新潟市出身。ブラジル・サンパウロ大学医学部卒。医師）

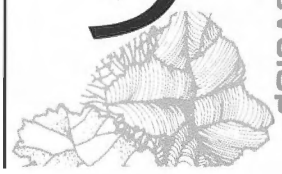
超能力開発の基礎レッスン

The Fundamental Course of the Development of Psychic Power

by Shoichi Saito

斉藤庄一

●今年度日本GAP総会講演集①



皆様今日は。本日はようこそおいで下さいました。私は今、めぐりあいというものに不思議なものを感じております。この地球上に約四〇億近い人たちが生活しておりまして、今この場に三〇〇名ぐらいでしょうか、皆様とこうしてお会いしてお話しさせていただくということに関しまして非常に楽しみにしておりました。また、今の私の心境は「幸せ」という気持で一杯でございます。

これからお話しさせて頂きます「超能力開発の基礎レッスン」という題名でございますが、僭越(せんえつ)ではございますが、私が今まで体験してきたこと、その中で学んだことをお話しさせていただきたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

超能力の種類

まず超能力というお話に触れてみたいと思います。超能力というのは特別な能力ではございません。ここにいる皆様一人一人の中にその能力はあります。私はこう思うんです。超能力とは「常能力」ではないか、また単なる能力ではないかと。

超能力というのは大別いたしますと、「受動的能力」「能動的能力」と二つに分けられます。受動的能力——これは一般に言われるテレパシー。能動的能力——これは一般的に言われるサイコキネシス。一般的に超能力者とはこの後者のことを皆様、よく指されてイメージされることが多いと思います。

人間には人それぞれ個性があるというように、超能力にも個性、すなわち、色というものがございます。その中でいくつか述べてみますと、まず視覚的な部分、聴力的な部分、口の部分（しゃべること）、体で感じること、イメージを受けること、いろいろ種類がございます。先程申し上げましたように、個性があるということで、それぞれ超能力のなかにも人それぞれ得手、不得手というものがございます。それは個々に合った超能力という部分でございます。それが故に個人に合った能力開発というものが非常に大切なものではないかというふうに思います。

まず、私の超能力開発における目標というものは、まず「幸せになる」ということです。これは、まず自分自身が幸せになる。ただここで勘違いをしないでもらいたいのは自分だけ良ければいいということではございません。まず自分自身が幸せになることによって周りの人たち一人一人が幸せになっていく、これが一つの宇宙の法則でもございます。自分が幸せになることにより他人が幸せになる。そして自分たちがより良いビジョンを鮮烈にイメージとして持つことによって周りの他の人たちに良いビジョンを与えるということも大切なことだと感じます。

超能力開発のポイント

それでは能力開発のポイントに触れてみたいと思います。能力開発においてまず大切なことは「楽しむ」ということでございます。つまりプラスの感情と想念を持つことによって能力開発をこころがけるのです。

昔は山伏や行者などいろいろありまして、苦業することによってその能力を開発する方がいたわけです。しかし今の時代というのはそういうことをせずに楽しみながら出来るのです。人間の内部には潜在的に眠っている能力があるのです。

たとえばプラスとマイナスというものがございます。皆さんもご存知と思いますが、物事というものはプラスの想念から生み出してゆくのでして、それをこころがけたいと思います。

能力開発の中でもう一つ方法を申し上げますと、繰り返し繰り返し開発を行なうことが大切です。また超能力というものはその人の精神状態または肉体的な状態によって非常に左右されやすいものなのです。

たとえば超能力というものを図であらわすとしますと、こういう波になります。この波、つまり能力というのは四時間ぐらいのカリキュラムにのっとって集中して能力開発を行なうことによって出てきます。たとえばスプーン、その他の金属製品に何らかのかたちで影響を与えることはできます。しかしそれは短期間に開発されたものであって、短期間に出たものです。

そこで短期間に能力が低下しやすいという欠点もありますから、それを低下させないように維持してゆくにはどうすればよいかということになりますが、それが先程申し上げました繰り返して能力開発を行なう、トレーニングをするとよい、ということになるので

ございます。

能力開発といいますと、非常にむずかしいもの、ややこしいものと感じられる方がいらっしゃるかもしれません。ものの本のなかには、こういうことをやりなさい、ああいう方法でやりなさい、そうすれば能力は出ますよ、という本もございます。

しかし一番大切なのは自分の中の心という部分です。まずあきらめずに積極的に取り組むことです。

たとえば人によっては三カ月ぐらいで能力が出る人がいるかもしれません。また一日でパッと能力が出る人がいるかもしれません。二年、三年、一〇年かかっても、そのような能力という効果を自分で確認できない人もいるかもしれません。

◀講演中の筆者　撮影／松村芳之

反復練習と楽しさ

問題はあきらめずに継続することです。たとえばスプーン曲げをします。だいたい普通の方は一〇分間ぐらいが適当でしょう。一般的に人間の集中力というのは一五分間ぐらいが限界だといわれています。ですから、ちょっとやってみて「ああ、ぼくには出来ないんだ」とすぐに思う方がいるかもしれません。またたとえばトランプを透視して当たらなかった。二〜三回やってみたけどだめだった。というふうに、大抵の方はそこで終わってしまうんです。

しかしその先が問題なのです。つまりまずプラスのイメージ、楽しい気持を持ち、反復して繰り返し繰り返し行なうことによってこそ必ず能力が出てくると私は信じます。

それともう一つ、能力開発というのは日常生活の延長であるということです。たしかに超能力一本に絞って何もかも捨てて、それに邁進することは素晴らしいことでありましょうが、私たちは今この地球上のこういう社会の中で生活しています。そして家庭があり家族があります。したがって能力開発というのはその延長線でとらえるべきではないでしょうか。

たとえば宇宙というものがございます。創造されてから五〇億年たつという話も聞いておりますが、実際は定かではございません。

この宇宙というものを見た場合に、一つの輪としてとらえることができます。そしてその輪を縮小してゆくことによって、大銀河系、太陽系、そして私たちが今住んでいる地球という惑星に当たります。その宇宙と相対する関係で、最初の宇宙というものは皆様の家庭、家族でございます。これをいいかえれば皆様の家庭、家族というものが宇宙そのものであるということで、さらに小さく見てゆけば、皆様の体の中に一つの宇宙が存在しているというふうに感じます。

ですから、まず足元を見る、ということです。一番身近な所は職場ではなく、自分の家庭です。これを見て下さい。そしてその家庭を幸せに導き、なおかつ自分も幸せになることが大切だと思うのです。

そして能力開発を自分を幸せにするために生かし、他の人たちを幸せにするように還元することが大切ではないでしょうか。

健康維持と弛緩

もう一つ重要なのはまず健康であるということですね。とかく人間の体というのはいろんな特定の感情を起こしますし、その他外的な原因によって病気になったりします。そして入院してベッドに横たわります。

今ちょっと暗い話をしましたけれども、これはすべて自分の中から出てきたものです。つまり自分の環境というものは自分自身がつくり上げたり呼び寄せたりしているものなのです。したがってまず個々の中における健康、すなわちヘルスコントロールというものを考えてみて下さい。

たとえば今いろんな食物がございます。いろんな添加物が入っております。ひとつ忘れてはいけないことは、食事をするときに楽しみながら食べるということです。その気持ひとつで、たとえ少々の有害な物質であっても自分自身の血となり肉となるわけでございます。

それと、プラスとマイナスの関係がございます。これはどういうことかと申しますと、超能力の開発練習をするときに、ある一定の部分にすごく念力を集中させることがすべてだというようなかたちで、たとえばこのコップに対して「うーん」といって念を集中します。そのとき、弛緩すなわちプラスとマイナスの関係を自分の中でつくるということなのです。

たとえばスプーン曲げをします。念力を集中させます。一〇分間ぐらいやります。「曲がれ、曲がれ、曲がれ」と。

そのあと一〇分間はリラックスして

気をおちつけます。それからまたトライしてみるのです。これを繰り返して下さい。何らかの影響が出るかもしれません。

イメージ法の応用

今度は能力開発のレッスンという部分に触れたいと思います。

まず能力開発における一つのレッスンとしまして、明確な目標、願望を自分の中に持つことが大切です。これはどんな分野にも適応できるものです。超能力の分野でもできますし、自分のビジネス、仕事、趣味、その他いろんな物事に応用できるものでございます。ここでは一応超能力という分野に的をしぼりましてお話をさせて頂きたいと思います。

まず自分が何をしたいか、その目標を書き出すことです。たとえばここにレポート用紙がございます。この用紙に自分が何をしたいかを箇条書きでパーッと書き出します。何でも結構です。五〇ぐらい、最低五〇は書き出して下さい。

それから、その中で優先順位を自分でつけます。同じような項目があれば一つずつまとめてゆきます。これを整理することによってまず自分の目標、願望というものが明確になります。

次にGAPで言われているイメージ法とミラクルワード（奇跡を起こす言葉）の反覆思念を行ないます。

まずイメージ法からいきますと、実現させたい物事のイメージを持つということですね。そしてそのイメージをコントロールする方法を応用します。

まず望ましい物事が実現した状態を想像し、そのクリエイティブな想像を行ないます。そしてクリエイティブな想像を、自分の中にクリエイティブ・ビジョンというかたちでとらえます。そして最後には自分の中で本当に自分だけのオリジナル・ビジョンというものをとらえて下さい。

まずその部分に話をもっていきたいと思います。太古の昔、人間が火をおこす方法を発見しない頃、火は神のみめぐみ、天のめぐみといえる存在でした。そして人類が誕生し、木をこすり合わせることによって火をおこす方法をみつけました。そして時は流れ、電気ができ、原子力開発という分野に発展しています。

また、今から八六年前ですが、アメリカのライト兄弟が空を飛び、それから八六年もたたずに今はスペースシャトルというかたちで人類は宇宙に出ております。これらのことは、人間の持つ想像力すなわちイメージとして描いたことは、すぐ現実の事になるということなんですね。

まず想像力を自分の中で最大限に持って下さい。そしてその想像力の中で自分が創造し得るものをイメージして下さい。それを明確に持って下さい。そして最終的には本当の意味、つまり自分の最終目標とするビジョンを現実化することなんです。

ミラクルワードの応用法

次にミラクルワード（奇跡を起こす言葉）ということがございます。

私たちは生まれてから今までのあいだ、親から「おまえはこういうことが向いている、こういうことができる、これはしちゃだめ」というようなかたちで、知らない間に自分の上に一枚一枚の殻を蓄積しています。たしかにこれらは潜在意識の中に入りますので、なかなかその殻を破ることができないということですね。

そこでここにおもしろい話がございます。ここに一枚の紙がございます。まずこれを潜在意識としてとらえてみて下さい。表裏は筒抜けの状態です。この中に色々なものが、素晴らしいものが眠っているわけです。

一方、自分自身がミラクルワードを唱えることによって、常に何かがそこからどんどん抜けてゆきます。この抜けてゆくのは、自分の今までの殻なんです。

一般的に自分の潜在意識に入りやすい時間帯というのは、夜寝る前と朝起きてからの一〇分間で、その時間帯というのは潜在意識の扉が非常にオープンしやすい状態になっています。

したがって、朝、目覚めたときにまずミラクルワードを唱えてみて下さい。ミラクルワードを具体的に唱えるときには、先程触れましたように、自分自身にインプットする言葉が非常に大切になってまいります。

そこで、まず必要なことは、自分自身に感謝する言葉を唱えること。そして知人に感謝する言葉を唱えること。これをまず実践してみて下さい。これだけでも自分の環境は大きく変化してきます。

超能力をコントロールする

超能力をコントロールする秘訣があります。能力というのは諸刃の剣といわれるように、使い方によってはプラスにもなればマイナスにもなります。また我身にふりかかってくるものでもございます。

超能力をコントロールするポイントは二つございます。それは信念を持つことと、コントロールされた集中力です。

まず信念ですが、これは信じ念ずることです。どんな境遇におちいってもまず自分を信ずることから始まります。つまりどんな状態におかれても、自分を客観視し、それを掌握し、その中で自分を愛するということなんです。そして自分の考えを明確にし、それを信

念とすることなんです。

次にコントロールされた集中力。超能力の基本というのは、集中力がとりあげられます。ただしこの集中力というのは先程申し上げましたように、ただ集中するのではなくて、それを自分自身でコントロールすることです。そうすることによって超能力のコントロールの部分に参入してまいります。まず強勒な意志力を持つこと、これがコントロールする秘訣ではないでしょうか。

サイコキネシス

話は変わりまして、今、世界中で最も超能力開発が盛んな国はどこだと思われますか。それは隣にあります中国という国です。この中国は国をあげて超能力の研究に取り組んでおります。そして各小学校を回りまして、超能力キャリアと呼ばれるものを持っている小さい子を見つけるためにテストを行ないます。

中国の超能力開発の訓練法としまして、コインによる能力開発がございます。たとえば一〇円玉を手のひらにさりげなくポンとのっけます。そして指先に意識を集中します。そうするとほんのりと暖かい感じが起こってきます。さらにコインと皮膚の間に意識を集中しながらこう動かしてゆく。そうすると不思議なことにコインと手の部分との一体感が生じて、振っても落ちないというようなことができるようになります。

それがさらに凄くなりますと、たとえば指の五本、手のひらのすべてにコインをのっけたまま動かすことができる。手をさかさまにして振ってもコインは落ちない。さらに練習を重ねますと、そのコインを二枚三枚とのっけた状態で、それが可能になってまいります。

これはよくいわれるサイコキネシスすなわち念力の能力開発の一つでございます。

あともう一つトランプによる能力開発というものがございます。よくトランプのゲームで色々なものがございますけれども、たとえばよく手品でもやりますが「ハートのエースを出して下さい」といわれます。パッとやって出すわけですね。この確率というのは五四分の一でしょうか。ただしそれは超能力開発法ではないんです。

たとえばそれをですね、逆にしてみます。五四枚あるトランプをめくりにめくっていって、最後にハートのエースを出す。これは確率的にいって全く同じなんですね。で、なおかつ自分に対する精神的な負担がなくなります。まずそういうようなトレーニングを試みて下さい。決して急がないで、落ち着いてリラックスしながら確信をもって行なって下さい。

素晴らしい人は、あなた自身

今日ここにいらっしゃいます皆様方が、今日一日、この中で得られたものを家に帰ってから少しでも実践するようにこころがけてみて下さい。

このあいだユリ・ゲラーが来日いたしました。いろんな公演をやったようですけれども、ゲラーはこういう話をしています。

「能力開発の練習を私と同じように三年間続けてみて下さい。そうすれば、あなた方もきっと私と同じようになれます」

まず積極的な心をもって実践することです。それが大切ではないでしょうか。

では最後に素晴らしいゲストを紹介したいと思います。それはあなた方自身です。今私の目の前にいらっしゃる一人一人の皆様が〝素晴らしい人間〟であるということです。

自信を持って下さい。あきらめないで下さい。夢を持って下さい。人間は必ず自分が考えているとおりの人間になるのでございます。ご静聴有難うございました。

筆者紹介

斉藤庄一氏は東京都出身。昭和五〇年の四月、東京タワーから円盤を目撃。円盤の窓から手を振る〝異星人〟を見るというセンセーショナルな体験をもって一躍有名になった。

当時一四歳、中学三年生の氏は四月七日、始業式が終わって東京タワーのそばの東京12チャンネルスタジオへ行った。『ビックリッコ大集合』の番組に出るため、打ち合わせがあったからだ。その日はすでに上空に円盤が数度出現したのを氏は目撃していた。

打ち合わせ終了後、なぜか東京タワーに登りたくなった氏は、高さ二五〇メートルの上部特別展望台へ行った。

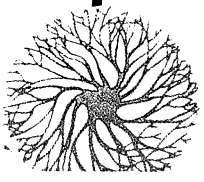
午後四時半頃、展望台に備えつけてある大型双眼鏡から東京湾の船の科学館を遠望したとたん、視野の中にアダムスキー型円盤が入ってきた。写真でよく見る有名なアダムスキー撮影の吊鐘型円盤そのものだ。驚いて双眼鏡をのぞき続けると、木の葉運動をする円盤の丸窓に〝人間〟が立って、左手を上げて合図をする。全身が爆発するほどの物凄い光景で、目撃時間は数一〇秒だが数一〇分にも感じられるほどのショッキングな体験だった。この事件は本誌101号に詳細な記事が出ている。

幼少の頃から特異なカルマのもとに成長した氏は中学生のときに日本GAPに入会したほどの求道精神と宇宙的思想の持主で、テレパシー能力者。多くのUFOを目撃している。現在はボストンクラブで秋山眞人氏と共に能力開発関係の仕事に従事。竹子夫人と共に日本GAP東京本部役員。

How to Develope Psychic Power Through Cosmic Philosophy by Akinori Endo

宇宙哲学を生かした超能力開発法―

遠藤昭則



●今年度日本GAP総会講演集②

今日は「宇宙哲学」を超能力開発にどのように生かせばよいかということについてお話ししたいと思います。

ただ超能力と言いましても決して超人的なものではなくて、今までの状態を一歩でも良くしようとする力。お互いに幸福になれる力についてのことです。

お話をしてゆく前に、皆様はこういった事柄についてどのように考えておられるでしょうか。「私だって幸福になりたいさ。でもそんなことできるものか。」と思っている方や、幸福になりたい一心で一生懸命に働き、「そのうちなんとかなるだろう」と思っている方など色々だと思います。

超能力に対しても、色々な宗教に入ったり、色々な本を読んだりしたけれど、ちっとも力なんてついてこない。私はやっぱり普通の人さなどと思っている人はいないでしょうか。

健康に対してもそうですね。自分は健康になりたい。だけど色々なことをしてきてもうだめなんだ、と思っている方はいませんか。

今日はその辺をどう克服してゆくかということも考えていきましょう。

積極的な気力を起こすこと

皆様は一日が終わってどのような事を考えますか。私は友人にこう聞いたらば、次のような事を考える人が多いことが分かりました。

「あのAさん。いやだね。何かにつけてうるさいし、あとあとまでしつこいから」

「何で皆は私のことをこんなに苛(いじ)めるのだろう。ちょっとの失敗でなんでこんなに言われなければならないんだ。宇宙哲学をやっていても何も成果は出ないじゃないか」

「健康になりたいなあ」

そうして一日を終わるのです。

しかしその誰もが理想は持っているのです。一日を感謝して眠りたいと。でもしないですね。自分の良い所を思い返して自分を激励する人は少ないのです。どうしてでしょう。

例えばヨットで太平洋を一人ぼっちで横断している時に、

「ああ、私はだめなんだ。早くよくなりたいけどな」

とか言っていたら大きな海の力に負けてしまうでしょう。しかし

「よし、今日はこれだけ進んだ。私もなかなかやるものだ。よーし。絶対に帰るぞ」

と思ったら新たに力が出て帰れるのです。彼には目標があります。そして積極的な心、自分から切り開いてゆこうとする心があるのです。

ですから先程の人達の話を考えると、やはりこの辺の気力がないのです。気力がなくなると神経系統の働きが不活発となりホルモンの分泌もアンバランスになります。そして人体を作っている六〇兆の細胞群のいずれかにも影響が及んでゆくのです。

しかし積極的な心になってきますと神経系統は活発になり、ホルモンもうまく分泌され、約六〇兆の細胞群も生き生きとしてくるようになります。そうすると充実感というものが生まれてきます。

それで先程のような人々は自分以外の周囲が悪いと思い込み、

「私がこんなになったのはあの人のせいだ」とか、

「もっと良い環境に住んでいたら」

と考えてしまうのです。

そうして不健全な考え方を助長させてゆき、私はなんて運が悪いんだ。きっと過去生のカルマが良くないんだ。よし一つ遠藤さんに見てもらおうとなってしまうわけです。

おもしろいですよ。そういう方の過去生を見てあげて、これこれこういうのが見えますよと言うと、

「いや、私にはこれこれこういう暗いものが見えるのです」

と言いはる人が多いのです。そこで私もしようがなく、

「はあ。それじゃあ、それは一つか二つ前の生涯かも知れませんね」

と言うと相手は喜んで帰ってゆくのです。結局過去生を見てもらいに来た人じゃないんですね。今生の自分の責任を棚に上げておいて、過去生の自分が悪いと言いに来ただけなんです。

それでいつも思うのですが、

「じゃあ、あなたのその過去生はあなたではないと思いたいのですか」と。

ところがこれらの方々の心の奥底には良くなろう、良くしていこうというずうずうしたパワーがあるのです。勿体ないですね。そのパワーこそが宇宙の力、宇宙の意識であるのに。

はっきり申し上げましょう。GAPでお会いした人の中で悪い過去生のカ

ルマを持つ人は一人もいません。ただ今生での生活が問題なのです。たとえ良くなくても持ち越してきたものは記憶とフィーリングです。だから今、この時点からが大切なのです。

人間内部のパワーを引き出す方法

そこで今日はこのパワーを生かす方法について考えていきましょう。

『生命の科学』には人体を生かしている宇宙の意識と約六〇兆の細胞群についてのことが出てきます。先程も申しましたが人間が積極的になってきますとこれらの細胞群が生き生きとし始めます。オーラも必然的に濃く、広がってきます。そして何を食べてもおいしく食べられるようになり、消化、排泄の機能が整ってきます。こうならなければまだ『生命の科学』を生かしているとは言えません。

◀講演中の筆者　撮影／松村芳之

それではその積極的な心の状態とはどういうものかと言いますと。これは次の四つの状態が考えられます。

一、積極的に体を動かす。
二、積極的に話をし、積極的に話を聞く。
三、積極的に良いイメージを描く。
　この三番についてはあとで詳しくお話しします。
四、積極的にテレパシックになる。
　そしてこれらには全身の細胞群の働きが深く関わっていることを忘れないで下さい。

最近では、自分を良い方向に持って行くための本やテープが多く出ています。そしてそれらの多くに共通して使われているものが自律訓練法や、暗示作用であります。それらによって肉体をリラックスさせ、心をリラックスさせてゆきます。更に改良型ではα波がよく出る状態になるものが多いようです。

私も行なったことがありますが、のんびりとできてとても気持ちの良いものです。ですから心をゆったりさせる段階ではとても良いでしょう。実はアメリカでは一〇数年前にそのブームがあったのですが。

そこでそれを買って行なうのですが、最初のうちはうまくゆきます。とても気持ちよくて、まるで自分が変わった人間になったような気がするときもあります。仕事もてきぱきとできるようになります。

しかし家に帰って思い出してみると、やはり何か物足りないのです。こういうことはありませんか。良いイメージの通りに動いたが、上司に一つ注意を受けた。それからは上司にまた何か言われないかと前のようにビクビクしていた、とか。やっぱりあいつはいやな奴だ、と思ってしまったと。

いや、これではいけないとまたイメージを描く。でも何かが違う。そこで考えてみましょう。

社会的にも正しく、理に適っている。それならどんなことでもイメージを思い描いて良いのかということです。

人間には自由意志が与えられていますので、思うことは自由です。しかしそれを実現させるとなると考えねばなりません。

ここが問題です。単にα波、β波だけで終わっている人が陥りやすい所なのです。

それでは能力を出すための本題に入っていきましょう。

それではどうするのか。何が物足りなさを心に感じさせているのか。これは私達日本人でなければ分かりにくい所です。

それは自分の中にある力、宇宙の意識を使っていないということなのです。アダムスキー氏は『イメージによって奇跡が起こる』の中で、自分の道を切り開いて行くには心だけではだめで、この世界をもっとよく知るには意識のもとへ帰らねばならないと言っています。

周囲がいやだ、病気が治らないと言っているうちはイメージをいくら描いても物事を実現させるための力は出てきません。そしてそのイメージが良いのか悪いのかということや、もっと良いイメージがあるぞと知らせてくれる意識の声を聞きながら、意識とともに、「意識が必ず実現してくれるのだ。私には必ずできる」という積極的な気持ちが必要なのです。

それでアダムスキー氏がよく例えで出す放蕩息子の物語が生きてくるわけです。このようにしなくては調和ある世界はできてこないのです。

ただ宇宙の意識と言いましても勘違いしている方はおりませんか。

「自分の内部にある意識、意識の世界。そうか。目をとじると暗黒の世界が見える。これが意識の世界なんだ。なんて気持ちよくてリラックスできるんだろう。こうしていると会社のいやなことも忘れてしまう。この暗黒の世界こそ私を救ってくれるものなんだ。宇宙哲学は素晴らしいな。ふん。何も知らない奴らがごたごたと騒いでいる。私の方がすごいんだぞ」

こうなってはしょうがありません。これらはすべて間違いです。こう考えている人は会社ではうまくいってないでしょう。きっと早く家に帰って宇宙哲学を読みたいぐらいに考えているものです。

これは意識の世界ではありません。しかし瞑想をしている人たちにはこう思っている人が以外と多いのです。そして彼らは会社でも冷ややかに物事を見ています。彼らは社会に対してそれ程働きかけることはしません。ただ気持ちの良い瞑想の仲間を作って行くだけです。そしてそのうちの一人が突然透視映像を見たりすればもう大変。よってたかって彼に透視をさせ、「うおっ、すごい。じゃあまた来週ね」とまあ小さい子が遊んでいるような状態になるのです。

宇宙哲学を少しでも実践すればある程度の透視はできるようになります。何の修業もいりません。ただそれを見ようと努力するかどうか。それが正しいかどうかを内部の印象に照らし合わせてみれば良いのです。なぜなら心が意識という実態を認識すればする程、身体で覚えれば覚える程、能力は出てくるのですから。それは心を通して現れ出る意識の力です。

先程の人達は段々と社会を批判するようになってゆきます。自然がいい、自然がいい、とそればかり言うようになるのです。これは最もいけない利己主義です。彼らは転生をすることによって別の惑星に生まれ変わるどころか、今生からのこういうフィーリングを持ちこして、神経質な利己的な人になるでしょう。

職場でのテレパシー体験

万物に宿る宇宙の意識は私達の中にも、会社の上役の方の中にも、いやな同僚、友人の中にも、そして病んでいる肉体にも存在しています。

今から一五年程前、私は大学でサークルを作り、テレパシーの研究をしていました。しかし勤めるようになってからは、これが勤めとどうつながるのかとは考えてみようともしていませんでした。

私の考えが友人や家族に伝わり、そして彼らの考えと私に伝わることは分かっていました。しかし上司に伝わることは認めていなかったのです。なぜなら上司には従わねばならない怖いものだと自分に言いきかせていたからです。今考えると、なんと可愛いことをと思いますが。

ところがある日こんなことがありました。

私の所属している学年の女性主任は誰からも一目置かれ、何かにつけて元気の良い人でした。

その日は、彼女にとって気にいらないことがあり、昼休みになってもいらいらしていました。それで学年の職員も妙な気分で静かでした。

私はこんなのはいやでたまりませんから、自分の中に明るい色を思い浮かべました。しばらくするとその主任が突然リラックスし始めたのです。近頃の言葉で言えば、

「ま、いいか」

という気持に彼女がなったようです。

そして今まで張りつめていた雰囲気が徐々に崩れてきました。他の職員は今まで静止していた時間の中から抜け出せたように、立ち上がってお茶を飲みに行ったり、雑談を始めて笑い声をあげたりいつもの室内に戻りました。

この時やっと分かりました。テレパシーは誰にでも伝わるのだと。

同じ意識から意識へですから当たり前ですね。

心と意識の一体化とは

さて次に一体化ということを考えてみましょう。

アダムスキー氏はテレパシーの開発で重要なのは心と意識の一体化だと述べています。

では一体化とは何でしょうか。

この一番簡単な例は一卵性双生児の方々の例がよくあります。

たとえば二人そろって同じことを考えていたり、同じ時に同じことを言ったり、同じ夢を見たり、挙げれば切りがありません。

相手と一体になるということは、私が今考えているのと全く同じことを彼も今考えているということになります。

よくこういうことがありますね。二人の仲の良い老夫婦が、旦那がお茶を飲みたくなると奥さんの方がさっと出してきて一緒に飲み始めるという。

これは旦那さんがお茶を飲みたいと思ったら、奥さんもお茶を飲みたいと思った。「あっ、これは主人が飲みたいのね。よっこらしょっと」

という具合なわけです。これが一体化です。

ここには、結果の世界では二人は別々な人間という区別がありますが、意識では一体なんですね。

従って心と意識を考えた時、その一体化の状態では次のことが言えます。

心が考えたことは意識が考えたことだと。これは誰でもが時々経験していることなのです。これを意識と一体化しようとして、意識を自分の身体の中の暗い所にイメージしているためにいつまでたっても距離を作ってしまっているのです。

一体化の状態では、心と意識の間に距離はありません。まあこんな距離は元々ないのですが、逆に考えれば心が考えたことは意識の海の中で、意識自身によって起きた波のように動いてゆくのです。だからテレパシーができるわけです。

この法則のもとで良きイメージを描くならば、色々と宇宙の法則に適ったことが実現してきます。

ただし法則に適っていないことでも実現させることはできます。しかしこれではいけません。

よく、私はマイナスのイメージしか描けないんだ。プラスの良いイメージを起こそうとするとマイナスのイメージがどうしても出てきて困るんだ、という人がいます。この人達の原因は分かりますか。

それは自分でマイナスのイメージを描きたがっているのです。それを描くことによって他の人が助けてくれると思い込んでいるのです。よく小さい子がおもちゃ屋さんの前で「あの犬のおもちゃが欲しい」とか泣きますが、あれと同じです。泣けば買ってくれる、マイナスのイメージを描けば人が同情してくれる。私は被害者なのだ。それにこうしていれば自分の悪い所を見られないですむ。そう思っているのです。

そこでそういう人達は、とにかく色々と持っているもの、人に馬鹿にされるだろうと思っていることを思い切ってぱっと出してしまうと気分がすっきりするものなのですが、言い方は悪いですが、馬鹿になれない所があるわけです。良い意味で馬鹿になることによって心の限界が分かり、心を意識にまかせるようになってくるのですが。

さて、良きイメージかどうかは意識から聞かねばなりません。しかしそんなことはどうしたらできるんだ。今までこういう文はよく見るけれどもちっともできないよ、と思っている人はいませんか。

意識の声を聞く方法

意識の声を聞くにはまず、自分の中で変化する気持ちに目を向ける必要があります。

それではその方法をお話ししましょう。まず自分で車を運転している場面を思って下さい。

イライラして車を運転している時と、穏やかに運転している時とでは、すれ違う車や、後ろから迫って来る車に対する心の反応が違います。まずその変化をよく見るようにして下さい。車を運転しない方は他の場面で似たようなことがあると思います。

そして次に色々な場面での波動の感受の練習をします。感受する時の心の変化は車の運転の時と同じです。色々な人に会って、その時の自分の心の変化を見てみましょう。

何か隠している人と会ったらいやな気分になった。それは相手の波動を受けた心の状態であり、テレパシーの受信です。また、ある人に会ったら心の中が暖かくなった。この人と会うとアメリカの光景が出てくる、という場合もみな心の変化です。

難しいことはありません。粗雑なものから段々精妙な物を見ていくようにすればよいのです。

日常生活に応用して、自分は今どんな気持かということに注意を向けるようにしていきましょう。そしてその人に会う前日と会った後の自分の中に湧き起こる気持を見ていきます。段々と練習を積めば、自分の中に湧き起こるということは、相手の中にそれがあるということなのだと確信できる回数がふえてきて、心の精度が高まってきます。でも、いやな気持の時は自分から明るくして相手を変えていきましょう。そのくらいの気持もときには必要です。

自然界を観察してフィーリングを起こす

次に自然の中に出ていきましょう。大きな木。松の木が良いでしょう。それと他の木を比べてみます。どのような違いを感じるでしょう。手で触れてみると良いと思います。気持ち良いですか。力強いですか。夏の青空ですか。

このように出てきたものは木々の波動を心が分かり易く翻訳したものです。分からなくても諦めないで下さい。そういう時は、自分にとって苦手な花と、とても神々しく感じる花との違いでも良いです。さらにじっとしていると根の張り方や、この植物がこの場所に合っているかどうかということも自分の心の変化として分かってきます。必ずできます。できない人は何回も何回もチャレンジするしかありません。しないからできないのです。

私は昨年色々な鉱物のリーディングをしてみました。一つの鉱物を左手に持ち、それが身体のどこに共鳴するかということを感じてみたのです。鉱物によって異なるのでとても楽しい一時でした。

まあこのように様々な場面での自分の気持ちを見ていきます。それをノートに書いていけば心の精度はぐんぐん上がっていきます。それにノートを後で見ると、自分はこんなことができるのかと改めて勇気が出てくるものです。

単なる心の変化を見ていればよいのです。テレパシーの感受力とはその応用です。きっと違うすごい心の働き方なんだろうなと思うから、超能力となってしまうのです。簡単に、簡単に思って下さい。ただ継続的に。

ただ、肉体の反応までもノートに書かないで下さい。よく心の反応と言って肉体の反応を見る人がいます。それが高じて肉体に敏感に目を向けるようになりすぎて、やれ都会にでればこめかみが痛くなる。だから私は人ごみが苦手だとかつまらないことを言いだすようになってしまうことがよくあります。これは健全な精神ではありません。

心の中の色を見るように

心の中には自分の想念や感情の内容に応じて青色、赤色、黄金色などの色が浮かんでくることがありますから、もっと心の色や気持を見るようにして下さい。

色々と見てゆくうちに、一日の中での自分の心の変化が分かってきます。

そして突然、青空のような印象がやってきて、あれ、これは何の印象だったけな、そうかあの人は今こういうことを思っているな、と分かってくるわけです。これは距離には関係ありません。

そうして自分が何かしようとする時に湧き起こる自分の心の変化に気付くようになります。これが意識の声です。

私は今年の四月に新しい中学校に転勤しました。一月に転勤するかどうかの希望を校長に出すのですが、その時に悩みました。今転勤して良いものかどうかと。

しかし心の中にはきれいな花園の色が見えていました。丁度土星のフィーリングです。そこで思い切って転勤の希望を書きました。

これが意識の声だったのです。新しい学校は花がきれいな、穏やかな生徒の多い所でした。それは気にいらない点もありますが、一昨年頃から意識を使って良くしていこうと思ってやってきたことの成果が出たと思います。

それで、よく会員の方やその他の方々の間で、宇宙の意識と一体化すればよいと気安く言う人がありますが、私はそういう人に尋ねたくなってしまいます。

それはどんな感じでしたか？　どのようにどんな場面で一体化を感じましたか？　それをどのように社会に現していますか？

もう理論の時代ではありません。いやアダムスキー氏が伝えてくれたその時から宇宙哲学は行動の哲学なのです。

そして自分が意識をどれくらい認識しているかのバロメーターがテレパシー能力であり、花がふり向いてくれるかということなのです。

念写とイメージ法

私達の想念の力はまだまだ強くする必要があります。

アダムスキー氏はトレーニングの一つの方法として、感光していない印画紙に想念で光のパターンを描き出す練習を紹介しています。

始めはうまくゆかないけれども、「必ずできる！」という信念を持って練習を続けるうちに映像の輪郭もはっきりとしてきてテレパシー能力も増大すると言っています。これは念写ですね。私もカラーのポラロイド・カメラで行なったことがありますが、赤い点が出ただけでした。しかし誰もが必ずできるのですから、努力していこうと思います。こんなことで人間の能力をちぢませてはいけないのです。

イメージを描くには身体を使って行なうとよくできます。私はこれを四つの動作に分けて毎日練習しています。

一、自分のフィーリングを広げる。
二、青空にとけ込み明るい気持ちになる。
三、体内のエネルギーの充実。
四、目の前にある芝生や木々の各細胞群を意識して、その細胞と細胞との間に自分からとけ込んでゆく気持ちになってそれらの意識と一体化する。

金星の大母船の中でアダムスキー氏が見た、宇宙の動きを現しながら踊る二人の女性を思い出して下さい。

身体を動かすことによって色々なフィーリングを起こすことができるのです。これは演劇や指揮をしている方ならよく分かると思います。

ただ力がついてきても自然の万物と話ができるようにならなくては何もなりません。調和のある力でなくては。

自然界から学び取る

そこで私達は自然をもう少し観察してもよいと思います。無意識に取り入れられている自然界の要素。それらにはすべて宇宙の意識の働きがあります。それを改めて見る時、私達はもう少し謙虚になることができるかも知れません。

一見冷たく見える新宿の高層ビル群。それらに使われている鉄筋コンクリートの強化鉄骨構造と似ているものが自然界にあるのをご存じですか。

実はアリゾナにある背の高いサボテンなんです。

そしてこのコンクリートを強化するということを発明した人はフランス人のジョゼフ・モニエという人なのですが、この人は実は園芸家なのです。

彼は植物の組織にある、植物を丈夫に立たせている支持構造を毎日のように見ていました。そしてある日コンクリートで桶を作ってみようと思い、それの強化構造として植物の支持構造のように鉄の細棒をうまく組み込んだのです。彼は植物から教えてもらっていたのです。彼のこの発明がなければ高層ビルの発達はもう少し遅れていたかも知れません。植物は二億年以上も前から使っているというのに。

私達がこう言った自然から学ぶ能力を開発するには心がバランスのとれた状態になることが必要です。それは人に頼りすぎることでもなく、印象に頼りすぎることでもありません。なかなか難しいのですが、とにかくチャレンジしてみるしかありません。

そうしてその良い状態で積極的に行動してゆく。そうすれば一人の人間としての魅力が出てくるはずです。そうなれば誰からも好かれるようになりますし、人間関係も良くなります。

あらゆる物事に美を見い出す

ところで、よく家庭生活がうまくゆかないという声を耳にします。そんなことをある日友人に話した所、一冊の本をくれました。音楽についての本なのですが、その中に、

「芸術的な家庭作りをし、あらゆる面で美しさを表現するような家庭作りは誰にでもできる」

という言葉がありました。

私は思わずうなってしまいました。そしてふと、金星での生活はどうなのだろうと思いました。

彼らはあらゆる物事に美を見い出すと言われています。私達も家庭生活において、自分からそのようにしてゆく努力をするならば、これはとてもよいビジョンを生み出すことになると思います。

ここで一つ皆様のご家庭を思い浮かべて下さい。そしてどのくらい自分自身で美しさを表現しているかを考えてみて下さい。

私達は美しさを追い求めていながら、自分から美しくなろうなどとは思っていません。これは他人と調和し合う美しさ、愛情あふれる美しさのことです。自分だけ美しくなろうとするつまらない美しさではありません。それは地球だけの美しさでしかないのです。他の惑星群からはそのようなフィーリングは感じません。勿論この場所から他の惑星群を感じてのことですから間違っているかも知れません。しかし皆様はどう思われるでしょうか。

この地球には、美しい植物、青い空、美しい渓流、大空を飛ぶ鳥の群れや色とりどりの働く昆虫等々、たくさんのすばらしいものがあります。そしてそれらの生き物はすべてテレパシーを使っていること、宇宙の意識の指示に従っていることを私達はどのくらい知っているでしょうか。地球はこの点においては他の惑星と同じ美しさをもっています。

そして私達の身体も宇宙の意識によって生かされています。このことはジョージ・アダムスキー氏、そして久保田八郎先生を通して私達に伝えられた真実です。

私達の内部にある力を使うには、ある程度のリラックスと、こうしようという積極的な気持ち、そしてそれが実現したイメージを描くことです。

一番いけないことは悪魔の囁きである絶望です。しかしこの宇宙は恩寵の法則によって私達を再度立ち直らせようとしています。それなのにそれに気付かない人は、困難に出会う度に、自分に力があることに気付かせよう、その力を出させようとしている法則を恨みます。

私達の中にある力は皆同じです。それは肉体の力ではありませんが、行動するには健康な肉体が必要です。

二千年前にヨハネはその力の使い方を黙示録として残しました。あれは決して破滅的な未来を言っているのではありません。私達の中にある力を使うことによって、もっと明るい未来をつくることができると言っているのです。

当時のヨハネは私の透視によれば濃い藍色のオーラを放つ不思議な人であり、一人で細い棒のようなものを持って黙示録の作業をしているのが見えます。髪は銀色がかっていましたが、がっちりとした体格です。

このような人が赤い色の破滅的なことを書くとは信じられません。人間の能力の開発に興味のあったヨハネは建設的な人でした。それはイエスの影響だったろうと思います。

宇宙の意識。私達はこの力をもう少しうまく使っていきたいものです。

ここでお話ししましたことを実行されるならば必ず超能力は出てくるはずです。皆様のすばらしい成果を期待しています。

(筆者は千葉県出身。オーラ透視、遠隔透視能力者。東京月例会テレパシー指導講師。東京本部役員)

絶賛発売中

異星訪問奇談

久保田八郎編

想像を絶する進歩をとげた別な惑星を大母船に乗せられて訪問した日本人青年の驚異的実話と、地球人を救うメッセージ！

新書判・約二七〇頁・定価一二〇〇円・送料二六〇円

■2年前、日本GAP発行UFOcontactee誌に連載されて大センセーションをまき起こした「私は別な惑星へ行ってきた！」と題する驚くべき記事をまとめ、さらに証人たちの証言と編者の解説序文を加えて一書にした実録。UFO contactee誌の連載記事掲載各号が品切れ絶版となった現在、本書は貴重な文献である。大超能力者にして愛の精神の権化たるコンタクティー春川正一氏(仮名)は東京で活躍する実在の人物。超絶した諸惑星の実態と偉大な惑星人たちから与えられた感動のメッセージは危険な地球を救う天来の声！UFO研究者、自己改良希求者必読の書。

全国書店で発売中

書店にない場合は直接下記へご注文下さい。〈日本GAPでも取り扱います〉

〒101 東京都千代田区西神田3-5-6

〈発行所〉新典社 振替・東京7-26932 ☎03(265)3781

1989 GAP-Japan General Assembly

今年度日本GAP総会開幕

■絶賛と感動の嵐を起こした総会、会場満員の大盛況を呈す

一九八九年九月二三日、東京銀座通りの銀座ガスホールは、曇り空ながらもおだやかな雰囲気に包まれていた。これから素晴らしい一日が始まることを知っている私の心は、心地よい興奮と、不思議な安らぎを覚えていた。

開会三〇分前ごろから受付は混雑し始め、司会者・篠芳史氏の挨拶が始まる頃には二階席までほぼ満席の状態となった。出席者は三〇〇名。昨年の総会よりも多い。

まず久保田会長がご挨拶のなかで、本日のセミナーは単なる超能力実演会ではなく、人間の内部に存在する無限の能力を引き出して日常生活に応用するためのものであることを強調された。

確かに最近はテレビ・雑誌等で超能力の話題が取り上げられることが多くなってはいるが、それがどんな意味を持ち、日常生活とどのようにかかわっていくのかという点まで触れているものは少ないのではないだろうか。その意味で今年度の日本GAPに多大な関心と期待を寄せていた人は少なくないだろう。

いよいよ講演が始まった。トップを飾るのは日本GAP東京本部役員の斉藤庄一氏である。斉藤氏は前日、かなり体調を崩されたそうであるが、それを押しての登壇である。責任感の強さと総会にかける意欲が伺える。

氏は大変穏やかに話をされる方であるが、その一言一言には実践に裏付けされた力強さが感じられる。超能力者というと一般に常識外れの行動・服装をしているイメージがあるかもしれないが、氏は大変礼儀正しく、常識豊かな方であることを私もよく知っている。

これは続いて登壇された遠藤昭則氏、秋山眞人氏についても共通することで、しかも三人とも紛れもない本物の超能力者なのだ。素晴らしい能力と豊かな人間性の両方を身につけてこそ、本当に進歩した宇宙的な人間と言えるのだろう。

二番目に登壇された遠藤昭則氏は、さすがに毎月の東京月例会でテレパシー練習の講師をしておられるだけあって、出席者をリラックスさせながら、しかも我々がつい見落としたり、自分を甘やかしてしまいがちな点を鋭く指摘して、本当に宇宙の意識と一体化するというのはどういうことかを、能力開発の方法と併せて解説された。これはGAP会員にとって非常に大切なお話であったと感じた。

最後にテレビや雑誌でおなじみの大超能力者・秋山眞人氏が登壇された。この方の能力の素晴らしさはただただ驚かされるばかりで、ご存知の方も多いだろう。

秋山氏は、リラックスする方法、イメージの描き方など、超能力開発のための実践的なノウハウを中心に話された。そして会場の方々も参加してイメージを描く練習をし、遂には当日用意したスプーンを折ってしまった。

しかし秋山氏の素晴らしいところは、そういった超能力を持っているということだけではなく、だれでもそのようになれるのだということを他の人々にも伝えられる力があることだろう。秋山氏のお話は確信に満ちて、聞いている私たちの内部に大きな勇気を湧き起こしてくれる。自分もあのようになりたいという気持ちが起きる。自分も秋山氏のようになれるかもしれないと思えてくる。よし、やってみようという思いを出席者に残して、秋山氏の熱弁は幕を閉じた。

三氏に共通していたのは、超能力とはだれにでも存在している力であり、それを日常生活に応用して幸せになるために開発するという点である。これはまさに本年度総会のテーマ「愛と幸せのための超能力開発」そのものであったと言えるだろう。

続く質疑応答では非常に重要で興味深いお話を伺った。

最後に三氏へ感謝の気持を込めた花束を贈呈し、本年度日本GAP総会・昼の部は高次元な雰囲気の中で幕が降りた。

午後六時四五分からは、会場をホテル浦島に移して、夜の部の大夕食会が開催された。東京都の会員・伊東芳和氏の乾杯の音頭で始められた宴は、同じ道を歩んでいる者同士の談笑によってなごやかな雰囲気が広がる。そして生伴奏を従えた佐藤春雄氏(秋田県)の艶のある民謡、声楽の先生・升田裕子(ますだひろこ)さん(広島市)による美しい歌声が響き、坂本貢一・茂子夫妻(秋田市)のとっても楽しいカントリーが流れ、GAPの名バンド「スカウトシップ」(東京)の弾むような演奏が宴を盛り上げた。おかげで大変愉快な夕食会となり、出演者の方々の奉仕精神に心から御礼申し上げる次第。

この後、二次会・三次会と、久々の再会を楽しまれた方も多く、それぞれ素晴らしい思いを持ち帰られたことだろう。

この素晴らしい企画をされた久保田会長、全力でご指導下さった斉藤庄一氏、遠藤昭則氏、秋山眞人氏、遠路ご多忙中をご出席下さって総会を盛り上げて下さった皆様、陰でご支援いただいたスペースピープルの皆様に心から感謝いたしたい。

(安藤澄雄)

◀写真右列より篠司会者、久保田会長挨拶、斉藤講師講演、遠藤講師実演、秋山講師実演、会場を埋めた参加者。左側上より大夕食会（ホテル浦島）、佐藤春雄氏（秋田県）の民謡、坂本夫妻（秋田市）のフォークソング、升田裕子さん（広島市・女子大声楽講師）の歌曲独唱、楽団スカウトシップの演奏、愉快な大阪支部グループ。撮影／松村芳之

Cosmic Philosophical Healing
by Dr. Nobuo Shioya

宇宙哲学的療法を応用

医学博士　塩谷信男

ユーコン一〇六号を御恵贈いただき、ありがとうございました。又々立派な内容で、心から感心いたしております。特に『宇宙哲学で奇跡を起こす方法』は嬉しく拝読いたしました。ミラクルワードとイメージ法、これは私も現役時代ズーッと患者さん達に応用してきたことで、誠に同感の至りでございます。

私の治療方針は、

一、心の持ち方（三界は唯心の所現というお釈迦さんの言葉をとっくりと説明すること）。

二、食べもの。玄米菜食を主として出来るだけ自然に近い状態で摂取すること（私は昭和六年以来、玄米菜食）。

三、適当な運動をすること。

以上を患者さんにすすめ、手を当てて病気を癒やし（真手）、なるべく薬（洋薬、漢薬）を使わないやり方で六十年間やってまいりました。それで本誌の向井さんのお話も面白く拝読いたしました。

さて本誌一〇六号で「我が意を得たり」と膝を叩いた記事がございます。実は私は二六歳の時から、「太陽は火の玉ではない。太陽からは熱源も可視光線も放射されていない。ただし太陽からは不可知の放射線が放射されている。これが空気を貫くとき、熱を発し、光を発するのだろう」という、誰に言っても笑われる考えを持っていました。

理由は誠に素朴なものなのです。高く昇るほど寒くなる。つまり空気の層が薄くなるほど温度が下がる。空気の層がなくなれば極寒となる。暗黒となる。太陽の写真を見ると、コロナや輝く放射線が太陽から噴き出している。あれは太陽の周囲にも大気層があって、これが太陽放射線によって輝いているので、あの紅蓮の炎が噴出しているのではない、という考えを持っていました。

それが本誌106号中のアダムスキーの記事によって同意見の学者の居ることを知り、大変嬉しかったです。ソ連の学者で似たような説を立てているのが居るという記事を何かで見たことがあります。大分以前の話ですが。太陽の色が黒いか青いかは関心はありません。

なお植物との対話の項（二七頁）がありますが、これはご存知のように大分一般に知られるようになっていますが、実は私も毎日周辺の樹木や草花（小鳥やその他の自然ともですが）と対談をしております。これは昭和二四年の冬にフトしたことが機縁で始まったのですが、アメリカの学校の校長さんがあの器材（植物と対話をする器械）を作り出すよりも大分前のことでありまして自然物と対話をしていたようです。大祓祝詞の中に「言問いし岩根ノ木根立ちい草も言やめて」というくだりがあります。

す。しかし往古の日本人は日常の行と

なお愚作の漢詩二篇同封しました。意余って言足らずでありますが、御説を拝読して御同感いただけるような気がして同封しました。

観真我

三世万象生無生
尽我昆弟一神生
天地偕歩五尺我
観進遂悟無限生

三世の万象生無生
尽く我と昆弟一神より生る
天地と偕に歩む五尺の我
観じ進みて遂に悟る無限の生

〈解説〉三世（過去世・現世・来世）に現れた、また現れるであろう森羅万象（いのちのある生物も、いのちのない無生物も）は、ことごとく創造主によって創り出されたものであり、すべて自分の兄弟である。もっと深く考えれば、神に於てみな一体である。内観に内観を深めて行った結果、「この小さく見える自分というものは、何と無限に広がる大きな存在だろう。この短く思われる生命とは、何と永遠に生き通す長いものであろう」という心境に到達した。

人間悉弟昆

人間神児悉弟昆
人欺我我不欺人
人為仇我我不報
左手打右手不忿

人間神の児悉く弟昆。
人我を欺くとも我人を欺かず。
人我に仇をなすとも我報いず。
左手右手に打たるとも忿らず。

〈解説〉「人にはだまされても、人をだまさない」という自分の信条を入れた漢詩を作って下さい、という未知の人からの依頼があった。私も同じ心境にあるので喜んで応じた。ところが出来上がった詩は韻は踏んであるが、平仄を全く無視し、同字不重出、二字二字三字や四字三字その他の規則を大きく破っている。絶句の態を成していない。にもかかわらずこれを差し上げた。願いは、この詩の中にこめられている深い哲理を味わって頂くことにある。

（筆者、塩谷先生は九〇歳近いご高齢ながら矍鑠として宇宙哲学を研究実践しておられる方。令弟の塩谷農学博士と共に日本GAP創立時より御援助を頂いている。東京世田谷区で長く開業しておられたが、現在は隠退され、熱海市で静かにすごしておられる）

White Letters "GAP" Appear in the Blue Sky!
by Akiko Oyama

青空に「GAP」の文字が！

大山昭子

群馬県と栃木県を通る県道館林・藤岡線を、藤岡から館林に向かって車を走らせていました。ときは一九八九年六月二一日(水)、午後六時から六時三〇分頃までのあいだです。

ふと二時間ほど前に見た空を思い出しました。曇った空に光がオーロラのようなカーテンをつくっていたのです。私はその空にひかれて買い物に出たのでした。少しの間、別な事を考えていたのですが、心の奥の方から「今日は絶対にステキな事がある」という気持がムクムクとわき起こってきました。

私は〝ステキな事〟という言葉を頭の中に置いて、他の事を考えずに空をながめていました。

空には雲が広がり、太陽のところが少し色づいていました。板倉北小学校を越えた坂を下り、再び空を見上げると、大きな雲の中央にオレンジ色の光の点が見えました。

「太陽がこんなふうに見えることがあるのかしら？　本当に自然で不思議。今日は二つもステキなことがあった」と思いながら、ふとその雲の上を見て、私の頭は空白になってしまいました。「GAP」という文字がきっちりした形で並んでいるのです！

まるで青空に白インクで印刷したように見事に！

それは雲とは思えないほどハッキリした文字です。信じられないという気持のなかに〝メッセージ〟という言葉が浮かびました。

私は全てを覚えようと一生懸命に空を見上げました。文字はそのうちに、GAP→CAP→COP と崩れて変化してゆき、曲線と円の絵のようなもの、次に点々が散らばっているものという順で変化しました。そして東北自動車道の下のトンネルを通って少しすると消えてしまいました。

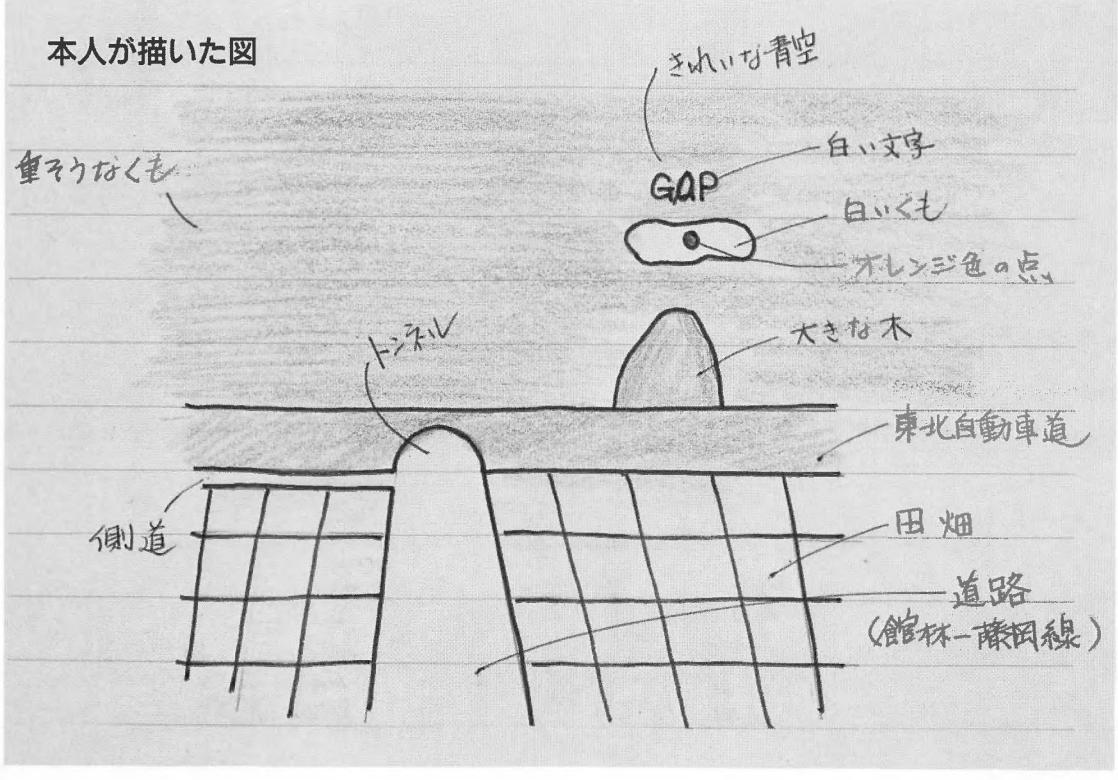
家に着いて急いで友人に電話しました。そして空中の文字は日本GAPの方々へのメッセージだったということに気がついたのでした。

さらに車を止めてメッセージをメモしておけばよかったのに、ということにも気づいたのでした。少し残念な気がしましたが、でも素晴らしい機会に恵まれて幸せです。

文字が見えてから消えるまで五～一〇分くらいでした。同じ道路の、もっと藤岡寄りの土堤のところで本誌102号三九頁の写真と同じような直線の虹を家族とともに見たことがあります。

(筆者は和裁を勉強中の専門学校生。群馬県内に居住。本人の希望により氏名は仮名とした。幻覚ではなく確実に目撃したと断言している)

本人が描いた図

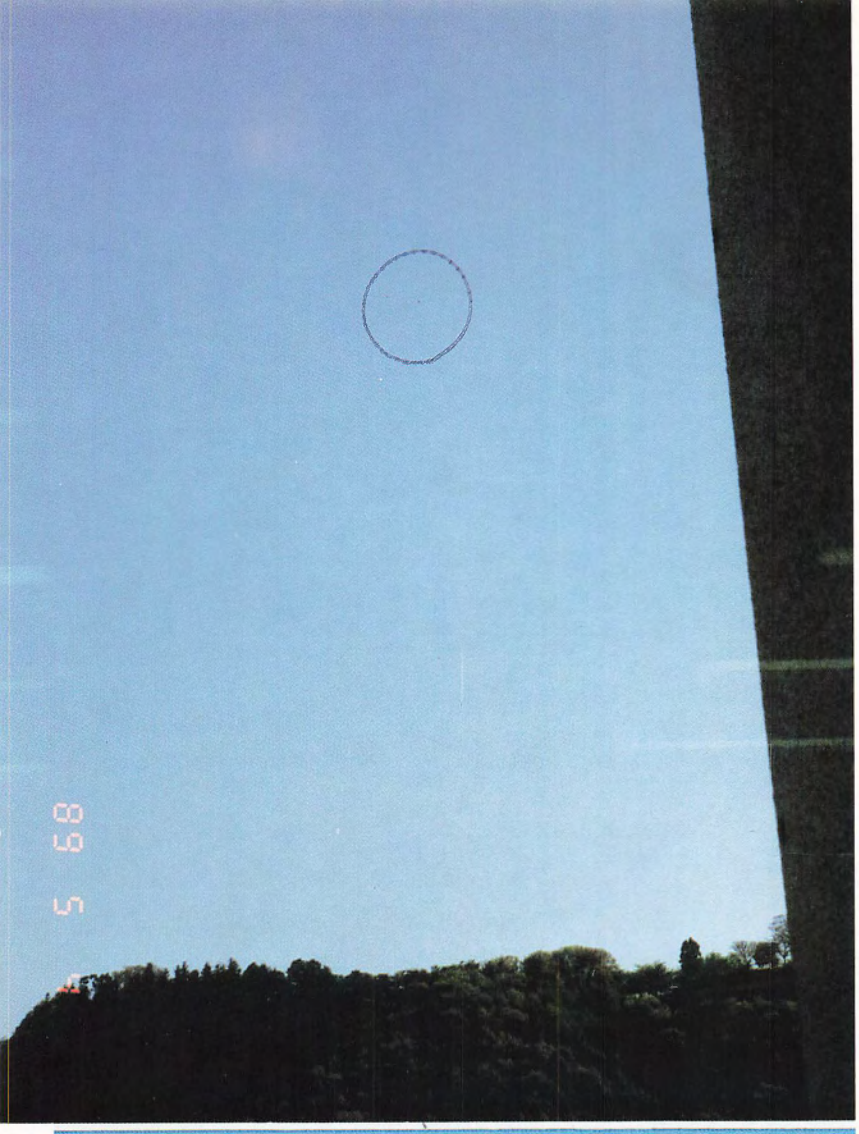


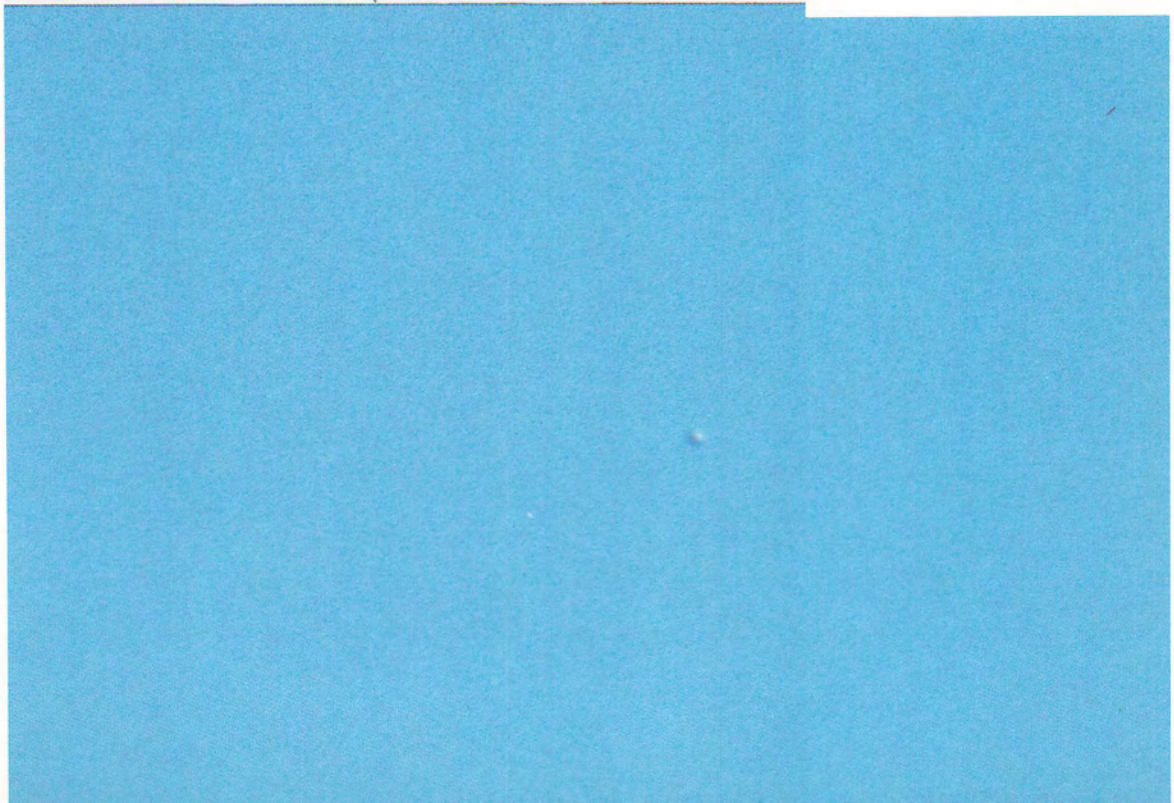
●天童市に出現したUFO

UFO Flying over Tendo, Yamagata
Photo by Takeshi Motoi

一九八九年五月四日、山形県天童市の中央公民館にて第一〇回目の山形・仙台合同支部大会を開催中、突如窓外の山の上に白い球型のUFOが出現、場内にざわめきが起こった。数名が目撃したが、元井武士氏（横浜）が見事にカメラでキャッチした。上の円の中に写っている物体を大きく伸ばしたのが下の写真。春川正一氏によれば、母船からリモコンで操作されている無人の小型円盤だという。

カメラ＝コニカMR7QLX、オートデート。レンズ＝三八ー七〇ミリズーム、望遠にて撮影。フィルム＝コニカSRV一〇〇





UFO Taken from Mt. Fuji
Photo by Hirobumi Ikawa

●富士山から撮ったUFO

UFO観測のメッカ富士山二合目には、やはり出現する！

▲1988年5月のある日、富士山2合目へUFOの観測に行った井川博文氏（神奈川県・GAP会員）は、黒雲をバックにオレンジ色に光るUFOが出現したのをカメラに収めた（中央左上）。

カメラ＝ミノルタα7000。レンズ＝AF35−70mm。フィルム＝フジカラー100。

＜日本GAP東京本部役員＞

月例会、総会その他で活躍する東京本部役員は現在12名。宇宙哲学の実践に精励し、久保田会長を中心に一体となって万全の態勢をしいている（1989年9月3日、東京文化会館にて）。

前列左より斉藤庄一（東京）、田中正（千葉）、久保田八郎（東京）、篠芳史（神奈川）、遠藤昭則（千葉）。
後列左より斉藤竹子（東京・斉藤夫人）、越崎裕子（東京）、佐塚崇子（東京）、田中淳（埼玉）、佐藤忠義（東京）、安藤澄雄（東京）、遠藤由貴子（千葉・遠藤夫人）、松村芳之（東京）。

本誌バックナンバー掲載記事目録

※印は絶版。在庫なし。お申し込みの際は郵便振替にて日本GAP宛ご送金下さい。バックナンバーに限り送料は不要です。

No.106 平成元年7月25日発行 ¥900

金星から知的メッセージを受けたマリナー2号――G.アダムスキー
アダムスキーに会った唯一の日本人②――向井 裕
宇宙哲学で奇跡を起こす方法――久保田八郎
ヒーリングとテレパシー――遠藤昭則
テレパシー現象の医学的考察――N.H.M.D.
UFO-宇宙からの完全な証拠⑨――ダニエル・ロス

No.105 平成元年4月25日発行 ¥900

デザートセンター円盤着陸事件―久保田八郎/篠芳史/坂本貢一・茂子
アダムスキーに会った唯一の日本人①――向井 裕
過去生透視法とその実例②――遠藤昭則
輝く星々の彼方へ――斉藤庄一
長野県に巨大UFO出現!――博田文喜
UFO-宇宙からの完全な証拠⑧――ダニエル・ロス

No.104 平成元年1月25日発行 ¥900

UFO問題と世界の運命――久保田八郎
アダムスキーの宇宙的カルマと異星人の援助―アリス・ボマロイ
デザートセンターで円盤着陸痕跡発見/―安藤澄雄/久保田八郎
過去世透視法とその実例――遠藤昭則
UFO-宇宙からの完全な証拠⑦――ダニエル・ロス
GAP活動の原理――ダニエル・ロス

No.103 昭和63年10月25日発行 ¥900

アダムスキーの体験は真実だった/――アリス・ボマロイ
我らの惑星に愛と希望を――久保田八郎
カイロ上空に輝くUFOが出現――伊東芳和
私のUFOコンタクトと宇宙的目覚め――富岡設子
UFO-宇宙からの完全な証拠⑥――ダニエル・ロス

No.102 昭和63年7月25日発行 ¥900

UFO目撃で驚嘆、大変化した私――後藤泰二
仙台市上空にUFO長時間出現――遠藤昭則
富士山周辺でテレパシーに応えるUFO群――長沼宏志
ミラクルワードとイメージ法で奇跡を起こす――田中 正
良い想念であなたの環境は良くなる
UFO-宇宙からの完全な証拠⑤――ダニエル・ロス

No.101 昭和63年4月25日発行 ¥900

宇宙的家族のUFO目撃の日々――坂本茂子
精神的指導者に対する警告――G.アダムスキー
円盤の窓から手を振る"異星人"――齊藤庄一
長野県に出現したUFOの大群――博田文喜
頻繁なUFO目撃と超能力体験――佐々木八郎
UFO-宇宙からの完全な証拠④――ダニエル・ロス

No.100 昭和63年1月25日発行 ¥900

UFO問題とアダムスキー――久保田八郎
富士山二合目から目撃したUFO――遠藤昭則
私はこうして超能力を開発した――坂本正廣
アメリカの不思議な土地――水野和彦
UFO-宇宙からの完全な証拠③――ダニエル・ロス

No.99 昭和62年10月25日発行 ¥700

UFO-宇宙からの完全な証拠②――ダニエル・ロス
山中湖畔で空中を飛んだ自動車/――清水 南
富士山にUFOが大挙出現――清水敏恵
〈写真〉大分市上空のUFO
アダムスキーの大地とマヤの国へ――久保田八郎

No.98 昭和62年7月20日発行 ¥700

木星の衛星イオに古代都市跡を発見/
UFO-宇宙からの完全な証拠①――ダニエル・ロス
静岡市上空にUFO頻繁に出現――遠藤昭則
太陽系惑星にまだ仲間がいる?
連夜のテレパシー送信に応じて出現した円盤――片岡 豊
万物の実体と想念の重要性――知念清邦
私は別な惑星へ行ってきた/(最終回)――春川正一

※**No.97** 昭和62年4月20日発行 ¥700

驚異の『生命の科学』と円盤大接近――伊藤達夫
八王子市でUFOを撮影――降簱和彦
別な惑星の偉大な人類と文明――G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきた/④――春川正一

※**No.96** 昭和62年1月20日発行 ¥700

私のオーラ透視とテレパシー現象――清水 南
京都市上空にUFO5回出現――久保田八郎
想念放射、透視、UFO目撃――遠藤昭則
UFOと心霊は無関係――G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきた/③――春川正一

※**No.95** 昭和61年10月20日発行 ¥700

茨城県千代田村のUFO――日本GAP茨城支部
アダムスキー問題に対する考察――内田格男
私のUFO目撃と不思議な体験――中嶋順子
ジャンボジェットに並行して飛んだ円盤――久保田八郎
私の別惑星訪問体験とアダムスキーの真実性――春川正一

※**No.94** 昭和61年7月20日発行 ¥700

テレパシーで飛来した真っ黒い円盤――堀江健一
八丈富士山麓でUFOを撮影――谷口美雄
地球を救う愛の想念放射運動――山崎清美
母船の周囲には人工大気層がある――G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきた/②――春川正一

※**No.93** 昭和61年4月20日発行 ¥700

月面にいた2機のUFO/
超低空に出現した大型円盤と黒い人影/――笠原弘可
私も光体を見た――伊藤達夫
多くの館――G.アダムスキー
質疑応答――G.アダムスキー
私は別な惑星へ行ってきた/①――春川正一

※**No.92** 昭和61年1月20日発行 ¥700

偉大な惑星から来た兄弟たち――野口敏治
サン・ピエトロ大寺院の異星人――久保田八郎
米トップ科学者、UFO墜落の事実を認める―ゴードン・クレイトン
質疑応答――G.アダムスキー
地球の哲学と宇宙哲学の相違(完)――松原眞弓

※**No.90** 昭和60年7月20日発行 ¥700

朝霧高原の不思議な"月"――伊藤達夫
旭川にも月擬装UFO出現――石川晴道
尾道市に出現したアダムスキー型円盤と母船
ムーンゲート第14章(完)――ウィリアム・L・ブライアン
アダムスキー問題の真実性と宇宙哲学実践法―久保田八郎

※**No.91** 昭和60年10月20日発行 ¥700

円盤に乗った日本人少年――伊藤達夫
ブラジル人教授の円盤搭乗事件
質疑応答――G.アダムスキー
太陽系の惑星に知的生物が存在!?
地球の哲学と宇宙哲学の相違②――松原眞弓

Letters ユーコン広場

投稿歓迎 字数を問わず。匿名発表可なるも住所氏名明記のこと。

「アメリカ・南米宇宙口ードの旅」に参加して

貴重な体験とやさしさ

東京　篠崎典子

成田で先生や皆さんとお別れして早くも一週間が過ぎましたが、電話での先生のお声がとても若々しく聞こえ、時差ボケをきめこんでゴロゴロしていた自分が恥ずかしく思われました。

旅行中は先生はじめ田中さん、仲間の皆さん、貴重な体験とやさしさを有難うございました。そして先生の存在がいかに偉大で素晴らしいフィーリングをもたらして下さるか、今しみじみと感じて感謝しております。それでは九月の総会を楽しみにしております。

あたたかい祝福に感謝

横浜　元井鮎子

このたびの旅行の行程での一夜、ハワイで結婚式を終えてきたばかりの私達のために披露パーティーを開いて頂き、久保田先生をはじめアリス・ポマロイさん、田中さん、参加者の皆様からあたたかい祝福を頂き、楽しい思い出を持つことができまして厚く御礼を申し上げます。

今回の旅行では数多くの貴重な体験をさせて頂きましたが、中でも特に印象に残ったことを二〜三述べさせて頂きます。

一、デザートセンターへ向かう途中ちょっと変わった虹が二カ所に見えまして、バスから降りて全員でそれを眺めていたとき、側にいらしたポマロイさんはどう見ていらっしゃるのかと思い、私が「レインボー」と言って指さしましたら、「あれはブラザーズです」とおっしゃるので、私が「本当ですか」と聞きましたら、「あなたは本当だとは思わないのですか」とおっしゃっていました。その言葉でパッと明るく嬉しい気持にさせられました。

二、パロマーガーデンズはとても良い雰囲気で、「私はこの場所が好きだ」と思いました。一週間ぐらいここでキャンプをしながら、アダムスキー氏のこと、宇宙の話などをしながら過ごせたらどんなに良いだろうかと思い、そのまま戻ってしまうのが残念で残念で仕方がありませんでした。

三、ティティカカ湖の葦を積み重ねて作られた浮き島で生活して一生を送っているウロス族が印象的でした。彼らの人生はなんだか頼りない儚い(はかな)ような気がしましたが、どのようなしっかりした陸地に住んでいようが、人の一生は浮き島で生涯を過ごすウロス族と大差はないように思いました。

デザートセンターは宇宙哲学の原点

神戸　長濱富春・正子

今年のGAP海外研修旅行はアメリカと南米ペルーという文字が目にとまりました。即座に「行きたい」「行こう」と二人の考えは一致しました。金銭的な懸念もありましたが、「明日のことは思いわずらうな」ということで参加しました。

ペルーという言葉の響きはなぜか日本人を強く引き付けるものがあるようで、遠い昔にさかのぼれば、日本とペルーは目に見えない所でつながっているように思われます。ということで私達夫婦も早くからペルーへ、またアダムスキーゆかりの地へ思いを寄せていました。

デザートセンターへ行くときは空が気になり、絶えず窓の外を見上げていました。途中、通常では見られない虹や文字らしき雲が現れ、やはり空からの影響があるのではと、ますます期待は大きくふくらんできました。

オーソン氏とアダムスキーの会見の地、デザートセンターは宇宙哲学の原点であると言えます。この地を訪れることができたことに感謝します。久保田先生説明のコンタクト地点に足で、腰で、手で感触を味わいました。そして宇宙哲学をさらに深く学び、自己を進化させ、まわりに啓蒙する努力をしていかなければと考えを新たにしました。

次の訪問地ペルーでは、町や道行く人の様を見て、なんと貧しいのかと驚きました。だが、慣れるにつれて澄んだ青空のもとに時間にとらわれない伸びやかな大らかさを感じ、いままでの自分たちの生活を見直したりもしました。ここでの生活もなかなか結構なものです。ただし高山病(?)による頭痛には少々まいりました。マチュピチュ、ティティカカ湖、ナスカの地上絵など、どれも素晴らしいものでした。

旅の重要な意義を知る

東京　伊東芳和

旅はいつも新鮮な喜びと驚きを分かち与えており、望むならば無限の知識が太陽の恵みのようにサンサンと降りそそいでくれる。我々の心が先生がいつも言っておられる「万物と一体」となっていられるなら、それは何事にも代えがたい感動と明日の指針で満たされているのに気付くはずである。今回の旅行も開放されたフィーリングで参加させて頂いた。

このような類のない旅行を一〇有余年間続けられた久保田先生のご苦労に深い感謝を感じるものである。また田中さんにはいつの旅行にも多大なお骨折りを頂き、心よりの御礼を申し上げるとともに、同行の皆様にも何かとご迷惑とご協力を頂いて深く感謝している次第である。

行きの飛行機の中では隣の二人連れの見知らぬOLの女性と話したが、「UFOの話をテレビで見たり聞いたりするけど、まさか隣にそのような話をする人が座るのは——」と、相手は逆に驚いていた。ロスアンゼルス到着一時間前、丸い白い物体が機の後方に流れて行くのが見えた。「早くも現れたなあ」と心が高揚してきた。

デザートセンター！　それはアダムスキー氏の書物に触れて以来、二〇数年間もあたためてきた言葉であり、私の心の内奥にとどだえることなく響き渡った言葉でもある。広い地球なのに、どうしてこの場所がコンタクト地点に選ばれたのか、今までよく理解できなかったが、今回の訪問でその疑問も氷解した。ファインダーを覗いて歴史的な一場面の参考人となり、やっとたどり着いた安堵感と高まる興奮に、小さいながらも自分の生き方に確信を見る思いがし、宇宙哲学の実践の重要性を感じた。翌日のパロマーガーデンズも高貴な波動が伝わってくる場所で、私は二度目だが、優しさが満ち溢れている感じがした。

アンデス文明の地、ペルーの首都リマの混雑ぶりは発展なのか後退なのか分からなくなる。社会主義政策の生みの苦しみなのだろう。クスコの抜けるような空の青さと静寂、澄み渡った空気のおいしさは、旅のつかのまのオアシスとなった。カミソリの刃一枚も通さないインカ時代の石工技術の巧みさには舌を巻くしかない。さらに謎なのが空中都市マチュピチュである。一般にインカ時代に構築された遺跡と言われるが、とても信じられるものではない。

クスコからアンデス高原列車で南下する途中、標高四三〇〇mの「ララヤ」という駅では、出発までの三時間を外の草原ですごし、冷たい空気中、枯れ草に腰を沈めて母娘三人ずれのインディオからジャガイモの蒸したのと羊の干し肉を分けて頂き、楽しく時間をすごした。

四国の半分ほどの大きさのティティカカ湖の入り江は波静かで、彼方の雲が水面に映える様子は、愁(うれ)いに

満ちたインディオの瞳のようでさえあった。葦で作られた浮き島はワラの上を歩いている感じだ。

最後のハイライトはナスカの地上絵。これを見ないことにはペルーへ来た甲斐がない。初めて乗る四人乗りのセスナ機から眼下を見ると、写真で見る以上に絵そのものは輪郭が薄くなっているような気がする。それにやたらと車の通った跡が残り、本来の絵との区別がつきにくくなっている。マリア・ライヘ女史がこの遺跡の保存のために尽力したという話は本当によく理解できた。アンデス文化の不可解さは、この地上絵で極め付きになり、ない知恵を絞ったところで解答は出ないと観念し、眼下に繰り広げられた地上絵ショーにただただ魅了されるばかりであった。

大旅行を終えて無事帰国できたことに感謝したい。

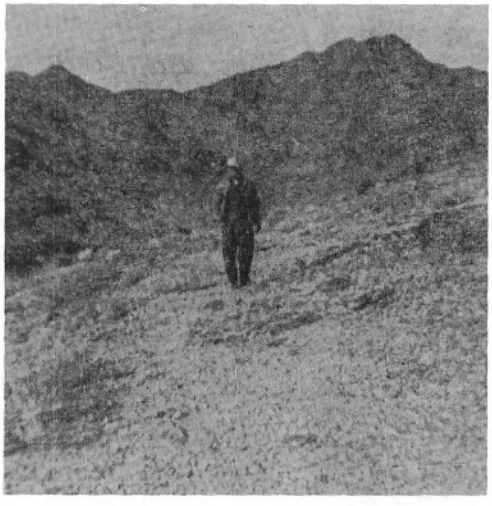
三倍楽しめた旅行

埼玉県　田中　淳

「ぜんぜーん困りませーん」

現地ガイドの篠田さんのかるーい一言。なんてアバウトを極めながらプラス思考を端的に表している一言であろうか。ペルーのクスコからマチュピチュの遺跡行きの高原列車の中、ペルーの列車事情の話。

ペルーでは列車が時間どおりに運行することはめったにない。何時間も止まることは日常茶飯事。篠田さん曰く、「料金の払い戻しはありませーん」。話のはずみから「もし止まってしまった場合はどうするのですか？」と一行の一人が質問。そこで篠田さんは最初の言葉を一言。当事者である我々にとっては非常に重要な質問（であると思うのは我々だけ？）。何と無意味な愚問？（と思っていると感じられる篠田さんの大きい顔！）なーんにもないこの大アンデスの山の中、何時間もの間ジッと列車が（運良く）動き出すのを待つ日本人の顔、自分はどっちかなあと頭の中に問を残しながら、行きは順調。帰りは？と思っていたら止まってしまった。（運良く？）ほんの三時間ばかり。機関車が故障で、代わりの機関車を待つとのこと。（当然のように停電）本当に真っ暗の三時間。不安感、イライラ等はなく、一行は平静であった。（さすがはGAP）またいろいろなことも――。澄み渡った星空、大河のミルキーウェイ、感動の南十字星、UFO？etc…があった、三時間であった。そこで結論「ペルーもいいなあ」



▶一九五二年一一月二〇日、デザートセンター砂漠地帯の円盤着陸地点に立つアダムスキー。

▶一九八九年八月一〇日、上の写真と同じ場所に立って説明する久保田八郎。　撮影／長濱富春

GAP旅行団について一言。始めての研修旅行参加。一行のほとんどの人と初対面。少しの気負い。そんな中、チョッと緊張でした。しかしそれも最初のロサンゼルスまで。一行は短時間の間に全く違和感のない団体にベールを脱ぐように変身した。小学校、中学校、高校と何回かの修学旅行を思い出させる何かがあった。「楽しい雰囲気」。この旅はGAPの一体感、郷愁、懐かしい匂いを本当に強く感じさせてくれた。やはり先生がよく話される「GAPは同質結集」なんだ。

この旅行に参加を決めさせて頂いたのは、デザートセンターへ、パロマーガーデンズへ行きたい、行ってみたい、その二つでした。南米ペルーはあまり意識しなかった。ところがこの旅、なかなかのボリューム。デザートセンターの小石三個（良き波動？）、等々三倍は楽しめました。

アッというまの一二日間、最低あと一週間はいたいと、思わず考えてしまったこの旅行、これを企画、引率頂いた久保田先生、田中さん、案内のガイドの方々、参加された一行の皆さん、ご支援頂いた会員の皆さん、大変お世話になりました。「本当に有難うございました」

素晴らしい東京月例会

岩手県　大沢　悟

八月の素晴らしい東京月例会に出席させて頂き、感謝しております。また先日は手紙のご返事を頂き、有難うございました。先生が私の味方をして下さるということは非常に心強く有難く思います。月例会のとき「心配することはない」の先生のお言葉に、これからどんどん良いことばかりになるような予感がしました。

それにしても先生のご講義はものすごく熱の入ったものすごいパワーでした。実に有益重要な教えの詰まった内容でした。内部の意識と一体化したときに本当の絶大な信念が起こってくるとか、一割、九割の話等、全部書いていたら長くなるので、これぐらいにします。テープで何度も聴くべきものです。

元井武士氏の講演、遠藤昭則氏のテレパシー指導、近況報告の中での先生のティーチング、質疑応答等、すべてが有益で素晴らしく感じ、これは東京月例会に毎月出なくてなんとすると感じるばかりです。もっとも私はそんな素晴らしい東京を離れるのですが――。これからはどこにいても心と意識の一体化にはげみま

す。私が奇跡を起こして先生にご報告をする日が来るのを楽しみにしています。

どうぞ先生の意識から私を除外せずに今後ともご指導をよろしくお願い申し上げる次第です。このことが言いたくてペンをとりました。ではますますのご活躍を。

「アダムスキーに会った唯一の日本人」を讃える

香川県　高橋　稔

「アダムスキーに会った唯一の日本人」(2)を興味深く読みました。向井裕先生のこんな真面目な顔が若かりし頃だったのかと、母と二人でびっくりしたり笑ったりしています。

ユーコンを高松市立図書館へ寄付したからと向井先生が言われるので、一般閲覧室へ見に行きました。高松市立図書館印のある一〇五号が雑誌コーナーに並んでいました。

向井先生の行動力に負けまいと、私も「サントリー夢大賞」に「地球製UFOに挑む」文章とビデオを応募しました。また、磁気に関する特許を一つ出願しました。いつかユーコンで発表できる機会があれば光栄に思います。

私は九年前、UFOに吸い上げられ、「UFOと宇宙」五九号、六三号に載せられました。それ以来、私は画家になり、いまピカソ美術館会員に選出されています。私の「未知との遭遇」と題する抽象画は東京美術館展に入賞しました。私の絵は現在、一号一〇万円です。ユーコン一〇五号の向井先生の写真の左が私です。またバックの絵が右の「未知との遭遇」で、高松市の宮武画廊の私の個展会場で写したものです。

日本GAPの益々の御発展をお祈りいたします。

ユーコン一〇六号を読んで

三重県　松口幸之助

ユーコン一〇六号を昨日頂きました。まことに有難うございました。表紙はUFO写真に合った色で、写真が空中に浮き上がった感じで、見やすいです。UFO写真が表紙の半分ぐらいにしてあるので、効果的でいいなと思います。表紙の見出しもカラフルで、いつもの白抜きの逆で宇宙的な高揚が感じられます。楽しいフィーリングが起こります。ありがとうございます。〈巻頭言〉の記事は先生がこれまでUFO問題の活動をやってきた精神レベルの成果であるとつくづく感じます。完璧という感覚が伝わってきます。意欲と信念が沸き起こってきます。一七頁の「奇跡を起こす方法」は、ものすごい愛と希望に満ちた波動が伝わってきます。これは私のために与えられた記事だと思い、一番先に拝読させて頂きました。まことにありがとうございました。遠藤昭則氏の「ヒーリングとテレパシー」はこれからの私の将来に役立つと思います。遠藤氏にはいつも暖かい親近感を感じます。ありがとうございます。

私はこれまでマイナス想念でやってきたと思いますが、それを気にせずに「絶対プラスの想念」でやっていこうと思います。たいへんですが、頑張ってやっていこうと思っています。いろいろとありがとうございました。

死について。差別について

東京　和田英次

私達は宇宙において、すべてが一刻一刻と変化しているのを知っています。私達の体でさえそうです。しかし変化しないものが一つあります。それは真理です。そこで、私達自身を考えてみますと、私達の体は常に変化するにもかかわらず、真自我は変化しません。なぜなら、時間がたつうちに私が他人になってしまうことは現実にありえないからです。私はこの真自我を魂と呼ぶことを好まず、それを生命かまたは意識と呼びます。どうしてかと言いますと、魂という言葉には心霊的な側面を帯びているからです。地球人は一般に精心と物質を一極端に分けてしまいますが、宇宙の中にあっては一極端に分かれるものは何もありません。どちらも互いに必要なものであり、片方だけでは存在し得ないことを理解する必要があります。

そこで考えられるのは、あらゆる物質界のものは、あらゆる精神界のものに支持されていると考えるのが普通です。また精神界のものは常に物質と共に、つまり物質の中になければならないのです。そして精神界の中で不変のものは真理であり、私達の生命も真理であります。それで先に述べた事から、生命というものも常に肉体を持つ必要があるわけです。そこで肉体が死んでも生命は直ちに新しい肉体を必要とし、一瞬にして転生が行なわれます。これらのことはアダムスキーの『宇宙哲学』に書かれていますので、参考になります。そういうわけで、私達は死を恐れる必要はありません。

しかし私達が恐れるべきことがあります。それはキリストの福音書にも書かれています。「体を殺しても、魂を殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、魂も体も共にゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい」ということです。私達は大きな波長の中では、小さな不調和な波長は存在しても、長く続かないということを真に理解する必要があります。

私達は調和ある宇宙の中に住んでいます。この宇宙にみられる大きな調和に対して、私達が日常作る不調和は一体どうなるのでしょうか。私達の心は、この宇宙の大いなる調和に反しています。だから、こういう心は必滅の道を歩むに違いありません。そしてまた、このような必滅の心と結びついた不変の生命には一体何が起こるのでしょうか。それはきっと生命と心の関係が崩れて、その生命は他のエネルギーとなって利用されることになるでしょう。だから私達はすべてに対して不調和な想念をもってはなりません。差別し、有頂天になることも結局は自らの生命を縮めているにすぎず、その反動は自分に戻ってくるのです。アダムスキーの『生命の科学』で言えば「神は人を裁かずして、人間が自らを裁いているのだ」ということになります。(以上は筆者が存学する大学へ小論文として提出されたもの)

(予告)1989年度地方支部大会

	第3回長野支部大会
日時	11月5日(日) 午後1：00→5：00
会場と交通	「諏訪湖インあるが」 2F大広間 ☎0266-52-2680 長野県諏訪市湖岸通り2-8-9 ※上諏訪駅下車駅前の国道を左手に進む途中のガードをくぐらず、踏み切りを渡り、すぐを湖方面へ進むと右手茶色の4階建の建物。徒歩約10分。車ならば諏訪インターから約10分。
会費	¥2,000(希望者のみ全員記念写真代¥800を別納。カラーグランドキャビネ判。送料共)
プログラム	司会　中村公一 1:00　支部代表挨拶　博田文喜 1:10　講演「勇気と希望を与え奇跡を起こさせるアダムスキー哲学」日本GAP会長・久保田八郎先生 2:30　休憩・全員記念撮影 3:00　自己紹介・意見発表・質疑応答 5:00　閉会 ※雄大な諏訪湖を一望する会場で久保田先生の宇宙の声を聴いて全身にパワーを充電させようではありませんか。支部一同あたたかくお迎えします。
夕食会	大会終了後、6:00から8:00まで同会場にて希望者による夕食会を開催。 会費＝¥5,000
宿舎	大会会場と同じホテル「諏訪湖インあるが」 ☎0266-52-2680 長野県諏訪市湖岸通り2-8-9 シングル　¥6,330 ツイン　¥11,630 (税サ込) ※各室トイレ、バス付き。温泉の湯が出る
申込	大会、夕食会、宿舎、観光の申込はハガキにいずれかを記して10月25日までに下記へお申し込み下さい(電話にても可)。 〒399-07長野県塩尻市広丘吉田948-4 博田文喜(はかたふみよし) ☎0263-58-8510
観光	大会翌日は諏訪湖周遊市内見学、紅葉のビーナスライン巡りで信州の秋を存分に満喫し、楽しい一日をすごします。会費¥2,000(昼食代別)。9:00ホテル出発、4:00上諏訪駅で解散。
備考	11月の月例会は平常通り開催。

ジョージ・アダムスキー全集

久保田八郎訳　全8巻　B6判・本文上質紙・厚手表紙箱入豪華本

偉大な進化をとげた惑星の人々とコンタクトしたアダムスキーの驚くべき体験と、深遠な宇宙的思想を伝えたこの全集は、人類に宇宙的覚醒と真の生き方を示す最高の指針。UFOと宇宙哲学の研究者必読の名著です。

1 宇宙からの訪問者
三三八頁　二五〇〇円

ジョージ・アダムスキーのあまりにも有名な体験記。一九五二年十一月二十日に米カリフォルニア州の砂漠で金星人と会見した体験「空飛ぶ円盤は着陸した」を本書の第1部とし、円盤や母船に乗り、多数の異星人と会見した実録を第II部とした驚異的な書物。本全集の中心をなす最重要なもの。

2 UFO問題の真相
二六二頁　二五〇〇円

第1巻の補遺的なUFOと異星人問題の真相を詳述。特に円盤の推進理論や、聖書とUFOとの関係を述べた箇所は重要である。第II部はアダムスキーの世界講演旅行記。各国のGAPグループの活動と反応や、サイレンス・グループの妨害が克明に描写されている。

3 UFOとアダムスキー
三五〇頁　二五〇〇円

アダムスキーが実際に体験した母船による宇宙旅行を詳細に述べた「金星旅行記」と「土星旅行記」から成る本書第1部「死と空間を超えて」が圧巻。またアダムスキーが存命中に日本GAP会長・久保田八郎に送り続けたほう大な情報と書簡類を収録して第II部とした。

4 宇宙哲学
一四八頁　一三〇〇円

人間のセンス・マインド(肉体の心)と宇宙の意識との一体化を中心思想として、人間を進化させる方法を明快に理路整然と説く。この哲学は、人間の意識と物質との関係の解明と応用とをめざす21世紀の科学の最先端をゆくもので、アダムスキーの哲学関係三著作の中心となるもの。

5 テレパシー開発法
一九〇頁　一八〇〇円

人間に内在する宇宙的な能力のうち、テレパシー能力の開発法を説明したもの。特に目・耳・鼻・口の四官をコントロールして、内部の意識から来るテレパシックな印象を感受する方法を詳しく解説し、他人と無言の会話を行う技術を述べた、類書の全く存在しないガイドブック。

6 生命の科学
二〇五頁　一八〇〇円

アダムスキーが他界する数年前に出した Science of Life と題する十二分冊の講座を和訳して一書にまとめたもの。アダムスキーの宇宙的哲学の総まとめ的な一大金字塔で、真実のテレパシーと心霊的な霊界通信の相違を明確にし、心霊現象への接近を警告する画期的な書。

7 アダムスキー論説集
三七〇頁　二五〇〇円

日本GAP機関誌に掲載されたのみで、単行本化されていなかったアダムスキーの論説や講演録等を網羅編さんしたもの。特に死去する直前の最後の講演が圧巻。第II部にはアダムスキー研究家として名高い久保田八郎が数度渡米してアダムスキーの高弟たちとインタビューした記事を収録。アダムスキーの偉大な面が描写されている。

8 質疑応答集
二一六頁　二〇〇〇円

アダムスキーは一九五八年に質疑応答集を自費出版で頒布した。五分冊から成る小冊子で、全部で百問の質問と回答が収録してある。内容は現在の混迷した世界のUFO研究界に的確な解答と示唆を与えるものとして驚くほど新鮮である。これで本全集はアダムスキーの重要な文献すべてを網羅した。

発行所宛直接注文の場合に限り、左記のように定価・送料をサービスいたします。(郵便振替または現金書留でご注文下さい)

☆一冊注文――送料無料。書籍代のみご送金下さい。
☆第一巻より第四巻まで一括注文(正価八八〇〇円)――特別セット価格八〇〇〇円(送料共)
☆第五巻より第八巻まで一括注文(正価八一〇〇円)――特別セット価格七三〇〇円(送料共)
☆第一巻より第八巻まで一括注文(正価一六九〇〇円)――全巻セット価格一四七〇〇円(送料共)

■申込先▶文久書林　〒113 東京都文京区西方1-19-10 西方ハウス2F　☎(03)813-9561　振替/東京4-2521

日本GAPでは取り扱いません

英文版UFOcontactee No.5

B5・16頁・コート紙使用
¥500(送料¥175・3冊まで¥250)

日本GAP会長・久保田八郎が心血を注いで編集した英文版Uコン第5号は世界各国のUFO研究団体間で絶賛の的。春川正一氏の宇宙的体験談(第3回)、アダムスキーの質疑応答集を連載する一方、第5号ではデザートセンターにおけるアダムスキーのコンタクト地点発見特報として坂本貢一、ダニエル・ロスの両氏が探索記を執筆。カラー写真数点を掲載。世界のアダムスキー研究家にとって重要な保存版資料。英語学習にも好適。注文は振替か郵便切手でどうぞ。

――日本GAP――

編集後記

★去る九月二三日の東京総会は大盛況裡に終了しました。そこで本号は超能力開発特集号として当日の講演を収録しました。覚醒の思いをされると思います。ただしスペースの都合により秋山眞人氏の素晴らしい講演内容と最後の質疑応答は次号(108号、九〇年一月発行予定)に掲載しますのでご期待下さい。

★八月に実施された「アメリカ・南米宇宙ロードの旅」も大成功でした。「マチュピチュとナスカの謎」でその片鱗をつかんで下されば幸いです。UFOもたびたび出現しました。

★好評を博した「アダムスキーに会った唯一の日本人」は本号で完結しました。有益な内容であったと自負します。

★連載中の「UFO―宇宙からの完全な証拠」はスペースの都合により今回は休載しました。次号より再び驚がく的内容の新鮮な記事が展開します。

★巻頭を飾るアダムスキーの連載記事も本号では「テレパシー開発法とUFOの実態」と題して掲載されました。UFOを心霊と同一視する向きに警鐘を鳴らす内容です。

★この他に有益な資料が山積していますが、おいおい掲載しますので末長く本誌をご愛読下さい。なお書店では消費税込みで九二七円となりますが、GAP会員の会費(誌代)は従来どおり九〇〇円です。会員として四回分以上の払い込みの場合はさらに割り引きされます。多数ご入会下さい。

★本誌は多数の会員ボランティアにより全国の主要書店に卸されています。この協力チームに参加ご希望の方はハガキでお申込下さい。説明書をお送りします。

★読者の皆様、お幸せのほどを。　(K)

日本GAP機関誌・季刊　冬季号
UFO contactee　107号
編集発行人　久保田八郎
発行所　日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511
☎03-651-0958
振替　東京4-35912
一九八九年一〇月二五日発行
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料210円
※本誌掲載の全記事・写真共、他の印刷物への無断転載を禁じます。

平成元年度

日本GAP全国月例研究会案内

支部名	日　　時	会　　場	会 費	プログラム・テキスト
東京本部	毎月第２土曜日　午後1:30→6:00 ※11月のみ第１土曜日（４日）に変更。会場も皇居北の丸公園「科学技術館」６Ｆ第１会議室に臨時変更。 ※12月のみ第３土曜日（16日）に変更。会場は東京文化会館。詳細は本号26頁「ＧＡＰ短信」。	上野公園内「東京文化会館」４Ｆ会議室。 ☎03-828-2111。JR上野駅「公園口」下車。改札口の真向かい。 連絡先＝日本ＧＡＰ本部　☎03-651-0958 ※1990年１月13日の月例会終了後、別会場で新年会開催。会費￥4,000程度。	会場費 ￥500 セミナー 受講料 ￥1000 計￥1500	1:30→2:10 会員による体験講演。 2:15→3:30 久保田会長による講義。 テキスト＝「生命の科学」 テレパシー開発法、テレパシー練習、近況報告、自己紹介、質疑応答。
大阪支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	大阪府吹田市出口町４丁目「吹田市民会館」 ☎388-7351。JRまたは阪急電車吹田駅下車。 連絡先＝平塚和嶽　☎06-436-3478	￥300	東京月例会における久保田会長の講義録音テープを公開。 テキストその他＝東京本部に同じ。
新潟支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	長岡市今朝白１丁目「けさじろ荘」 ☎0258-33-7400。長岡駅東口より徒歩５分。無料駐車場あり。 連絡先＝星 富治夫　☎02579-2-5562	￥500	同　上
名古屋支部	毎月第２日曜日　午後1:00→4:30	名古屋市中区金山１丁目５番１号「名古屋市民会館」特別会議室。☎052-331-2141㈹。 JR東海・名鉄・地下鉄の金山橋より徒歩５分。 連絡先＝林　国宣　☎0586-45-6468	￥300	同　上
仙台支部	毎月第４日曜日　午後1:10→4:20	仙台市青葉区１番町４丁目「141(イチヨンイチ)ビル」内５Ｆ「エル・パーク仙台セミナー室」☎022-268-8300。仙台駅よりバスで県庁市役所前下車、三越デパート隣。 連絡先＝笠原弘可　☎022-295-0725	￥300	同　上
山形支部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※12月のみ第３日曜日（17日）に変更。	山形県天童市老野森１丁目1-1「天童市中央公民館」 ☎0263-54-1511。天童駅から徒歩10分、タクシー４分。天童市役所の裏側。 連絡先＝柴田光明　☎0233-25-3261	￥300	同　上
札幌支部	毎月第１日曜日　午後1:00→4:30	中央区北一条西13丁目「札幌市教育文化会館」会議室。 ☎011-271-5821。 連絡先＝髙野省志　☎011-571-9874	￥500	同　上
旭川支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	旭川市６条通４丁目「勤労者福祉会館」２Ｆ小会議室 ☎0166-26-1304。 連絡先＝川上三秀　☎0166-61-0044	￥500	同　上
青森支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	青森市松原「青森市民文化センター」教養室。 ☎0177-34-0163。 連絡先＝田村嘉彦　☎0177-38-0416	￥500	同　上
沖縄支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00	那覇市寄宮1-2-1「那覇市民会館」１Ｆ、Ａ会議室。 ☎0988-55-5081。与儀公園の隣。 連絡先＝比嘉政広　☎09893-2-2889	￥500	同　上
秋田支部	毎月第２日曜日　午後1:00→5:00	秋田市八橋運動公園1-2「中央公民館」趣味の間。 ☎0188-24-5377。 連絡先＝伊藤正治　☎0188-62-2831	￥200	同　上
横浜支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	横浜市中区万代町2-4-7「横浜市技能文化会館」７Ｆ、703号室。 ☎045-681-6511。JR関内駅、地下鉄・伊勢崎長者町駅より徒歩３分。 連絡先＝滑水　正　☎0488-66-7048	￥500	同　上
茨城支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 ※10月のみ28・29日に常北町「ふれあいの里」で１泊の移動月例会を開催。参加希望者は☎0298-52-3573石井へお申込を。	水戸市梅香1-2「三の丸公民館」小集会室。 ☎0292-24-6600。水戸駅北口より徒歩10分。 連絡先＝滑水勝一　☎0292-73-1903	￥300	同　上
長野支部	毎月第４日曜日　午後1:00→5:00 ※12月のみ第３日曜日（17日）に変更。	塩尻市大門７番町「塩尻総合文化センター」第１会議室。 ☎0263-54-1253。 連絡先＝博田文喜　☎0263-58-8510	￥500	同　上
紀南会	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※代表が長期療養のため月例会は当分休会。	和歌山県新宮市新宮6682-1「新宮市福祉センター」１Ｆ相談室。 ☎0735-21-2760。JR西日本新宮駅下車、徒歩５分。 連絡先＝松口幸之助　☎0735-34-0605(呼・田中)	￥300	同　上
栃木支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00	鹿沼市市役所裏「御殿山会館」１Ｆ小会議室。 ☎0289-64-4334。JR鹿沼駅から西へ1.5km。東武新鹿沼駅から北へ1.5km、市内行きのバスに乗り天神町下車。徒歩５分。 連絡先＝渡辺克明　☎0289-62-3319	￥500	同　上
南九州支部	毎月第３日曜日　午後1:00→5:00 ※６月より旧薩摩会を南九州支部と改称	鹿児島市与次郎２丁目3-1「鹿児島市民文化ホール」 ☎0992-57-8111。 連絡先＝鶴田滑則　☎0993-25-4398	￥500	同　上
高松支部	毎月第１日曜日　午後1:00→5:00 ※11月のみ「高松市立市民会館」第７集会室に会場を変更。市内番町1-8-22。	高松市玉藻町９番10号「香川県民ホール」５Ｆ第１会議室。 ☎0878-23-3131。JR高松駅より徒歩７分。 連絡先＝関 高明　☎0878-88-1334	￥400	同　上

A

あなたも超能力者になれる！

テレパシー能力開発用 ESPカード

テレパシー、透視力開発用のＥＳＰカードはアメリカのデューク大学で科学的に開発されたゼナーカードが主体になっています。色カードは目を閉じたまま各カードの上に手をかざして色の発する波動を感知しながら色を言いあてる練習に使用するものです。堅牢なプラスチック製。

50枚１セットケース入り　使用説明書付き
¥4,800　送料¥360（2〜5個¥670）

B

①オーソン肖像写真　②シンボルマーク

①1952年11月20日、カリフォルニアの砂漠でアダムスキーが劇的な最初のコンタクトをした金星人は「宇宙からの訪問者」第二部でオーソンという名で出てくるが、これをア氏の記録やアリス・ウエルズのスケッチにもとづいて女流画家ゲイ・ベッツが描いた名画の写真。（キャビネ判・カラー写真）上半身写真もあり。定価¥600
②この金星のシンボル・マークの中央にある眼は“すべてを見透す眼”で、宇宙の意識をあらわし、周囲の四層の星は人間のマインド（心）の発達状態をあらわしている。（サービス判・カラー写真）
上記２点共、重要な資料となるものです。他所では入手できません。

①¥600　送料¥120
②¥300　送料¥62
一括注文の場合送料¥120

C

●●●●●●●●● 大いなる信念と勇気を与えるGAP能力開発テープ ●●●●●●●●●

毎月行なわれている日本ＧＡＰ東京本部月例研究会のなかから、日本ＧＡＰ会長・久保田八郎先生が宇宙的フィーリングをもってアダムスキーの名著を解説した講義などが収められたテープ。ドライブ中や、通勤・通学電車内で、あるいは就寝前に聞いたりすれば絶大な信念と勇気がわき起こります。

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ①

内容＝久保田会長による『生命の科学』（G.アダムスキー著）解説講義／近況報告／質疑応答（一部）
テープ１本（120分）　¥1300　送料¥200
※このテープは日本GAPでは取り扱いません

■日本GAP東京本部月例研究会録音テープ②

内容＝テープ①の内容＋遠藤昭則講師によるテレパシー実践講義・テレパシー練習（テキスト付）／質疑応答（全部）
※お申し込みの際はテープ①または②の別をご明記下さい。
テープ２本（90分×２本）　¥1900　送料¥250

◆申込先◆　〒133 東京都江戸川区本一色1-24-3-202　松村芳之　☎03-653-9387　振替・東京0-162644

会員募集

日本ＧＡＰはＵＦＯ研究界の大先駆者・久保田八郎が故アダムスキー氏と提携して1961年に創立したわが国最大のＵＦＯと宇宙哲学の研究大集団！多数の会員と共に宇宙的人間を目指そう！入会案内書をハガキで日本ＧＡＰへ申し込もう！

——日本GAP——

D

GAP特製
テレホンカード

第２弾テレホンカードは大好評裡に品切れ。ここにデザイン一新の上ＧＡＰが放つ第３弾！　アダムスキー撮影の名高いスカウトシップの写真を黄金色であしらった優美なカードは見るだけでも宇宙的高次元なフィーリングを起こさせて心がなごみます。

1枚¥1500 送料10枚まで¥62

E

会員バッジ

実物大

ジョージ・アダムスキーが金星人から与えられた唯一のバッジと形、色共全く同様に複製した径18mmの丸い優美なバッジです。薄青色地に金色のシンボルマークが浮彫りされており、縁も金色です。表面には透明樹脂がかけてありますからキズがつかず、光を反射してキラキラ輝きます。男性用は裏側が心棒ネジどめ式、女性用は裏側が安全ピン式です。ぜひお求め下さい。ご注文のさいは男性用・女性用の別を明記して下さい。
（無断複製を禁じます）

１個¥2000　送料４個まで¥120

F

——幸せを呼ぶ——

GAPシール

シールを製作しました。WITH COSMIC CONSCIOUSNESS（宇宙の意識と共に）の文字がシンボルマークを取り囲む優雅なデザイン。径6cm、5cm、4cm、3cm、2cmの５枚１セット。青と赤の２種類あります。自動車の窓、運転台、カバン、書籍・ノートの表紙、その他の持ち物に貼っておけばいつも宇宙的フィーリングに満ちて気分さわやか。良き想念が良い物事を招きよせます。表面光沢。防水加工。裏面のり付。ご注文の際は青、赤の区別をお忘れなく。

１セット¥900　送料５セットまで¥62

©を除く商品の申込先・申込方法

住所・氏名・電話番号・商品名・種類・色・個数等を明記の上右記へ郵便振替または現金書留でお申し込み下さい。

〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511　日本GAP
振替／東京4-35912　☎03-651-0958

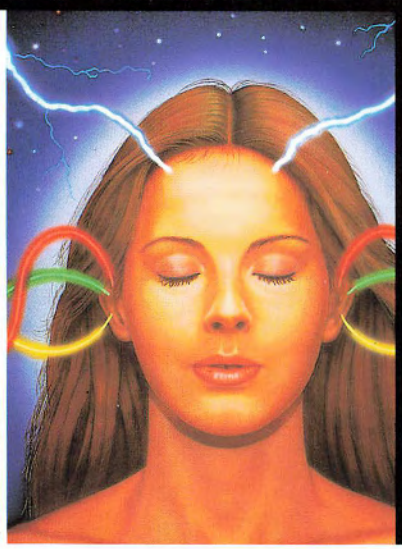
※商品価格に消費税は含まれておりません。

（サブリミナルテープ）
潜在脳刺激法であなたの人生が変わる！

今なら各シリーズを無料試聴できます。

マインドパワー・潜在能力を開発

「マインドパワーの開発」「充実した人生」これらを簡単に現実のものにしてくれる驚くべきテープがアメリカからやってきました。アメリカの著名な心理学者S・ハルパーン博士の開発した〝サブリミナル・プログラム〟がそれ。なにせ美しいBGM音楽を聴き流しているだけで確実な効果があるというのですから、これを利用しない手はありません。



あのハルパーン博士があなたのために制作！

「マインドパワーの開発」「充実した人生」……これらを現実の物にしたい」――これは、どんな人でも多かれ少なかれ持っている共通の願望でしょう。ところが、この夢をいとも簡単に実現してしまうテープがアメリカからやってきたのです。それがアメリカでは知らない人はいないほど有名な心理学博士スティーヴン・ハルパーン氏の開発したサブリミナルテープです。博士の手になるサブリミナルテープは、米国で昨年一年間だけで五十数万本という驚異的ベストセラーを続け、その確かな効果が実証されています。

BGMとして聴くだけで効果が!!

このサブリミナルテープ、耳に聴こえるのは、うっとりするような美しいメロディーの心がゆったりとくつろいでくる静かな音楽だけです。

（日本の曲でいえば〝喜多郎〟の音楽にイメージが似ている。この音楽だけでもストレスを解消し、気分をさわやかにするすぐれた効果がある）しかし、実はこの音楽に、ハルパーン博士が開発した他に真似のできない高度な音響テクノロジーを駆使して、ある心理学的な言葉のメッセージが耳に聴こえない周波数に変換されて入っているのです。（潜在脳に独特の刺激を与える音楽の波長が、耳に聴こえないメッセージの波長を潜在脳へ運び、植えつけてしまう。）

この音楽に交って入っている〝耳に聴こえない心理学的メッセージ〟が、ただテープの音楽を聴いているだけで、潜在能力が開発される。〝充実した人生へ歩み始める〟という現象を引き起こす秘密なのです。

『本を読んだり趣味に熱中している時に、BGM音楽として聴き流しているだけで、夢がかなってしまう』――このアメリカの苦労いらずの科学的プログラムが、ついに日本の皆様にもご利用いただけるようになったのです。

商品お申込み案内書請求の方に試聴用テープを無料進呈！

① マインドパワー・潜在能力を開発 マインドパワーシリーズ〈MDシリーズ〉

あなたの心と体をゆったりともみほぐし、不安・緊張や心と体の疲れを取り除いてくれる宇宙的感覚のα波BGM音楽に、あなたの意識を拡大し、精神力（マインドパワー）や秘められた潜在的能力を自然に開発するサブリミナル・メッセージを同調させたのが、このMDシリーズです。

会社から帰ってその日の疲れを癒したい時、日常生活のわずらわしさから解放されたい時、静かなBGM音楽を流して気分転換をしたい時――そんな時にMDシリーズをBGM音楽としてお楽しみ下さい。各種の瞑想法で得られる「意識の拡大」「α波レベルの脳波の強化」「心の安らぎ」「秘められた潜在能力の開発」「精神力の強化」「人間性・人格の向上」等の効果が得られ、より大きな人間に成長してゆく自分と今まで以上に拡大していく人生を手に入れることができます。

MDシリーズのお届けするテーマの内容は、●完全なる安らぎ●意識の拡大●大いなる自分との出逢い●無限大の心●宇宙意識の目覚め●人間性・人格の向上●愛と慈悲のエネルギー●精神力の強化●偉大な潜在能力の開発●第六感の開発●自由自在な思考力●無限の知恵の獲得

（このシリーズのサブリミナルテープのベース音楽には、ハルパーン博士の友人である〝ヤソス〟の宇宙音楽をはじめ素晴しい瞑想音楽が使われています。）

② 現状を打破し充実した人生を 充実人生シリーズ〈HLシリーズ〉

「今のままではいけない！」「もっと充実した人生を送るために何かをしなければ……」――そう心の中では感じているんだけれど、現状を打破する第一歩を踏み出すキッカケをつかめずに毎日を惰性に引きずられて何となく過ごしてしまっている、という方にお勧めするのがHLシリーズです。

現状から抜け出し新しい人生に向けて第一歩を踏み出す動機づけと、毎日がワクワクするような胸のときめきを覚える充実した人生を送るために必要な能力や行動力を自然に身につけられるよう、魂にひびきわたる美しい音楽にまぎれたサブリミナル・メッセージが、あなたの潜在意識にやさしく語りかけます。

就寝前や、「ちょっとBGM音楽でも流そうかナ」と思った時にこのHLシリーズを軽いBGM音楽としてお楽しみ下さい。

HLシリーズのお届けするテーマの内容は、●現状を打破する●目標・計画づくりの習慣●惰性からの脱却●最高の人生を考える●自分の可能性を試す●すぐ実行する習慣●必要な読書・勉強の実行●毎日ベストを尽くす●プロフェッショナルをめざす●向上意欲の強化●充実した人生を生きる●大いなる未来へはばたく

（このシリーズにはヒプノシス・プログラムは付いていません。各テープともA面B面を通してオートリバースでお使いになれます。）

※このHLシリーズには、充実人生計画シート、充実人生コンセプトシートが付いています。

●スティーヴン・ハルパーン博士のプロフィール●

音楽・音・言葉の潜在意識への作用の研究で世界的にその名を知られる心理学博士。学者であると同時に〝瞑想音楽の神様〟としても米国はもちろんヨーロッパ各国にその名を知られ、世界的なファンを数多く持っている。博士の音楽は鑑賞用の音楽としても高く評価されているが、博士の長年の研究のエッセンスが凝縮した〝音楽の薬〟としての効能も医学・心理・教育関係者の間で高い評価を受け、いろいろな分野で博士の音楽を取り入れている。ガイザー・パーマネント病院をはじめ全米の一流の医療機関では、博士の音楽を薬品の代わりとして患者に与え著しい効果を上げている。

今、お申込みの方・案内書請求の方に（先着500名）サブリミナルテープ1本を無料プレゼント中!!

今、お申込みの方・案内書請求の方先着500名に、ハルパーン博士制作の心身をくつろがせ、大脳の活性化にもとてもよい、アメリカで人気のサブリミナルテープをプレゼントしています。

今なら無料試聴でき特別価格で購入できます

●MDシリーズ　●HLシリーズは一年間の会員制の頒布会方式でお届けします。お申込後、毎月各テーマ別のテープを一巻ずつ（テーマによっては二巻）お届けしていきます。お支払いは毎月テープ到着後に4,800円（送料300円）。第一回目およびそれ以降もテープ到着後5日間の無料試聴期間を設けていますので、気に入らない場合は自由に返品できます。又、途中退会も自由です。

■今回ご紹介したシリーズ以外にも、「高速学習セット」「魅力的性格」等のシリーズがございます。詳しい案内書をご希望の方は、お電話あるいはおハガキで『案内書希望』とお申込み下さい。

〈お申込みは、官製ハガキ・電話で今すぐ!!〉

住所・氏名・年令・職業・電話番号を明記の上、「□□シリーズ試聴希望」又は「案内書希望」と在記までお申込み下さい。

〒107　東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社　UFC⑩係
電話　東京 03(479)5664
（受付AM8～PM24　日・祭日も受付中）

（ご注意）●このサブリミナルテープは通常は一巻7,800円で販売されており、今回の価格は頒布会員にのみ有効な特別価格です。●サブリミナルテープは聴いた人に確実に影響を与える強力なものです。内容を告げずに第三者に無制限に聞かせるのは絶対にお避け下さい。

UFO contactee 107号
一九八九年一〇月二五日発行　発行所　日本GAP
〒133 東京都江戸川区本一色1-12-1-511　振替　東京4-35912
定価九二七円(本体九〇〇円)・送料210円

潜在能力が目覚める――『記憶力・集中力の増大』『知能の向上』
真の自分が目覚める――『恋愛・人間関係成功』『強い自分の養成』

あなたを変える驚異のヘッドホン

アメリカで数年前から話題になっている、
『大脳の脳波を誘導し、
人間の無限の可能性を引き出す
というヘッドホンが遂に日本へやってきた。
普通のヘッドホンと同じように
音楽等を聴いているだけで、
内蔵されたパルス波発生装置が作動して
大脳を心地よく刺激してくれる。
何度も愛用しているうちに
知らず知らずのうちに潜在能力が開発されたり、
精神力が強化されてしまうというしかけ。
一度、試してみる価値はある。

●右耳、左耳片方だけにパルス波を流すジャック付
●高音質ステレオ・ヘッドホン仕様
●D/Cアダプター付　●能力開発マニュアル付

『シンクロ・アルファー』と呼ばれるこの特殊なステレオヘッドホン。ヘッドホン内部に組み込まれた特殊な周波数のパルス波発生装置にその秘密がかくされている。使い方はとても簡単。目的に応じて4つの周波数の中からひとつを選び、スイッチを入れるだけ。あとはヘッドホンを装着して、勉強する、雑誌等を読む等くつろぐ、普通のヘッドホンと同じようにラジカセ等に接続して好きな音楽を聴くだけ。(パルス波は耳に全く聴こえないから、勉強や音楽鑑賞の邪魔になることはない)

アメリカの有名な医学者、M・ギルラ博士の研究で明らかになった、大脳の脳波を共鳴(シンクロ)させる特殊な周波数のパルス波。『シンクロ・アルファー』から発生するこの特殊なパルス波の刺激によって大脳が活性化され、『学習能率向上』『記憶力・集中力の増大』『知能の向上』『精神力・性格の強化』等々の数々の効能が全く努力なしに得られる。

『シンクロ・アルファー』の使い方

①自分の好きな音楽を聴く――音楽鑑賞をしながら、潜在脳力開発や自己開発ができる。
②アルファー波音楽テープ、サブリミナルテープ、自己暗示テープを聴く――これらのテープの効果をより一層引き出すことができる。
③勉強中に利用する――BGM音楽をかけながら、あるいは全く無音の状態で使用し、学習能率を上げ記憶効果を倍増させる。
④読書中や他の事をやっている時に装着する。
その他、テープ教材の記憶学習用に、安眠誘導用あるいは眠気防止用にと幅広い目的で利用できる。

①安眠・深いくつろぎ・性格改善
②瞑想・直観力開発・知能開発・精神力強化
③記憶力、集中力強化・学習能率向上
④大脳の覚醒・自信、意欲、行動力の強化――の4種類の目的に応じた使い分けができる。

シンクロ・アルファーの多様な効能

■『シンクロ・アルファー』は、4種類のパルス波の周波数モードの切換えができ、

7日間無料試用できる

この『シンクロ・アルファー』ステレオヘッドホンを今なら7日間無料試用できる。

■価格(消費税3%は別)
一括払・一九、八〇〇円(送料八〇〇円)
分割払・三、五〇〇円×6回(送料同)

■申込み方法
商品名・住所・氏名・電話番号・年令・職業・一括分割の別を明記の上、左記までハガキか電話で。

α波音楽テープ無料プレゼント中!

今、お申込みの方にもれなく、大脳を活性化させ心をなごませるアメリカでも人気のα波音楽テープを一本無料でプレゼント。

〒107 東京都港区南青山1-26-4
アメリカンライブラリー社 U⑩係
電話 東京03(479)5864
(受付AM8～PM24日・祭日も受付中)